

★2022年4月「教育学部」・「プロフェッショナルアーティストコース」新設スタートへ (P.32, P.56)。

★「オンライン面接ブース」新設 (P.19)、地元新聞に後援会学生支援活動の記事掲載 (P.14)。

B BORDERLESS

Challenge to the future

Vol.72 2022.3.31

ポストコロナ時代の大学と後援会

【特集】後援会会长矢野章子 / 副会長(総務委員長)荻須紀子 /
副会長(事業委員長)小池真紀子 / 監事菊井政右衛門 /
学校法人経営本部学務部長山田芳樹 / 広報部長岡田卓哉 /
学務部学生支援チームリーダー伊藤元房・水口洋輔

Realize a peaceful world without war and COVID-19!



名古屋芸術大学後援会報

NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

La creazione di Adamo
Di Michelangelo

CONTENTS

目 次	
1	【追悼】長江政則氏
2	卒業生に贈る言葉 後援会会長
3	卒業生に贈る言葉 学 長
4	名芸の卒業に寄せて 理 事 長
5	【特集】ポストコロナ時代の大学
9	【特集】ポストコロナ時代における大学と後援会 —課題と展望—(DIGEST)
11	【特集】学生支援活動の報告・研修会報告
14	【特集】2021年度 出会いと挑戦の1年間 ～感謝の言葉
15	【特集】「キャリア二刀流」で学生支援
16	【特集】学生支援チームからのご報告
17	〔就活最前線〕私が就職内定をもらうまで
19	後援会ニュース(面接ブース・壁の華・大学院)
21	親の想い
22	子の想い
23	第2回名古屋芸術大学後援会賞
24	2021年度 第25回ブライトン大学賞
25	音楽領域 第49回卒業演奏会 大学院音楽研究科 第24回修了演奏会 第49回名古屋芸術大学卒業・修了制作展
26	美術領域 卒業制作展 芸術教養領域 卒業研究展・口頭発表会・卒業制作展
27	大学院美術研究科 修了制作 大学院デザイン研究科 修了制作
28	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果
29	国際交流事業について
31	後援会補助公開講座実施報告
33	名古屋芸術大学近況報告
57	トピックス ピックアップ
59	大学へのお問合せ先一覧
60	名古屋芸術大学後援会会則・規程・内規
61	大学運営の組織図(2021年度)
62	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集
63	編集後記

【追悼】長江政則氏のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します



・元名古屋芸術大学後援会会長
・前せせらぎ合唱団会長
・第1回後援会功労者表彰
受彰者
かねてより病氣療養中であら
れましたが、2月19日午後8時、
永眠されました。葬儀は、ご遺
族のご意向により家族葬で執
り行われました。ここに謹んで
哀悼の意を表します。
(2021年度後援会会長・サー
クル共同委員長 矢野章子)

故 長江政則氏 略歴
元後援会会長・せせらぎ
合唱団会長。愛知県瀬戸
市出身。1945年(昭和
20年)生まれ。長男和哉
氏は名古屋芸大准教授(音
楽領域)。1996年から「せ
せらぎ合唱団」団員。
2008年から会長。2022
年2月19日永眠(76歳)。

緒できましたことは私にとって
何よりの喜びです。長江先輩の
ご遺志を受け継ぎ、せせらぎ合
唱団を盛り上げてまいります。
(2014年度・17年度後援会会長・
せせらぎ合唱団会長 平井友明)

ご逝去を悼み、謹んでお悔や
み申しあげます。後援会功労
者表彰は後援会創立50周年
記念を翌年に控え、2019年度
会長であった私と川野副会長
の二人で相談して作りました。
悲しみを力に変え、後援会とせ
せらぎ合唱団の活動を発展さ
せることが何よりの恩返しに
なると思います。ご冥福をお祈
りいたします。
(2019年度・20年度後援会会長
菊井政右衛門)

コロナ前の「せせらぎ合唱団」
と「壁の華」の合同新年会で、く
じ引きで偶然隣り合わせの席
になり、たくさんお話しさせて
頂いたのが、お会いできた最
後になってしまいました。後援
会会長をされた後、長年せせら
ぎ合唱団の代表をされ、名古
屋芸術大学と後援会にはなく
てはならない存在の方でした。
私事ですが、ご子息の長江准
教授と私は名芸の同期生で、
長江政則氏が後援会長時代、
私の母(故人)も後援会役員で、
母は毎年後援会研修旅行に参
加するのを楽しみにしていました。
心よりご冥福をお祈りいた
します。
(2019年度後援会副会長・総
務委員長 川野佳代)

卒業生に贈る言葉



名古屋芸術大学後援会
会長 矢野 章子

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。大学院修了者の皆様、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

皆様が名古屋芸術大学入学し、学び始めた頃、時は『平成』でした。在学中に元号が『令和』となり、希望に満ちた歴史的な瞬間を学友とともに迎え、先生方のご指導のもと、それぞれの分野において学びを重ねて来られました。一方で、新型コロナウイルスという、見えない脅威で世の中が大きく変化しました。その中で、皆様は何事も諦めずに立ち向かう努力と、新しいアイデアを生み出す工夫をし、自ら考え行動する強い人間力を身につけてこられました。心からの敬意を表します。

『人生 100 年時代』という言葉をよく耳にするようになりました。皆様がこれから進む時代はおそらく 70 歳になっても働く時代、『人生 100 年 職業人 50 年』の時代になります。この先 50 年働くために、インターネットや本などで情報を収集することは簡単にできますが、まず大切なことは、自分がどう生き方をして、どう働き方をしたいかというビジョンをしっかりと持つことだと思います。

目まぐるしく変化する世の中で、道なき道を進んで行くことはさぞかし不安も多いことでしょう。しかし、よく思い出してみてください。皆様が名古屋芸術大学で過ごした期間に、すでに新しい時代の風を感じ、見えない壁と向き合ってきたことを。

いくら準備をしても、先のことなど予想できません。大切なのは今この瞬間を一生懸命に生きることです。そして、いつも皆様を励まし見守ってくださった恩師の方々、ご家族に感謝の気持ちを忘れず、これから的人生を大切にお過ごしください。

皆様の輝かしい人生の門出に際し、さらなる飛躍とご活躍をお祈り申し上げます。

卒業生に贈る言葉



名古屋芸術大学学長
竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新型コロナウィルス感染症が発生して2年になりますが、大学では感染状況やワクチン接種の推移を見て、名古屋芸術大学活動指針を適宜見直し、大学運営を行ってきました。

「・実技授業については、原則として対面授業を感染予防対策を徹底して実施する。(30分に1回の換気を徹底する。)　・講義科目については、原則として対面授業を感染予防対策を徹底して実施する。ただし、受講者は概ね50名以下とする。(換気を徹底する。)　・感染リスクが回避できない授業(多人数の授業等)、対面授業と同等、あるいはそれ以上の教育効果が見込める場合は、オンライン授業での実施を可とする。」以上の対策を講じたこともあり、現状ではクラスターの発生もなく推移しています。

社会が新たな行動様式の確立を模索する中で、人々の生活を支えてきた都市機能のあり方や役割が変わろうとしています。日常生活では、情報社会に続く新たな社会として「超スマート社会」Society5.0の実現に向けた動きが生まれてきています。

人々の生活の中で様々な行動が制限され、ストレスに対抗するため、精神的刺激や安らぎとして芸術はますます必要になります。現代社会が「知性」だけで先を見通せない時代、芸術で感性を磨き、新たな発想や手法で状況を開拓する力が求められています。

経済発展と社会的課題の解決を目指し、仮想空間と現実空間を高度に融合させ、言語などのさまざまな違いを乗り越え、人々が活き生きと活躍できる新たな未来社会の到来が期待されています。芸術を通じたコミュニケーション能力や協調性が重要になります。

芸術教育は、創作や表現方法の異なる芸術分野の融合が進み、幅広い感性と応用力により専門分野が融合し、地域や集団の違いを超えた芸術活動の中で使用される共通言語の浸透が進み、新しい舞台が出現すると考えられます。

あらためて皆さんに希望を持って活躍することを願っています。

名芸の卒業に寄せて



学校法人 名古屋自由学院 理事長
川村 大介

令和3年度卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、これまで皆さんを支えてこられたご家族の方々にも心よりお慶び申し上げます。

卒業に際して、次の3点について申し上げます。

建学の精神「至誠奉仕」について

本学院の建学の精神である「至誠奉仕」について、一般に「至誠」とは極めて誠実であること、またその心。「奉仕」とは報酬、見返りを求めず、社会、集団、他人のために尽くすことを意味しています。それぞれの意味は十分理解されているかと思います。次に、建学の精神「至誠奉仕」の意味するところは何かを今一度お伝えします。創設された昭和29(1954)年頃は、第二次世界大戦後の混乱が落ち着き、復興に向け経済活動が活発になりつつありましたが、子どもを育てるには厳しい世の中でした。そのような状況の中、創設者である故「水野鈴子」名誉学院長は、次の時代を担う子どもたちへの教育の重要性を痛感し、幼児教育者の育成と幼児期における芸術を中心とした情操教育が必要であるという強い信念を基に学院を創設しました。

本学院の建学の精神である「至誠奉仕」とは、「人間性の不斷の陶冶」という謙虚な姿勢を持ち、「豊かな感性」により獲得できる他人への思いやりや物事を見抜く力を得て、社会に貢献できる「創造力に富んだ人材」を育成することと定義しています。

故水野名誉学院長は、本学院の学生に対して、この根源的な意味を理解し、信念として持ち続けてほしいという願いを込めたと思います。そして、この理念は、今後社会で起こる問題、困難、試練の解決を示唆するものとなるでしょう。

「感性」について

名芸で培った「感性」を大事にしてください。現代におけるコンピュータ技術の加速度的進歩により、近い将来、AI（人工知能）をはじめとした先端技術が人間に取って代わり、多くの人々から仕事を奪ってしまうといわれています。しかし、どんなに技術が進歩しても、人間の「感性」が機械に取って代わられることはないでしょう。また、人を育てることができるのは人であり、人を理解し協調するためには「感性」が必要だと考えています。名芸で培った「感性」が新しい価値と発想を生み出し、様々な状況を開拓していくいただきたい。

母校である名芸に戻ってきてください

名芸は卒業生の皆さんをずっと応援し続けます。皆さんの活躍を見守り、さらに輝きを増していただきたいと願っています。皆さんの傍らにはいつも母校と共に学んだ仲間がいることを忘れずに、何か困ったこと、嬉しいことがあったときにはいつでも母校に帰って来てください。

大学に在学する期間は短いですが、母校と卒業生との繋がりは生涯続きます。卒業されても名芸が開催する多くの演奏会、展覧会、講演会などに顔を出してみてはどうでしょうか。そこには、新たな出会いや、思いもよらなかつた発見があるかもしれません。

昨年、本学は開学50周年を迎えるました。次の開学100周年に向け、さらに進歩と改革を続けてまいります。卒業生並びに保護者の方々には、引き続き名芸へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様方の今後の活躍を祈念しまして、贈る言葉とさせていただきます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

[特集]
**経営本部
広報部長**

ポストコロナ時代の大学

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大学授業のオンライン化により、大学の在り方は一変しました。この2年間で大学の状況はどう変わったのか、そしてポストコロナ時代において大学はどのような役割を担うのか。またポストコロナ時代における後援会の課題と展望等について、学校法人名古屋自由学院経営本部岡田卓哉広報部長と、名古屋芸術大学後援会菊井政右衛門監事（2019年度・2020年度会長）にそれぞれ執筆をお願いしました。（広報委員会委員長 江上友加里）



経営本部広報部長
岡田 卓哉

何をどうすれば…

子どもの頃、小松左京原作「日本沈没」を読んだ。上下巻にわたる長編であり当時としては相当しんどい思いをしつつ想像を膨らませながら読み込んだ記憶がある。ラストシーンの日本国民が船で逃れつつあるなか、日本列島が沈没していく描写では、寒気を覚えつつも「こんなことあり得ない！」と、どこか冷めた自分がいたことを今でも覚えている。

社会人になって10年程経った頃、「28日後」という映画を観た。パンデミックを題材として扱うSFジャンルに位置付けられた映画であったが、そのワンシーンでゴーストタウン化したロンドン中心部の映像は、あたかも「夢の跡」の如く私の頭の中に焼き付いた。「こんなことあり得ない！」

ものごとをクリティカルに捉えると言えば聞こえはいいかも知れないが、要はなにごとも「斜」にそして「冷淡」に捉える人間であるからさもしい限りである。

しかし、私にとってこれらの芸術作品を通じて感じ得た2つの「こんなことありえない！」のうち、1つは現実化してしまった。テレビニュースの映像には、殆ど出歩いている人がいない東京の繁華街が映し出され、未知なるウイルスの恐怖をかき立たせる。COVID-19（新型コロナウイルス）は、瞬く間に世界を覆いつくし、日本列島も漏れなく覆いつくされてしまった。もう1つの「こんなことあり得ない！」、すなわちこの新型コロナウイルスのせいで日本列島がなくなるなんてこと起きないよなど、僅かながらもふと頭を過って身震いした記憶が今なお残っている。

これまで海外において、SARS（重症急性呼吸器症候群）やMERS（中東呼吸器症候群）など、重篤症状をもたらす感染症が流行った時期があったが、私も含め日本人の多くは対岸の火事ではなかったろうか。海外における感染症拡大状況を報道で見て知る。翻って日本国内の状況を見ると罹患者は一人もない。そして安堵する。新型コロナウイルスにおいても当初はこのような感覚ではなかっただろうか。日本国内でも感染者が始めてきても、まだまだ他人事の感は強かったように思う。

身近に新型コロナウイルスに罹患され大変な思いをされた方には大変申し訝ない言い方ではあるが、私自身

の仕事における新型コロナウイルスへの対応は、半信半疑のまま、ただ国や自治体からの指示どおりに従うだけであった。というより指示を出す国や自治体としても当時は為す術がなく、適切な治療法が見いだせないままひたすらインフルエンザ等の感染症対策の基本と言われる「手洗い・うがい・空気の入替え」の徹底しかなかったわけだから、多くの人にとって身近に罹患者が出ることでにわかに現実味を帯びていくものであったろうと今になって感じている。

止まった大学・動いたスタッフ

そうしたまだまだ多くの人が現実味を帯びていない中で、たちどころに現実味を帯びることになった出来事として、私は老若男女問わず人気のあったコメディアンの志村けん氏が2020年3月末に新型コロナウイルスに罹患し死去したことが大きな影響を与えたと思っている。つと報道なからずワイドショーなどの新型コロナウイルスの採り上げ方に明かなる変化が生じ始めたからだ。「おいおいホントにまずいぞ！ 接触を避けよ！ 外出するな！」といった風潮が一気に加速し、瞬く間にさまざまな活動が停止させられてしまった。

教育・研究分野と例外ではなく、全国の大学をはじめ、ありとあらゆる学校の一連の運営の流れが断截られてしまった。入学式は中止となり、授業ができない。我が広報部でも、高等学校への営業活動や高校生への進路ガイダンス等がまったくできない状況に陥ってしまった。志願者を集めるという営業活動を主とする部署の長でありながらデフォルト睨み顔の私が更に険しい表情になっていたことが自分でも分かるほどハ方塞がりであった。

しかし、何もできないからといっていつまでも手をこまねいている訳にはいかない。なぜならば在学生たちは学びを求めている。そして高校生たちは、本学受験に関わるさまざまな情報を求めているからだ。



こうした壁に立ち向かう時、決断してオンラインによる高校教員向け説明会準備のようす実行していくことがすこぶる早いのは、何といつても本学の強みである。学内での学びにおいては、全国の大学と比較しても早い段階でオンライン授業を導入し、かつ実技系指導の分野においても各種の工夫によりいち早く対面型授業を復活することができた。また、高校生たちへの大学説明においては、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談、そしてオンライン上での体験授業なども展開し、いち早く在学生や高校生の期待に応えることができたのである。また、新型コロナウイルスのワクチン接種においても、大学一括接種という形では極めて早い段階で実施することができたことも早期決断と実行による成果

として触れておきたい。

このように、手探り状態から進み、在学生や高校生からの期待や要望を汲み取り、何とか形を整えてウィズコロナの時代を進みつつあるのが現在の本学の姿である。

コロナ禍の大学運営

ところで今回のテーマでもある「ポストコロナ」とは新型コロナウイルス感染の終息後或いは安定した共存化の時代を意味する訳であり、残念ながら恐らくもう少々長引くであろうウィズコロナ期を経た後のことになる。ポストコロナ時代の大学という、言わば「私の予測」を述べる前にウィズコロナ時代の「現実」を知っていただかないといけないと思い、まずはこの約2年間で大学がどのように変容したか。そしてポストコロナ時代においては、どのように変容すると考えられるかについて、「入学者選抜」「教育・学生の支援」「渉外連携」の3分野において述べてみたい。

その前に新型コロナウイルスの感染状況に関わらず、今の若い人たちはこんな感覚なんだということについて、大物芸能人の大衆の捉え方の変遷という例え話を通じて共通認識しておきたい。

戦後から1970年代前半位まで、大物と言われる芸能人たちは、「俺を見たけりやお金を払って映画館に来ればいい。」というスタンスで、映画館という箱が活躍の中心であった。当時普及し始めたテレビという箱の舞台に出演する芸能人は二流三流であるといわれていた。しかし、テレビの急速な普及とともに映画が次第に衰退し、大物芸能人たちも次第に映画からテレビという箱にその活躍の舞台を移し始めた。「無料になってしまったけど、俺を見たけりや番組放送日時にあわせてテレビの前に座ればいい。」という時代となった。そして今、曜日時間にあわせてテレビを視聴するということもじわじわ低下しつつある。取って代わって出現したインターネット動画サイトは、自分が見たい時に見たいものを視聴できる環境をもたらした。すなわち家族や友達同士で視聴する「お茶の間文化」はなくなり、個人のライフスタイルにあわせて多様な番組・映画等を視聴できるというスタイルに変容している。如何に大物芸能人であっても「どうか、お好きな時間にお好みのスタイルで私を見てください。」と高飛車な雰囲気は微塵も見せず、パソコンやスマートフォンという薄っぺらくなった箱の中で見ることのできる動画サイトに積極的に出演しつつある時代となっている。

この例え話から「多様性の受容」という聞こえのいい言葉だけでなく「わがままの受容」という言葉が浮かんでしまうのは私だけだろうか。このような時代を軸としたうえで、ウィズコロナの現実とポストコロナの予測を進めてみたい。

さらなる入試の多様化

まず、我が広報部が所掌する「入学者選抜」についてである。ウィズコロナにおける入学者選抜は、試験独特の密集、密閉、長時間拘束という条件の回避、そして試験場まで

の移動による感染リスク回避の2点を解決することが必要であった。思案の結果、オンラインを活用して個人面接や作品や演奏のプレゼンテーションを実施することで選考する



オンラインオープンキャンパス

「オンライン・イブニング入試」という新たな選抜方法が生まれ、一部の学科・領域で導入開始に至った。更には海外から日本国内への入国が制限されているなか、オンラインを活用して外国人留学生に対しても母国に居ながらにして本学外国人留学生入学試験を受験できる仕組みも整えることができたのである。当初は入学者選抜という条件の平等性担保に不安があったが、あらかじめの説明や課題付与等により、それは解決することができた。今後ウィズコロナのもとでは、入学者選抜において常時オンライン活用を意識したうえで、対面又はオンラインいずれでも同様かつ平等に選抜が可能となる方式に改めたうえで、感染拡大状況によって、対面とオンラインの比重を自在に調節可能となるようなハイブリッド入試を実施していくことが望まれている。

では、ポストコロナ時代における入学者選抜はどのように変容するのであろうか。2022年は18歳人口全体のうち、四年制大学に進学する率が前年度の変わらない比率であったならば全国の四年制大学の入学定員の合計数よりも、四年制大学進学者総数の方が少なくなるという俗に言う大学全入時代がいよいよ始まる事になる。もはや一部の大学を除き、じっくりと腰を据えて入学者選抜を実施する時代ではなくなったのである。如何に本学の学びにふさわしい志願者を入学させていくかが今後の入学者選抜の軸となることは間違いない。更にオンラインを活用した入学者選抜も定着し、これまで以上に全国からの志願者が増えるのではないかと予測する。余分な時間や費用、そしてリスクがかからないからである。もちろんオンライン入試を導入する大学も増えることであろうから、単純に受験生の争奪戦がローカル区から全国区になるだけであり、18歳人口の経年減による影響は多少あるものの、志願者や入学者の総数に著しい変化が生じるとは考えにくい。ただし、適切な入学者選抜の改編を行い、かつオンライン入試における工夫を施すこと疎かにしなければである。適切な入学者選抜の改編とはここでは明言しないが、大学側の尺度で選抜を実施するのではなく、受験生が中学校から高等学校で何を学んでどのようなきっかけで本学にアプローチしてくるのかをいう点を重視した本来の意味での高等学校と大学との接続を意識した選抜を実施することが重要である。また、オンライン入試における工夫とは、先出の例え話でも触れているが、「わがままの受容」をどこまで取り込むことができるか、つまり「お好きな時間にお好みのスタイルで…」である。よくせきのことがない限り、オンラインでしか受験ができないという受験者はいないことではあろうが、あれば樂には受験できるわけである。躊躇いがあるのだとすれば、通信環境や合否の有利不利が理由であろう。よしんばそうであったとしても、ポストコロナ時代にはもうこれらの問題は解決されているはずであ



オンライン学科領域説明会

る。なぜならば、解決できなければ、結果は受験生に志願してもらえなくなるだけであるからである。



本学職員による香港での大学説明会のようす
(今後はオンラインによる説明会が活発化するのか?)

授業がかわる・概念もかわる

次に「教育・学生の支援」である。商品名を出すのは憚られるが「Zoom(ズーム)」や「Google Meet(グーグルミート)」というオンラインシステムが瞬く間に浸透したように、ウィズコロナ時代においては、オンライン教育を語らずに何を語ることができようかという程重要アイテムとなっている。しばらくは対面授業とオンライン授業との併用(ハイフレックス)が継続することにならうが、対面授業一択であった土壤にオンライン授業という選択肢が加わったことで、それぞれの長短所が顕在化したことでも新たなポイントになり得ている。だが、換言すればこのことは、大学教育の本質はどこにあるかが問われているとも言えよう。

また、学修の環境や制度に不慣れ感が残り、ウィズコロナ時代を受身的被害者として過ごしたか否かによって個人の捉え方に相違が生ずるかも知れないが、授業受講の多様性を一気に加速した感が否めない状況下において、例えば通学時間省略の可否や、対面回避によるコミュニケーションの省略化などの問題は、在学生には肯定的な意見はあるものの、保護者や高等学校教員を含め、極めて否定的な印象が強く、期待していたあるいはイメージしていた大学生生活とはかけ離れた感があることは否めない。

一方、学習内容(カリキュラム)について言えば、従来は直接経験や体験をすることで学び得た学修内容をいかにオンライン化することができるか。或いは、どのようにすれば、学習の内容・環境を安定化させることができ、ひいては在学生に納得感ある授業を提供させることができるかなどの問題は、最優先して解決すべき課題である。そして、これらの解決を進めていく中で、学修目標の設定や学修成果の測定・評価の重要度が増すことは間違いないことであろう。

これにより大学の授業で授業時間数などを示す「単位」という言葉の概念も変化するに相違ない。本来「単位」とは、授業だけでなく、予習や復習などの総時間を含めた時間数を示すものであるが、これらの時間数が学修成果に置き換えられると考えられる。つまり、【「単位=時



感染対策を施した授業風景【音楽】

間」ではなく「単位=学修成果】という公式が成立することになるということである。

個人的には、ウィズコロナ時代には最も厄介な、しかも解決していくかねばならない課題を多く抱えた分野であると思うが、これらがポストコロナの時代にはどのように変容しているのであろうか。

まず、授業のあり方は、これまで板書と講義で展開されていた「チョーク&トーク」スタイルは通用しなくなり、オンラインで事足りる授業と対面授業で実施しなければならない授業とに明確に分けられることになるとを考えられる。そしてオンライン授業は、複数の大学で共有して授業が受講できるような地域共通集約型へ移行するのではないだろうか。例えば「経済学」の授業は名古屋市西部の4大学共通で受講が可能であり、授業はA大学が担当するといった具合だ。



大学祭の1コマ (今後この風景はなくなってしまうのか?)

オンライン授業とは、受講者の反応が分かりづらいということは想像にたやすいことである。授業とは関係のない、例えば「笑い」をとろうとギャグを言ったところでそのギャグは受けたのか否かが分からない。

つまり不純物が混ざりにくく、正攻法でしか通用しないのがオンライン授業の特長である。この場合、如何に授業内容を受講者に楽しく理解させができるかが重要なってくる。このため、今後オンライン授業はこの点を強化することが否応なく求められることになろう。「今でしょ!」のフレーズで有名になった予備校講師のように、全国の進学塾でオンラインライブ講義であっても満席になるような話題性や存分に身につけた知識を分かりやすく解説できる話術がオンライン授業を担当する教員には求められ、やがて大学間で人材の奪い合いなどの競争に晒されるのではないかと考えている。

また、対面授業で行わねばならない授業については、人数管理や物理的距離などの制約が伴い続ける中で継続していくことになるが、オンライン授業と混在することになることから、在学生の教室受講と自宅受講の問題などを鑑み、これまで以上に時間割の設定に留意しなければならないことになると見込まれる。

次に、学生たちの活動についてであるが、課外活動などを通じて上級生や他学科・領域の在学生との付き合いの広がりが構築できない訳であるから、大学行事等へのコミットメントも自ずと低調になってしまふと予測する。クラブ・サークル活動や大学祭は、これまでのような活発さは失われると思われるが、その代わりに個人で参加するような競技や検定、コンクールなどはこれまで以上に盛んになるのではないだろうか。大学の学生支援については、これまで以上に多様な支援と柔軟な体制が求められることになると考えている。

拡大化する連携の輪

そして最後に「渉外連携」である。多くの大学における渉外連携とは、教員の研究成果・業績を毎年集約してホームページ掲載や冊子化して周知することにより、大学近隣にある企業や自治体が連携を申し出ることで成立してきているものである。しかし、ウィズコロナ期の今、これらはほぼすべてストップしてしまっている。渉外連携のみならず、社会における異業界対面交流は何をきっかけに感染拡大が囁かれるか分からぬ現今では、避けるのが賢明であることは言うまでもない。では、ポストコロナ時代においては、渉外連携はどのように様変わりするのであろうか。

私は、ポストコロナの時代においては、オンラインを通じて、近隣のみならず全国、ひいては世界の各組織との連携もあり得るのではないだろうかと予測する。

渉外連携とは、教員の創制作・研究の本質に関わっていることは紛れもない事実である。どれほど名のある舞台・会・展にどのような形で出演・出展するのか、そして研究論文であれば、当該研究分野の専門家がしっかり中身を吟味する「査読」という過程をパスしている論文であるか否かが重要となる。雑誌への論説掲載や、本来研究業績の集大成とみなされる書籍の出版などは業績には当たらないのが国際標準である。そうした厳しい不文律の中で、毎年業績を積み重ねるのが研究者である大学教員の本来の姿であり、こうした教員に研究委託をはじめ、研究に関連するさまざまな助言や指導などを求めたいというところから渉外連携は始まるのである。

連携ゆえに、互いに行き来をすることがこれまで当たり前のことであったが、急速に浸透したオンライン社会は、新たなディバイスが産まれない限り否定されることはないはずであり、渉外連携についても例外なくオンライン社会の中で展開していくことになろう。つまり、エリア限定的であった渉外連携は、ポストコロナの時代では、地域を超えた連携が可能となるのである。企業や自治体のみならず、近隣であれば利害関係が対立するような大学であっても、いわゆるスープが冷める距離の大学同士であれば大学間連携も十分可能となる。

例えば全国的にも稀少な分野の研究者がいて、今その研究者の助言を求める必要性があるならば、会議の都度、オンラインで参加してもらえば事足りる訳であり、こうした依頼が海外からあったとしても言語の共有が可能であれば、何ら問題なく実現できる。また、海外の教育研究期間とのパートナー連携や在学生の相互交換



特別客員教授リレートークのようす
(こんな雰囲気で世界とつながる?)

留学システムの拡大化なども可能となる。

従来はそれなりの予算や時間が

必要であった渉外連携が、ポストコロナ時代にはオンライン化により簡易・簡素化され、しかも世界中の「知の拠点」から適任者が選出され、惜しみなくその「知」が世の為人の為に活用されることになる。公共性の高い大学という組織において、これ以上の社会奉仕があり得ようか。世界中の知の拠点がその専門研究を国際間で極め合い、そこで産み出された成果が世界中で有効活用される。そんな近未来

の渉外連携スタンダードが、ポストコロナ時代には到来してほしい。

以上、誠に僭越であるが、ポストコロナ時代における私見を述べさせていただいた。あくまでも予測であり、今後ポストコロナの大学がどのようなあり方を呈していくのかは誰にもわからないはずである。

しかし、大学とは在学生に対して専門分野の知識・技能を教授する場であることは昔も今も変わらないし、これからも変わらないはずである。

おわりに

私は、高級自動車レクサスの国内営業で陣頭指揮を振るわれ、トヨタの人材育成の主軸もあられた笹津恭士氏(トヨタ自動車元副社長)とご縁があり、4年間部下としてご指導いただいたことがある。とても可愛がっていただき、さまざまなことを学ばせてもらったが、その中でも現



感染対策を施した授業風景【美術】

場を重視した正しい組織のあり方や人材の育成・評価について厳しく教えられたことは今でも私の宝物である。「組織とは、生かすも生かさぬも人材次第だ。管理職として預かった人材を生かすことを常に考えて行動しなさい。」「課長ならば、1つ上の役職である部長の視点で物事を考えなさい。そして自分のためではなく、組織全体のために何が必要なのかを考えてどんどん改善案を出しなさい。例え笑われてもいいから。」「車の販売も教育の世界も同じ。選んでもらうためには選ぶ側の気持ちになって中身の改善に努めなさい。選んでくれた方が笑顔で満足してくれることを想像して。」などの言葉。聞いてすぐにメモを取り、今でも仕事で行き詰まつたりした際に振り替えるフレーズである。当たり前のことだと思われるかも知れないが、組織の中にどっぷり浸かり込んでしまうと何故か見えなくなってしまう。でも、それでは人材としては抜け殻も同然である。そうならぬよう、私たちは常に学び続け、世の中の変化に敏感であり続けなければならない。幸い大学という世界は「学ぶことが好き」或いは「学びを支えることが好き」な人々の集合体である。

新型コロナウィルスの感染拡大という残念な出来事は、私たち名古屋芸術大学に属する教職員にとっては、知恵を集約させ、それらを一気に放出させる機会を与えた。そしてこの機会はいかに名古屋芸術大学が「学ぶことが好き」或いは「学びを支えることが好き」な人々の集合体であったかの証左となった。

ウィズコロナの今、そしていずれ訪れるポストコロナ時代。いずれにおいても、我々は大学という最高学府のプロとして、世を見据えつつ学び続ける気持ちを皆が持ち続けていかねばならない。なぜならばたとえどのような環境下になっても名古屋芸術大学で学びたいという人たちのためには我々は最大限尽くさねばならないからである。

[特集]

後援会監事

**ポストコロナ時代における大学と後援会
一課題と展望—(DIGEST)**



学校法人名古屋自由学院評議員
名古屋芸術大学後援会 監事
(2019年度・2020年度会長)
菊井 政右衛門

はじめに

全世界が新型コロナウイルスに翻弄されて2年が過ぎた。世の中すべてが激変した。それまでの常識が非常識になり、非常識が常識になった。過ぎた時代には戻らない。道は前にある。重要なのは今から先に何を目指し、何をなすべきかということだ。「唯一、生き残るのは変化できる者である」と

ダーウィンは言った。環境変化に適応しつつ生存競争に勝ち抜く進化を遂げ、大胆なパラダイムシフト(革命的転換)を成し得たものだけが生き残る。大学も後援会も例外ではない。変化しなければ淘汰され、消滅するだけだ。ウィズコロナの過渡期を経てポストコロナへと向かう、新たな時代を切り拓くメルクマールとは何か。後援会監事の視点から、コロナ禍における大学と後援会の現在を総括し、ポストコロナの課題と展望について考察する。

01. 2020年4月、新型コロナウイルス対策特別措置法に基づき、緊急事態宣言が発出された。大学は機能不全に陥り、ロックアウトされた。後援会定期総会も開催不能となり、組織活動はほぼ停止状態に追い込まれた。
02. この時、後援会には二つの選択肢があった。世間の風潮に迎合し、「感染防止」や「安全第一」を口実にして活動を中止(放棄)し、何もやらない前例踏襲型後援会に逆戻りするのか、それとも改革路線を堅持して危機的状況を突破し前に進むのか、その二つに一つであった。
03. 後援会執行部はコロナ禍真っ只中で活動を再開した。デジタル化による後援会活動の見直しと、コロナ禍で困窮する学生に対する食料品・日用品・生理用品等の緊急支援活動(チア・プロジェクト)への取り組みが契機となった。
04. チア・プロジェクトの成功要因は、会長のリーダーシップ、総務・事業両委員長(副会長)の行動力、そして理事会メンバーによる協力の賜物であった。一過性のパフォーマンスで終らせてはならない。SDGsに倣って言うなら、重要なのは持続することだ。プロジェクトの検証が必要である。
05. デジタル音痴の私とは違い、1学年下の役員の中にはICT(Information and Communication Technology 情報通信技術)の知識を持ったメンバーが複数存在した。彼らが執行部入りする年次の巡り合わせが偶然重なった。デジタルを後援会内部のコミュニケーションツールとして活用する絶好のチャンスとなった。
06. オンライン授業は新型コロナ有事の際の緊急対応措置として導入された(大学設置基準第25条第2項、平成13

年文科省告示第51号)。すぐさま「学修の質が担保されない」だの「授業料返せ」といった集中攻撃の標的にされた。実技系対面授業の占める比率が高い芸大にオンラインは馴染まない、というのが大方の予想であった。

07. (略) 「大学設置基準第25条第2項、平成13年文科省告示第51号」の解説。

08. だが私は彼等とは反対に、「コロナ禍によるオンライン授業の導入は今後の日本の教育の在り方を変える重要な契機となるだろう」と主張した(『後援会報』第69号13頁)。非常時とはいえ、芸術教育へのオンライン授業導入の取り組みに、進取の気性を感じたからである。

09~10. (略) 危機対策本部指揮下での名古屋芸大におけるオンライン授業立ち上げの経緯については、山田芳樹 学務部長の報告(『後援会報』第69号45~46頁)を参照。

11. 私はオンライン授業の実態調査を目的に、全後援会員(学生含む)対象のアンケート(Google Forms)を実施した。結果は、オンライン授業賛成派が過半数を越えていた。同時にオンライン授業には対面授業以上の学修効果があることも判明した。

12~13. (略) アンケート集計結果の解説(『後援会報』第70号5~10頁の菊井コメント参照)。

14. オンライン授業には大別して、オンデマンド型、ライブ配信型、双方型の三種類がある。工夫次第で、あらゆる授業をオンラインに置換することが可能である。オンライン授業の導入により、名古屋芸大の各領域・コースでは授業計画に基づき、「(学生が)何を学び、身に付けることができるのか」を明確化し、学修成果を実感する教育を行う「学修者本位の教育の実現」(2020年、中教審大学分科会『教学マネジメント指針』)が可能となった。

15. (略) 中央教育審議会『教学マネジメント指針』の解説。



16. ロンドン大学を嚆矢とする大学通信教育には長い歴史がある(1858年通信教育開講)。現代ではパソコンを使ったオンライン授業だが、欧米の芸大(美大・音大)では、絵画・デザインは勿論のこと、名門バークリー音楽大のように楽器演奏もダンスパフォーマンスも当たり前にオンラインで授業が実施されている。今や芸術の殆んど全ての領域がオンライン授業で網羅され、世界中の学生が国境を越えて学んでいる。

17~18. (略) ロンドン大学(University of London International Programmes)、バークリー音楽大学

(Berklee Online)でのオンライン授業の紹介。

- 19.** オンライン型プログラムでは学費は通学型(オンキャンパス)の何十分の一という格安・激安で名門大(院)を卒業・修了でき、通学型と同じ学位が取得できる。バーチャル留学、資格取得、自己啓発、生涯学習等々、オンライン教育の可能性は地球規模で無限大に拡がっている。



- 20.** その最先端をブッちぎりでリードしているのが、創立からわずか8年でハーバードと肩を並べるまでに急成長した超難関、「ミネルヴァ大学」(Minerva Schools at KGI)である。校名は、ヘーゲルが、「ミネルヴァの巣(ふくろう)は迫りくる黄昏に飛び立つ」(『法の哲学』序文)と書いたことでつとに有名な、ローマ神話の知恵の女神。全寮制の私立4年制大学で、サンフランシスコに本部を置く。キャンパスはない。学生は4年間で世界7都市を移動しながら(都市がキャンパスになる)オンラインで授業を受ける。

- 21~22.** (略) ミネルヴァ大学の紹介。参考までに「東洋経済」2021/07/02の記事を貼り付けておく(「日本人が知らぬ超難関『ミネルバ大学』破壊的凄み世界のエリートが熱視線、ハーバード蹴る人も」)。<https://toyokeizai.net/articles/-/437415?display=b>

- 23.** 事程左様に欧米とわが国のデジタル教育環境には、天と地ほどの格差がある。そんな中でも武藏野美大(1951年)、京都芸大(旧造芸大、1998年/修士課程も併設)、大阪芸大(2001年)、デジタルメディア芸術学院(デジタルハリウッド大と中国上海音楽学院の共同設立/2011年)が通信教育課程(学部)・通信制大学院を設置しており、コロナ禍を背景に、芸術教育へのオンライン授業導入の先見性と存在感を示している(括弧内は通信課程の設置年度)。



- 24.** 日本国政府は、目指すべき国家の未来像として、「ソサエティ5.0」(Society5.0)を提唱する(内閣府『第5期科学技術基本計画』)。マルクス唯物史観の剽窃もどきの歴史認識だが、我々の現在地点はSociety4.0(情報

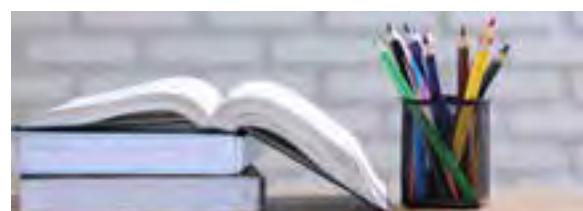
社会)。そこで次のSociety5.0での教育がテーマとなる。

- 25~26.** (略) サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間の融合を目指す「Society 5.0」の解説。

- 27.** 2017年のボーダレス改革以降、名古屋芸大は芸術系総合大学としての強み・特色を生かした機能強化を進め発展してきた。そして今こそSociety4.0から5.0への芸術教育・研究のデジタル革命を契機として、大学改革と発展の未来を更に加速できるか否かが問われている。

- 28.** 大学は単なる独立した教育・研究機関ではない。企業や社会と深く関わる存在である。産学官民の連携強化の重要性が強調されるように、DXを媒介として大学が変化することが、社会の変革を前進させるエネルギーとなる。私は冒頭で、「過ぎた時代には戻らない」と書いた。「戻れない」のではない。「戻る必要がない」。前に進むのだ。

- 29.** ウィズコロナ(過渡期)の先に展望されるポストコロナ時代の名古屋芸大は、対面授業の全面復活といった、コロナ以前のキャンパスへの単純な回帰ではない。名古屋芸大が目指すのは、Society 5.0の到来を見据えた、スマートユニバーシティ(smart university)の実現である。



- 30.** 名古屋芸大のスマートユニバーシティ化は、東京藝大を頂点とするヒエラルキーの解体に向けた流れを加速する。BORDERLESS改革第2章の幕開きである。

- 31~32.** (略) スマート〇〇の呼称は、「ユニバーシティ」、「カレッジ」、「キャンパス」等幾通りもあるが、本稿では「スマートユニバーシティ」に統一した。

- 33.** (略) スマートオフィス(smart office)及びこれに関連するDX(Digital Transformation)の解説。デジタルトランスフォーメーションとは「デジタルによる変容」を意味する。デジタル技術を用いることで、大学や教育、生活やビジネスが変容していくことを言う。

- 34.** 名古屋芸大のスマートユニバーシティ化の推進と、DXによってもたらされた新しい芸術教育システムの構築(及びシステムの稼働)が、名古屋芸大パラダイムシフトの帰結となる。そしてこのスマートユニバーシティと北名古屋市全域をキャンパスと位置付ける北名古屋市スマートシティ(smart city)構想が融合(一体化)した時に、名古屋芸大BORDERLESS改革は完結するのである。

- 35~39.** (略) まとめ(名古屋芸大・後援会改革は継続する)。

- 40.** 最後に、2022年度名古屋芸大後援会が安定的・継続的にその目的を達成するためには、①組織体制の見直し、②会則改正と執行部役職の統廃合、③財務基盤の確立、④人材育成(役員・理事の意識改革と資質向上)が喫緊の課題となる。諸氏の健闘を祈る。

【お詫び】スペースの都合上、一部内容を割愛しての掲載となりました。ご了承ください。(広報副委員長 柳沼章子)

【特集】

後援会副会長

学生支援活動の報告

荻須総務委員長(食品・日用品)

小池事業委員長(生理用品) / 研修会

■ 食料品・日用品配布活動のご報告

副会長(総務委員長) 荻須紀子

名古屋芸術大学後援会では、コロナ禍での社会環境、生活環境の変化によって経済的に困難な状況になっている学生に何かできることはないかと、緊急学生支援を検討し、7月には『チア・プロジェクト』の第1弾として「生理用品の無償配布」を行いました(『後援会報』vol.71でご報告済み)。配布時に行なったwebアンケートには「とてもありがとうございます」「助かります。ありがとうございます。」という感謝の言葉とともに、食料や飲料、日用品がほしい、という支援を望む声がありました。

そこで『チア・プロジェクト』第2弾として【食料品・日用品無償提供】を10月と12月の2回にわたり、実施いたしました。



学生が閲覧するユニバーサル パスポートに、後援会からの「案内文」を掲載していただき、支援を望む学生に申込みフォームから申し込んでいただく、完全予約制としました。対象は、学部生、大学院生、留学生など、名古屋芸術大学に在籍する全学生です(一人暮らし、実家暮らしなどは問いません)。

初めての企画で、一体どれだけの学生から申し込みがあるのか見当もつきませんでしたが、1回目73人、2回目41人、延べ114人からの申し込みがありました。その中で、一人暮らしの学生からの申し込みは6割を超えており、実家を離れての生活は厳しい状況に置かれているのだろうと推察しました。

【食料品・日用品無償提供】の1回目は10月16日に、2回目は12月12日に徳重・名古屋芸大駅近くの地域交流LABOで行いました。キャンパスでの提供となかったのは、提供品を受け取る学生のプライ



バシー保護と、お米やパスタなど、重い提供品を持ち帰る学生の利便性を考慮したものです。ただし、この日程で都合が悪く、受け取りに来られない学生には、別の日程でキャンパスでの提供としました。また、提供時には「生理用品の無償配布」の時と同様、webアンケートに回答していただき、学生の声を集めました。

提供品については、一人暮らしの学生でも簡単に食事ができるようにと考え、レトルト食品やパスタなどを中心に揃えました。また、1回目の提供時のアンケートで頂いたご意見を参考に、季節的なことも考慮し、2回目はカイロやティッシュペーパーといった日用品を増やしました。さらに、「生活必需品を購入するのに精一杯でお菓子にお金をかけられないで、お菓子が嬉しかった。」などという意見を取り入れ、全20品目としました。提供品は学生も普段利用している近隣のドラッグストアや100円ショップ、ローソンストア100などで価格調査して購入しました。後援会の活動にご理解をいただき、ローソンストア100(徳重名古屋芸大駅前店)の永井社長より、リップクリームやピーナッツ・チョコレートの無償提供、ご支援を頂きました。また名芸大の東西両キャンパスで学生食堂を運営している共栄食品(株)の小森社長からは、新米のコシヒカリをお値打ち価格で提供してくださいました。深く感謝申し上げます。

企画から、実際に学生へ提供品をお渡しするまでには苦労もありましたが、提供品を受け取った学生が、「本当に助かります。」「こんなにたくさん頂けて、重たいのは気になりません。」と笑顔で帰って行かれる姿を見て、提供できて本当に良かった、と感じました。

コロナ禍で後援会の活動も制限されており、できるときにできることを、と取り組んだ学生支援企画です。この支援は一時的なもので、経済的には大きな支援とはいえません。それでも、コロナ禍で不安やストレスを抱えている学生が、自分にも応援してくれる存在があるのだと感じ、学業を継続することにつながれば幸いです。



■ 留学生支援活動のご報告

副会長（事業委員長）小池真紀子

11月9日（火）12時20分から13時00分頃まで名古屋芸術大学西キャンパス G棟 207教室にて行われた留学生マジスリー・ミーティングに参加し、チア・プロジェクト『留学生に生活用品の提供』を実施いたしました。



●留学生67名に対して生活用品（トイレットペーパーと食料品）の提供を行いました

トイレットペーパーはローソンストア100 德重名古



屋芸大駅前店で購入し、留学生一人につき4個入り1パックを提供しました。誰でも必要な生活用品なので留学生から、「とても助かります、うれしいです。」と笑顔で言われました。食料品支援の品は矢野会長とじゃんけんゲームをして勝った人から順番に好きなものを選んでもらいました。じゃんけんのかけ声も留学生と交流し盛り上がりいました。いろんな品物があり、「どれにしようか。」と迷う留学生、即座に「これ！」と決める留学生、どちらも嬉しそうに選んでいました。また、東西キャンパスの留学生もオンラインで参加されており交流することができました。自国を離れて名古屋芸術大学で学んでいる留学生を今後も見守っていきたいと思います。

●留学生グループ展の応援に行きました

12月11日（土）午後から、西キャンパス Art & Design Center Westにて開催中の、第1回名古屋芸術大学留学生グループ展の応援に行きました。名古屋芸術大学には2021年12月現在 86名（※）の留学生が在籍しています。（※ 未入国者18名を含む）本展覧会は有志9名によるグループ展です。

作品には、寄木細工の椅子、曲木細工のテーブル、日本画や写真などがありました。留学生から難しかったところや工夫したことなどの話を聞くこともでき、とても楽しい時間をすごせました。同センターの磯部さんにもお会いでき、留学生と一緒に記念撮影をいたしました。



■ 生理用品無償配布のご報告

10月19日（火）、12月15日（水）午前10時30分より午後1時30分頃まで、東西キャンパスにおいて「生理用品第2回・第3回無償配布」を

行いました。東西キャンパスは交流テラス1階の学生食堂付近（第3回はカフェスペース Akkord（アコルト）前）、東西キャンパスはB棟1階学生食堂付近です。アンケートへのご協力ををお願いし、前回と同じくQRコードを読み取ってもらうwebアンケートを行いました。



ハロウィンやクリスマスの季節を感じられるお菓子を用意して学生に声をかけました。多くの学生が配布をしていることを知りアンケートに答えてくれました。「こんなに沢山いただいているのですか？」とか「前にもいただいてとても助かりました！」と笑顔で言われとても嬉しく思いました。「トイレに設置してある生理用品を使わせてもらって助かった経験があります。」とのお声もいただきました。

東西キャンパスのトイレに設置しております生理用品のかごに補充も行いました。配布当日に来られなかった学生、必要とする学生



に利用してもらうようにしています。そちらでもQRコードのwebアンケートを行っています。たくさんのご意見をお待ちしております。

配布活動中の後援会スタッフに萩原芸術学部長、国際交流センター長の松崎先生、学生支援チームの伊藤チームリーダー、広報の河合さん、留学生別科の桑山先生、文芸ライティングコースの米田先生からあたたかいお声掛けをいただきました。心よりお礼申し上げます。

後援会活動の基本を学ぶ 理事研修会を開催

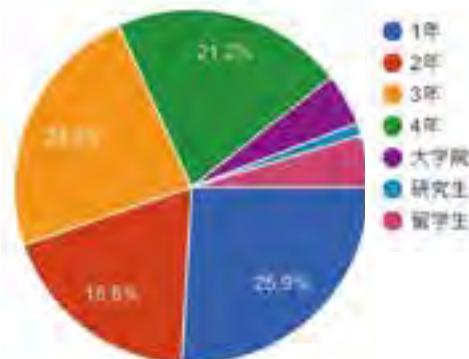
10月30日、11月20日の2回にわたり、菊井政右衛門監事を講師にお迎えし、後援会理事研修会が開催されました。研修の目的は、「理事会メンバー（役員・理事）の意識改革と資質向上をはかることです。理事会メンバーは卒業と入学で毎年入れ替わるため、研修は不斷に継続されねばなりません。」研修テーマは後援会の歴史、後援会活動の基礎・基本、広報誌の作り方など多岐にわたり、最後に、学校法人名古屋自由学院の建学の精神「至誠奉仕」に深く学び、各自が社会生活のあらゆる場面で実践していくことが肝要であると締めくられました。菊井監事の熱のこもった講義に、参加者一同真剣に勉強させて頂きました。あらためてご多忙な中、講師をお引き受け頂き、長時間にわたるご講義を賜りました菊井監事に御礼申し上げます。（小池真紀子）



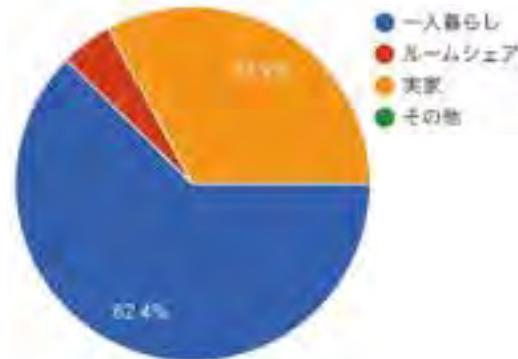
アンケート結果

食料品・日用品無償提供アンケート

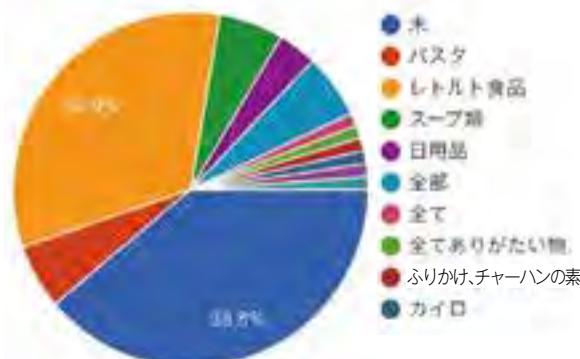
Q1: 学年を教えてください



Q2: 通学の状況

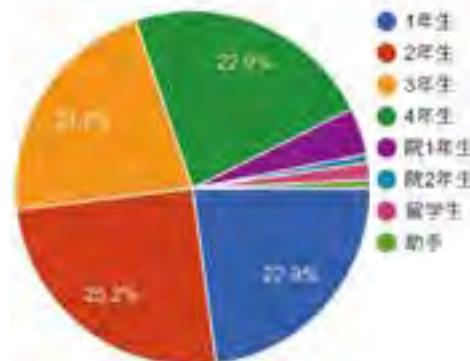


Q3: 今回の提供品で良かったもの

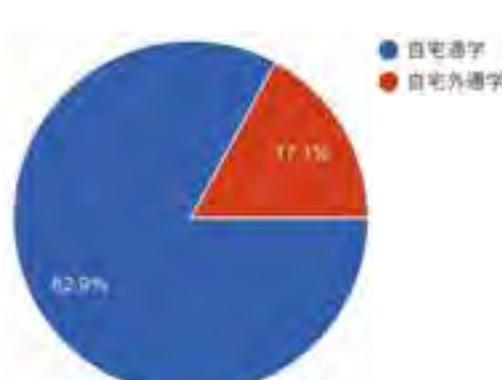


生理用品無償配布アンケート

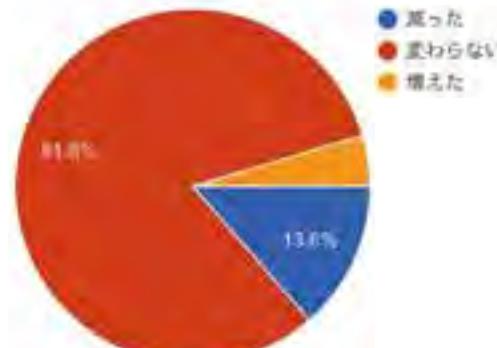
Q1: 学年を教えてください



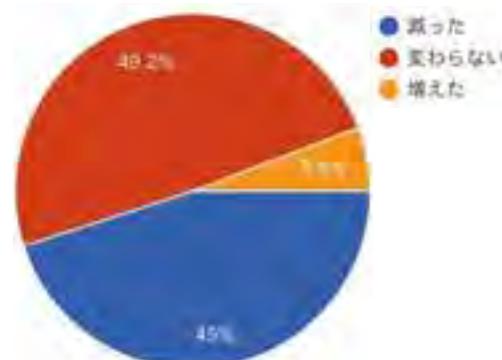
Q2: 自宅通学ですか、自宅外通学ですか？



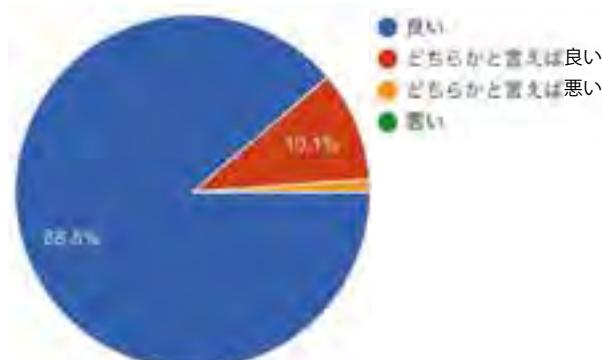
Q3: コロナ禍の影響で保護者からの支援に変化はありましたか？



Q4: コロナ禍の影響でアルバイト収入に変化はありましたか？



Q5: 今回の支援はどうですか？



【特集】**矢野会長****2021年度 出会いと挑戦の1年間～感謝の言葉**

2021年7月1日、コロナ禍の書面総会で後援会会長に選出され、当初の予定より約40日遅れて、期待と不安の入り混じる中で今年度の後援会がスタートしました。

新型コロナウイルスという見えない相手と向き合いながら、名古屋芸術大学後援会役員・理事は常に協力体制で『できることをできるだけ』の精神にてビジョンを策定し、日々変化する状況を観察し、いま何ができるか考え、決断し行動してまいりました。半世紀にわたって諸先輩方が紡いでくれた歴史ある後援会組織として、過去からの大切な思いを未来へつなぐ一助となるよう精一杯の努力をしてまいりました。



後援会会長 矢野 章子

◆緊急学生支援事業「チア・プロジェクト」を実施

今年度のメインとなる事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアルバイト収入の減少、家計の経済状況の悪化した学生を支援する『チア・プロジェクト』です。年間に「生理用品の無償配布」を3回、「食料品の提供」を2回行いました。食料品買い出し作業において、受け取る学生の健康を考え、店頭であれこれと迷い悩む役員の姿は真剣そのものでした。また、自国を離れて学ぶ留学生に「生活用品の提供」をしました。留学生と後援会会長とのジャンケンゲームはとても楽しい思い出となりました。

後援会と一緒に活動しませんか

日頃より名古屋芸術大学後援会へのご理解ご協力を賜りありがとうございます。

後援会は名古屋芸術大学の目的と教育方針に基づき、学生の福利厚生と大学の教育研究活動への各種支援活動を行っている在学生の保護者団体です。

後援会員のお子様方に充実した学生生活をお送りいただきとともに、保護者と大学教職員との親睦交流を図る研修旅行や広報誌の発行、会員のための絵画とコーラスのサークルなど、みんなで楽しく活動しています。

後援会では現在、私たちと一緒に活動していただける新しい仲間を募集しております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

電話：0568-26-3355

名古屋芸術大学後援会

FAX：0568-26-2101

副会長（総務委員長）

E-mail : kouenkai@nua.ac.jp

荻須 紀子

◆『理事研修会』を実施

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で『研修旅行』が中止となりましたが、菊井政右衛門監事（2019・2020年度会長）に講師をお引き受けいただき、「後援会・名芸大入門」をテーマに『理事研修』を行うことができました。先輩からの熱いメッセージをいただき、これから後の後援会づくりを見据えた実りある時間となりました。

◆第2回名古屋芸術大学後援会賞授与式を挙行

2月25日（金）西キャンパスにおいて、「第48回名古屋芸術大学卒業・修了制作展優秀賞・第25回ブランド賞授与式」と同時に挙行しました。開催期間中に後援会の正副会長5名により審査を行い、後援会賞は4名の方々に贈られました。優秀な作品が多く審査が大変混乱しました。

◆『ありがとう』のシャワー

今年度の後援会活動で最も多く飛び交った言葉は、『ありがとうございます』でした。

後援会会員はもとより、川村大介理事長、竹本義明学長はじめ大学職員の皆様よりご理解ご協力をいただき後援会活動ができましたこと、心より感謝申し上げます。そして、今年度新任で事務を担当いただきました、後援会事務局山下和子さんには、誠心誠意のご対応をいただきました。温かい皆様に囲まれ、とても貴重な時間を過ごすことができました【感謝】

後援会の学生支援活動が地元紙に

名古屋芸術大学の地元、北名古屋市で発行されている「北名古屋市民タイムズ」（2022年2月11日付号）に後援会の学生支援活動の様子が掲載されました。同紙の米田環編集長は本学デザイン領域文芸ライティングコースで教鞭をとられ、沢山の学生がお世話になっています。



Challenge to the future BORDERLESS

【特集】
**経営本部
学務部長**

「キャリア二刀流」で学生支援

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営、学生支援、国際交流に多大なるご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

本学のキャリアセンターでは、4年間かけて学ぶ専門分野という「大きな刀」に加え、経営や法律の基本知識、経済動向の理解、リスク管理など、働くうえで役立つビジネス力としての「小さな力」を備える「キャリア二刀流」を実現することによって、学生の皆様が充実した職業生活を送ることができるよう、様々な取り組みをしています。具体的には、正規授業科目の開設、キャリアセンター主催の講座・催事、キャリアサポート室職員による支援があり、これらが有機的に連関して学生の皆様の「夢の実現」を後押しできるような体制を整えています。しかし、多くの不安やストレスを抱える就職活動では、ご家族の存在が大きな支えとなります。無関心はもちろん、過度な口出しや期待もお子さんのやる気を削いでしまいます。人生の良きアドバイザーとして、適度な距離を保ちながらお子さんの力になってあげてください。

さて、私たち親世代と現在では就職活動が大きく様変わりしています。

例えば大学進学率は親世代では20%～25%ですが、現在は約55%で倍以上になっています。就活の時期は親世代は4年次の夏以降でしたが、現在は大学3年次の3月から解禁となっており、ずいぶん早期化しています。また、応募方法については、親世代は履歴書の郵送でしたが、現在はWebエントリーが主流となっています。

このようなことを踏まえて、就活のサポートについて保護者の皆様に6つのお願いをさせて頂きたく存じます。

1. 明るい生活環境づくり

お子さんにとって就職活動は初めての経験です。心理状態が不安定な時もあるでしょう。外で頑張るお子さんをホッとさせられるよう、生活空間では話しやすい雰囲気をつくることが大切です。お子さんの意思を頭ごなしに否定するのではなく、関心を持ち、「精神的な支えとなってください。

2. 保護者の強気はお子さんの不安材料

「自分で決めなさい」「お前ならやれる」というような、保護者の強気はお子さんの不安を増幅させます。一緒に考え、心を離さず、話に耳を傾け、背中を押してあげましょう。「成人した大人なのに?」と思いつがちですが、一人



経営本部学務部
部長 山田 芳樹

前にお給料を貰うまでは突き放さないことが大切です。

3. 過保護にならず、適度な距離感を

お子さんの様子が気になるのは十分にわかります。しかし、説明会についていく、企業に連絡するなど過保護になりすぎるNGです。企業が求めているのは「自分で考えて行動できる人材」です。説明会から帰ってきたあとに、ゆっくりと話を聞いてあげてください。

4. 「人は人、自分は自分」

早々に内定を獲得した友達などと比較することは避けてください。皆がみな、同じ会社へ就職するわけではないのです。お子さんを含め、保護者の方も「人は人、自分は自分」という前向きな心を持ち、お子さんの長所や短所、ご自身の社会人としての仕事観など、お子さんの「視野を広げる」アドバイスをしてください。

5. 保護者の思いを押し付けたり、戸惑うような発言は禁物

「好きなようにしなさい。と言っていたのに、急に公務員になりなさいと言い出した…」など、お子さんを思っての発言が、かえってお子さんを困らせることもあります。保護者の思いを押し付けるのではなく、お子さんの意思を尊重しながら、互いに納得するまで話し合うことが大切です。

6. 経済的な支援を

就職活動にはたくさんのお金がかかります。リクルートスーツや鞄、靴をはじめ、証明写真の撮影、食事代、身だしなみ等々。なかでも特に大きな出費となるのが交通費です。お子さんの最大の支援者として、精神面のサポートだけでなく、金銭面でも支援をお願いします。

最後に、後援会の皆様の平素からのご支援に対して心から感謝を申し上げます。今後も皆様のご意見をいただきながら、学務部の運営に努めてまいります所存です。ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

情報項目	親の世代	現在
大学進学	20%～25%	50%以上
就職の心構え	職に就くのが当たり前の時代	本人のやりたいことを優先している
採用市場	拡大傾向(売り手市場)	2013年まで氷河期(買い手市場)、2014年から中小企業の売り手市場、2020年は新型コロナウイルスによる影響
就職情報の収集	大学の求人票 ゼミ・サークルの先輩の訪問 親・親類・知人の紹介(縁故)	企業のホームページ 就職サイト
就職活動の時期	大学4年次の夏から秋	大学3年次の3月から解禁
会社訪問	電話で問い合わせの上、会社へ訪問	会社説明会をWeb予約 説明会の会場で話を聞く
職業体験	アルバイト	低学年層からインターンシップの受入れがある(大学では単位化が進んでいる)
応募方法	履歴書郵送	Webエントリー エントリーシートの送付
筆記試験	企業が作成した一般常識試験・論作文	テストサービスが提供する試験 Webテストやマークシートが主流
面接	個人面接	集団、個人、企画プレゼンテーション、グループディスカッション他

【特集】
就活最前線

学生支援チームからのご報告

■ 学生支援チーム チームリーダー 伊藤元房



令和2年1月から始まつた新型コロナウイルスとの戦いが今もまだ続いている。本学においても手指消毒用アルコールの設置や食堂でのアロゾル感染を防止するためのパーテーションの設置、紫外線空気殺菌機、空気清浄機の設置等による対策を行い、早期から対面を中心とした授業を実施してきましたが、クラスター等を起こすことなく運営できています。ただし、芸大祭の中止やクラブ活動の活動制限、施設の利用制限など学生の皆さんには大変な思いをさせることとなりました。

就職活動においても学生達は戸惑いの連続だったと思います。コロナ前までの面接試験は、対面以外考えることも出来なかったことが、このコロナ禍においては対面の面接試験が一度もなくWeb面接のみで内定となるケースがあります。また、長期化するコロナ生活においては、Web面接と対面の面接のハイブリッドが増えつつあるようです。インターンシップや企業の説明会においても面接同様に、Webを中心としつつ、対面も取り入れて実施しています。

このコロナ禍において急速に広がったオンライン就活ですが、プラスの面も出てきております。学生からは、「今まで東京開催の説明会などはお金がかかるので躊躇していたが、Web開催となり機会が広がった」「授業があり対面では参加できない説明会もWeb実施なので、参加すること

ができた」「対面だとかなり緊張する面接試験が、一次面接、二次面接がWeb実施だったので、少し楽だった」など肯定的に捉える学生も増えております。Z世代と言われる現在の大学生にとっては、このようなオンライン就活についても柔軟に対応することが出来たのだと思います。

新型コロナウイルスとの戦いが長期化する中で、本学における就職支援も様々な対応が求められました。就職行事については、内容を確認しながらオンラインと対面で実施しています。大勢の学生に伝えなければならない履歴書・エントリーシートの記入方法の講座などはオンラインで実施し、インターンシップに参加するためのマナー講座などは対面で実施しました。個別相談については、学生の要望によりオンラインと対面の両方で実施しています。コロナ禍において、将来に対する不安も高まっていることから、毎週水曜日に「キャリアコンサルタント※1 職員によるキャリア相談DAY」を実施し、1年生から4年生の個別の悩みに対応してきました。

また、不安定な景気動向等から内定取り消しや様々な就職に関するトラブルに対応できるように、弁護士、社会保険労務士等の専門家と相談窓口を設け対応に当たっています。

最後に、これからも本学学生が一人で悩み苦しむことがないよう、後援会にご支援いただきながら、キャリアセンターの教職員が一丸となって支援してまいります。引き続きのご支援何卒宜しくお願い致します。

※1 キャリアコンサルタント

キャリアコンサルタントとは、キャリアコンサルティングを行う専門家で、職業の選択、職業生活設計又は職業能力の開発及び向上に関する相談、助言及び指導を行います。平成28年4月に国家資格となりました。

■ 学生支援チーム 就職チームリーダー 水口洋輔

2022年3月卒業生の就職活動戦線は、長引くコロナ禍の影響により厳しいものとなりました。特に、コロナ禍の収束に不透明感が強く、中堅・中小企業が採用予定数を減らしたことが要因の一つです。

コロナ禍で混乱した前年度の先輩を見ているせいか、就職活動を行う学生の皆さんの動き出しへは、例年になく早かったように思います。授業等でオンラインに慣れた学年ということもあり、面接等のオンライン選考には違和感なく対応できていたと思います。

新卒採用の選考における代表的な質問として、「自己PR」「学生時代に頑張ったこと」「志望動機」がありますが、様々なものがオンライン化したことにより、サークルや学外活動を対面で行なうことが難しくなったせいで、「学生時代に頑張ったこと」、いわゆる「ガクチカ」を書くためのエピソードがないというのは、最近の学生さんの悩みでもあり、企業側も質問し難くなっています。また、企業としては、対面での面接機会を減らさざるを得ず、人柄や雰囲気という貴重な情報が掴みづらくなっています。求職者の潜在能力や人柄が把握しづらくなった事情から、企業の人事は選考方法に考えを巡らし、今まで取り入れていなかったグループディスカッション（グループワークも含む）や小論文を追加で実施したり、

オンライン面接の回数を増やすなどの解決策を講じています。このような背景を鑑みると、これまで以上に選考を潜り抜けることが厳しくなってきているとも言えるでしょう。

しかし、就職活動を成功させるための基本的な考え方は、従来と変わっていません。2年生や3年生の早い段階で自分の進路について意思決定し、

インターンシップに参加する等の行動をする学生さんは、自身が納得のいく結果を得ています。当初思い描いていた理想とは違っていたとしても、自分の意思で決めたという点が、自己効力感を高め、納得感のある就職活動を終えたという気持ちになるのでしょう。

就職活動では、その過程で様々な壁にぶつかりながら軌道修正していく必要があります。準備期間は長ければ長いほど良いと思います。我々、学生支援チームは、低学年の学生さんにも自身のキャリアに関する意識を高めていただけるような施策を展開すると同時に、企業の採用動向を注視し、今の時代に適切な対策をお伝えできるように日々研鑽を積んで参ります。



(就活最前線) 私が就職内定をもらうまで

芸術学部芸術学科デザイン領域テキスタイルデザインコース
4年生 加藤ひいろ

私の就職活動は成長とタイミングでした。

就職活動は一歩目がとても重たかったです。たくさんの会社の中から自分の希望に合う会社を見つけることに苦労し、初めて書く履歴書に苦戦します。説明会に参加するための申し込みをすることにすら初めは緊張しました。しかし、履歴書は何枚か書くうちに慣れました。企業とのやり取りの流れは就職活動を進めていく中でわかります。選考を通ったこと、通らなかったこと、ひとつひとつが学びで次に繋がっていました。

履歴書や面接では、自分の良いところを素直に表現し、自信を持って伝えることが大切だと考えています。しかし、自分の良いところを表現するのは照れくさく、自信を持つことは難しいです。そんなとき、私はキャリアサポート室で履歴書の確認、面接の練習をしてもらいました。客観的で具体的なアドバイスが私に自信を与えてくれました。

私は履歴書の書き方や面接のやり方を実際に経験しながら覚えていきました。準備がギリギリになることもあったので自己PRなど履歴書に書く内容とSPIの勉強は3月の本格的な就職活動のスタートよりも前から準備しておけば良かったなと感じました。

人間発達学部こども発達学科

4年生 小笠原美咲

私は地元である長野県飯田市の保育職(公務員)に内定をいただき、春から、公立園に勤めます。保育士になりたいという気持ちでこの大学に入学しましたが、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に関する授業を履修する中で、一時期、小学校教諭への関心も高まりました。しかし、1年生の冬に小学校体験活動に参加し、小学生と関わる中で、逆に就学前の子どもたちに関わる幼稚園教諭か保育士になりたいという確信を得ました。

3年生の時はコロナ禍でしたが、幼稚園と保育園で実習を行い、また、認定こども園で保育補助として様々な年齢の子どもと関わる機会をいただきました。

3年生の終わりには就職対策の勉強をどこから始めればよいのかさえわからずにいましたが、保育所実習を通して飯田市(公立保育士)を受験するという目標が定まりました。

4年生になり、就職活動が一気に加速してきました。飯田市は募集人数が少ないため、一宮市(愛知県)も受験ましたが、試験日程は同時期なのに受験内容は異なり、それぞれに応じた準備をすることが、とても大変でした。

デザイン職を目指すポートフォリオが必要です。私は3年生の時に1冊つくりました。面接時に見せるものだと思っていたのですが履歴書と一緒に郵送での提出を求められることが多かったです。提出が同時期になることや返却されないことがあるのでポートフォリオは複数用意することが必要でした。

また、私は教職課程をとっていたので教育実習と就職活動の両立が必要でした。実習と日程が被り調整がうまく行かなかった面接もありました。内定をいただけたTBカワシマ株式会社も実習中に書類選考通過の連絡がきました。初め提案があった面接の日時は実習の期間と被っていたのですが変更していただくことができました。それが今の結果に繋がったので就職活動はタイミングだと思いました。

このようなたくさんの経験を通して就職活動の中で成長することができました。不安もたくさんあると思いますが自分のペースで自分の納得のいく選択することが大切だと思います。

(TBカワシマ株式会社内定)



そんな中、私の心の支えとなったのが一緒に勉強を頑張っている友人たちの存在でした。暗記問題を出し合ったり、わからないSPIの問題を教えてもらったり、また、電話をつなぎながら黙々と勉強をし、何時間取り組んだかを互いに認め合ったりなどもしました。

私が就職活動において一番大切なのは人との繋がりです。お忙しい中何度も面接練習をしてくださった先生や試験の情報や勉強のコツを教えてくださった先輩、励ましあった友人たちの支えがあってこそ乗り越えることができました。今後も人との繋がりを大切にしていきたいです。また、エントリーシートの作成や面接試験では、小学校体験活動やハワイ研修での経験も自分の武器となりました。在学生の皆さんにも様々なことに挑戦し、多くの人と関わってほしいと思います。頑張ってください！

(飯田市保育職(公務員)内定)

**芸術学部芸術学科美術領域アートクリエイターコース
4年生 竹内竜也**

私は、良いご縁があり愛知県大府市の模型会社に内定をいただきました。

就職を含めこの先の人生を考える上で、人との関わりが大きな要因になったと実感しています。「内定を得るまでにどんなことをしたのか」と「その中で自分が大事に思ったこと」についてお話しします。

大まかには、人の話を聞いたり、人に出会うことです。具体的には、自分の所属するコースの先生、クリエイターズマーケットで出店している方、インターン先の企業の方などとの出会いです。加えて動画を投稿している様々な方のお話しです。趣味でも仕事でも、何かに興味を持ち、熱心に、時には楽しそうに取り組まれている方が大学内や大学外にいます。自分に明確な軸がない状況であっても、その方々から興味や関心を受け取れます。投稿された動画を見て聞くことでもそれは受け取れました。また、そうして感じた考えを友人や家族、大学

の方々と話すことで整理されていきました。

その中で、私は「なんとなくものづくりに関わることがしたい」から「必ずしもものづくりである必要はない」を経て「いろいろなものづくりをしている会社に行きたい」と変化していました。

なんとなくやってみたり、コースのプロジェクトに参加してみたり、その中で失敗して思うように進まなかつたり、そうした経験が自分で考え選択することや興味の幅を広げる手助けをしてくれました。

就活としては、2年次後期・模型業界で働く非常勤の先生と沢山話すことで興味が深まり、3年次後期・授業でプロモデラーさんが来られる機会に会社の名前を紹介していただき、キャリアサポート室に相談をしながら、会社に機会を与えていただいて内定へと至りました。

お伝えしたいのは、みんなと違っていてもいいし、みんなと同じでもいいということです。就活においても言えると思います。辛いことも笑顔になれることもあります。自分を見守ってあげてください。

(株式会社新巧模型製作所内定)



**芸術学部芸術学科音楽領域音楽ケアデザインコース
4年生 岩本智凪**

私は、1、2年生は音楽総合コースで声優アクティングと音楽ケアデザインの勉強を、3年生から音楽ケアデザインコースに転コースし音楽療法を専門的に勉強していました。

音楽療法を学ぶ中で、分野を大きく、子ども、成人、高齢者と分けて4年間かけてそれぞれの分野を専門的に学んでいくのですが、3領域の中で特に子どもの分野に興味を持っていたので、就職活動の時は子どもの施設や園を中心にしていました。福祉施設での音楽療法をメジャーとしている福祉施設は多くはないため、まずは音楽療法を取り入れているか、また興味を持っているのかどうかをホームページや実際に見学に行って確認する

必要があります。就職活動で様々な施設、会社を見ていくうちに自分自身の将来に対する考え方も変化し、最終的に障がいを持っている方を支

援する成人施設への就職が決定しました。決定を決めた大きな理由としては、支援に対する考え方方が私の考えているものと近いものを感じたからです。一般企業でも経営理念というものがあると思いますが、やはり働き方に対して自分の考えと真逆の考え方を持っている会社には就きたくないと思います。なので、就職活動する中で、施設や会社の理念にも注目してみるのも良いと思います。

将来何をやりたいのかわからない、という方もいると思います。まずは、趣味程度でも気になるものはやってみることが大切だと思います。私は、サークルでのボランティアや学校行事に参加したり、学校外ではオーディションを受けミュージカルや歌のステージに出演したりしました。今はコロナ禍ということであり難しい場合も多いかもしれません、学校内には様々な分野を専門としている先生、先輩、友人がたくさんいます。知らないことを知るためにもぜひたくさん話してみてください。もしかしたらどこかでチャンスが巡ってくるかもしれません。

はじめての就職活動でまず何から始めればいいかもわからないと思いますが、コースの先生やキャリアの職員さん、また就職活動を乗り越えてきた先輩方にどんどん質問してください。皆さんの学校生活、就職活動が有意義なものになることを祈っています！

(社会福祉法人 あさみどりの会内定)





後援会ニュース



東西両キャンパスに「個人面接ブース」が新設されました

就職活動における面接等のオンライン化に対応するため、就活生の皆さんのが静穏かつネットワーク環境が良い状況でオンライン選考（面接）に臨むための設備として、学務部学生支援チームでは、名古屋芸術大学後援会の資金援助を基に、オンライン面接用個別ブースを西キャンパスY棟（事務棟）1階、学生支援チーム相談コーナーに設置しました。

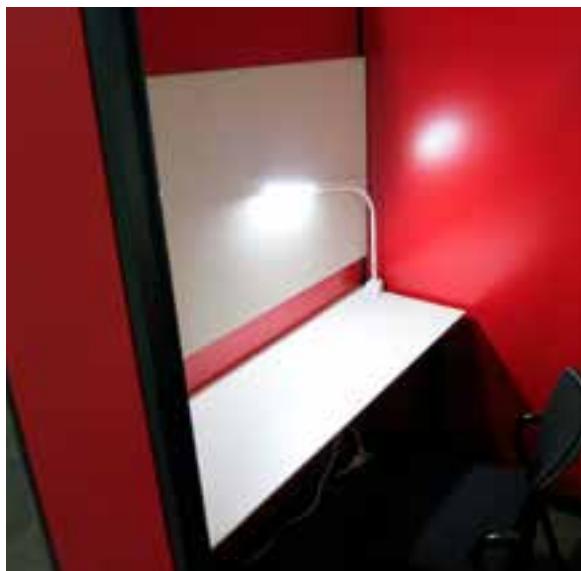
面接用個別ブースは導入早々西キャンパスでは大好評を博し、これまで個人向け楽器レッスン室を臨時のオンライン面接室に利用してきた東キャンパスの学生からも導入を求める声が上がり、学生支援チームでは東キャンパスへの追加設置も決めました。

就活生の皆さんのが面接ブースを活用し、就職内定獲得の笑顔のお役に立てるなら、後援会にとってこんなうれしいことはありません。後援会は就活生の皆さんを全力で応援します！

○予約方法について

ご利用に際しては事前予約が必要です。予約方法についてはユニバーサルパスポートからご確認いただくか、または東西両キャンパスの学生支援チームにお問い合わせください。

☎ [西] 0568-24-0329
[東] 0568-24-3962 ([いずれも直通])
E-mail : career@nua.ac.jp
(取材／後援会広報委員・理事 橋本博文)



ブース内部の様子



ブース外観



利用風景

絵画サークル「壁の華」会長交代と連絡先変更のお知らせ

新年度を迎える、後援会の公認サークルである絵画グループ「壁の華」の会長が交代することになりましたので、お知らせいたします。

1995年創立の同グループにおいて、2012年より10年間にわたりて会長をお務めいただきました、宇佐見誠也様が、ご勇退されることになりました(宇佐見様は、『後援会第1回功労者表彰』を受賞されております。詳細は後援会報第69号参照)。今後とも大所高所より、ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひいたします。

後任の新会長には石黒和広後援会副会長(会計担当)の就任が決まりました。

交代に伴い、「壁の華」の連絡先が下記メールアドレスに変更になりました。

(本誌63ページQRコードからも読み取り可能です。)

e-mail : kabenohana.nua@gmail.com

(後援会サークル共同委員会)



お疲れさまでした
前会長 宇佐見 誠也氏



新会長就任が決まった
石黒 和広副会長

加速する大学院改革

大学院改革が進んでいます。

過日開催された、学校法人名古屋自由学院評議員会で菊井政右衛門評議員(後援会監事)との質疑応答の中で、津田佳紀副学長が答えました。大学院では学部で学んだ知識や理論を応用し、更に踏み込んだ学術的な研究を行い、将来の研究者・教育者・プロフェッショナルアーティストの育成を目指します。教員免許も一種免許状より上位の専修免許状が取得でき、初任給は高いし、教員採用試験を目指す学生には有利です。現在大学院には、4研究科6専攻20研究(コース)があります。大学院教育を整備・充実させ、内部進学率を高めます。また一般・推薦・AO・社会人入試等、外部からの受験も促進します。新入学時に将来の大学院進学も視野に入れ、創作・学修に励んでみては如何でしょうか。(K)



「まん防」解除、でも油断大敵!

政府の基本的対処方針分科会は3月17日午後、東京・大阪・愛知・岐阜県など18都道府県に適用していた、新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」について、21日の期限で全面解除することを決定しました。今回の重点措置が解除されるのは、約2カ月半ぶりです。

オミクロン変異株の特徴は、弱毒性と強力な感染力。そして無症状。

せき、鼻水、喉の痛み、37.5℃前後の熱、倦怠感など、普通のカゼと見分けがつきません。

だから感染した本人もまわりも普通のカゼと勘違いして、ごく普通に生活してしまう。

ところが従来型に較べて感染力は何十倍も強いから、その間に片っ端から周りにうつしまくる。

呼吸が苦しい、食事が喉を通らないなどの異変を感じて初めて病院を受診するケースが多いので厄介です。

解除後も油断大敵。マスク、手洗い(消毒)、うがいに心がけ、感染拡大防止につとめましょう!



(新型コロナウイルス感染症対策特別委員会)

Challenge to the future BORDERLESS

親の想い

『感謝』

芸術学部 芸術学科 美術領域
アートクリエイターコース 2年生 柳沼家飼猫 どらみ

君が野良猫だった私を助けてくれてから、早いもので12年たちました。

君は絵を描くことが大好きで、私の絵もたくさん描いてくれました。

描きかけの絵の上に寝てしまって、君の描画の邪魔をしたことも何度もあったね。

絵の具がついた足で走り回って大騒ぎしたこと。

ずっとそばにいて、君のそんな姿を見てきたので、美術系の高校、大学に進学したのも自然なことです。

将来は美術の先生になりたくて、学科の勉強だけでなく、教員免許取得の為の勉強にも励んでいます。夢を叶えることは容易ではないかも知れないけれど、私はいつも君を応援しています。いつの間にかこの家の誰よりも年長者になってしまった私だけ、君の活躍する姿を目にするまで長生きしようと思っています。



自画像

親の想い

芸術学部 芸術学科 音楽領域
ミュージックエンターテイメント・ディレクションコース
1年生 父 恒川 和久



高校へ進学するときは「こういう校風だからこの高校に行きたい」だった。勉学・部活・学校行事に励み、また多くの友人に恵まれ、充実した3年間であった。卒業式のときには、この高校に通って良かったと実感した。

大学へ進学するときは「将来やりたい仕事のために必要なスキルを身に着けたいので名古屋芸術大学に行きたい」だった。コロナ禍で始まった学生生活に不安を感じたのは親だけであった。本人は、対面授業、リモート授業の併用にうまく対応しながら勉学に励んでいる。また、新たな友人もできており、学生生活は順調にスタートした。

大学生活は、その後の人生に大きく影響する。多くの専門知識を習得するとともに、見識を広げ、ヒトとして成長してほしい。まだ先の話であるが、卒業して社会へ羽ばたく日が楽しみである。それまで、娘の応援団長として、近くで見守っていきたい。

「未来へ」

芸術学部 芸術学科 デザイン領域
文芸ライティングコース 3年生 母 江上 友加里

早いもので、娘が名古屋芸術大学に入学して3年が経とうとしております。正直なところ、もちろんすべてが順調な大学生活と言いたることはできません。時には若者らしい悩みにぶつかることもあります。また、2年次・3年次とコロナ禍の影響も被りました。しかし、先生方やコースの皆さんのおかげで、大学生活を精一杯楽しんでいる様子を親として信じて見守ることが出来ます。



国語は好きだし得意科目だけど、ただの国文学部には全く魅力を感じない。表現ツールとしての日本語を研究し、創作することができるが本当に嬉しい。と話している娘が、希望通りの研究に思う存分打ち込んでくれたら…それが親としての願いです。名芸でしか経験できないこの学びの機会に感謝し、あと一年となった学生生活を、力いっぱい悔いなく過ごすことができるよう、エールを送ります。

名古屋芸術大学に感謝感謝

芸術学部 芸術学科 美術領域
日本画コース 4年生 父 橋本 博文

我が子も4年になりましたが、名古屋芸術大学の学生さんに対するケアは素晴らしいものでした。まず掛川の花鳥園に学生を連れていくクロッキーをさせたりしました。芸術大学の作品出展もユニークなものでした。何と作品を学生が買値をつけて出展するのです。我が子は鳥獣戯画のパロディーを出展しました。また3年の時我が子は面白い絵を描きました。それは赤鬼と竜が赤子を取り合っている絵です。それは竜が赤子を取ろうとし、それを子供である赤子を赤鬼が必死に取り返そうとも解釈できました。また赤鬼が本当に鬼で赤子をあやめようとし、それを正義の竜が助けようとも解釈できました。我が子は観る者の側の解釈に委ねると言いました。このような柔軟な思考ができるようになったのも名古屋芸術大学の教育のおかげと思っております。我が子は乳製品の製造会社に内定が決まりましたが、名古屋芸術大学魂を持って日本画をこれからも描き続けるようです。名古屋芸術大学には感謝感謝です。



子の想い



三年間を振り返る

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域
リベラルアーツコース 3年生 山口 穂乃香

学生生活も残り一年となりました。名芸での三年間は、好きなことに打ちこんだ一年間と、新たな環境で苦手なことにも取り組んだ二年間でした。最初の一年は幼い頃から好きなクラシック音楽と真剣に向き合いました。高校までとは環境、求められるレベルは違いますが、私にとってクラシック音楽は聴き慣れたもので、楽器の練習も入学前から積み重ねてきたことでした。



それまで同じことを繰り返してきた私が、二年目からは芸術教養領域で学ぶことになりました。そこでは私がこれまで逃げ続けてきた、文章を書くこと、人前で発表すること、話し合う機会が設けられていました。転領域した年は全面オンラインでスタートし、新しい領域で上手くやっていけるか、PCIに不慣れな私がオンライン授業についていけるか、すごく不安でした。新しい環境や苦手意識のあることに取り組まねばならないことにストレスを感じていました。しかし、二年過ごした今、苦手に取り組む機会があったおかげで、これまでで一番自分の成長を感じています。音楽以外にも自然と興味を持つようになりました。社会人になってからも、初めてや苦手なことに対して重く捉え過ぎず、前向きに関わりたいです。

「ツナマヨ」

芸術学部 芸術学科 音楽領域
音楽総合コース 2年生 九頭魔鬼 凌介(芸名)

僕はこの学校に来させてもらって、いくつかの夢が出来ました。一つ目は日本の音楽を知らない国に音楽の素晴らしさを伝えることです。特に伝えたい人達は、北センチネル島に住むセンチネル族です。将来、iPhone 片手に彼らの島に行き、日本の音楽を聴かせます。ちなみに僕の好きなジャンルがメタルなので、それをメインに聴かせたいと思っています。彼らが仲良く iPhone を囲みヘッドバンギングをしている姿が目に浮かびます。二つ目は海外に移住することです。世界には、まだ僕の知らない音楽がたくさんあります。一つ目の夢みたいに、世界に日本の音楽を伝えたいと同時に、自分の知らない音楽を僕自身も知りたいと考えています。それと海外に移住したい理由はもう一つあり、それはブロンドの美女と結婚したいからです。逆に言えば、海外に移住したい理由の 10 割はそれです。なので、この学校に通っている間に英語を喋れるようにします。前言撤回します。



3年生の矜持

芸術学部 芸術学科 美術領域
アートクリエイターコース 3年生 渡邊 杏

3年生も後期に入り、本格的に将来について考えざるを得ない状況になりました。あえて取り繕わずに正直に言うと、就職の事なんて考えたくありません。将来のことを考えると鬱屈して、眠くなっちゃいます。ここで大事なのは悩んでいるのは 1 人じゃないこと。そして、周りの人と話して相談することの重要さです。これは綺麗事とかでもなんでもなく、悩みを吐き出して共有し合うと心が楽になります。現に、周りの友人に人とあまり話さずに溜め込んで不安になってしまった人がいます。今、私の周りにはありがたい事に話を聞いてもらったり、逆に聞いたりして情報を共有し合える環境下にいられています。人はひとりじゃ生きていけないんだと思うと同時に、過去のことを思い出しました。過去、人と関わることがダサいと何故か勘違いしていた時期があり、とても狭いコミュニティの中でしか人と関わりあっていませんでした。そのせいで、皆がどうしているのかが分からずあやふやなまま大学とかも決めてしましました。もし今 1 人で何とかしようと思っている人がいたら、プライドをかなぐり捨てて家族などと話し合って考えをまとめていったほうがいいのではないでしょうか。





第2回後援会賞授与式が挙行されました

2月25日(金)午後4時より、西キャンパスB棟2階大講義室において、第49回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞、第25回ブライトン大学賞授与式が執り行われ、第2回名古屋芸術大学後援会賞の授与式も同時に行われました。

表彰式には矢野章子会長、荻須紀子副会長が出席しました。

第2回後援会賞の栄誉に輝いたのは、次の四名の方々でした。



・佐野七海「こころ」

日本画コース 4年生

・大嶽涼太「Mind-set Drawings for 17days」

洋画コース 4年生

・島谷研志「未来人ラボ」

メディアコミュニケーションデザインコース 4年生

・川瀬詩乃「金生山」

ヴィジュアルデザ
インコース 4年生



受賞者と記念撮影

受賞者の皆さんには、後援会から表彰状と副賞(5千円相当のクオカード)が贈られました。

今年も残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大による『まん延防止等重点措置』発出中のため、英国ブライトン大学代表団の来日は中止となり、さらに卒展のオープニングセレモニーや祝賀パーティーも中止となりました。

表彰式後の写真撮影で、矢野会長から第2回後援会賞受賞者の皆さんにお祝いの言葉が伝えられました。

「本日はおめでとうございます。コロナ禍において文化や芸術の力がこれまで以上に重要とされるようになりました。名古屋芸術大学で学んだ力を基に、それぞれの分野で時代に沿った若い発想でムーブメントを起こしてください。後援会はこれからもずっと頑張る皆さんを応援します。」

この他にも北名古屋市長賞(卒展優秀賞次席)、北名古屋市教育委員会賞(同三席)、同窓会、CBCテレビ、画荘ヴィーナス、学生食堂賞など、企業賞部門の新設追加も含めると全部で17もの賞が用意され、受賞者が発表されたたびに大きな拍手が巻き起こっていました。

(卒展・修了制作展後援会審査委員会)



作品審査中の委員のみなさん

名古屋芸術大学芸術大学展選出

賞	領域	対象コース	学生名	作品タイトル
名古屋芸術大学大賞	美術	日本画	佐野 七海	こころ
	美術	日本画	鴎瀬 真旺	Lumiere eternelle
	美術	洋画	兼平 恵真	煉獄より?廻天のマッチポンプ?
	美術	洋画	大嶽 涼太	Mind-set Drawings for 17 days
	美術	洋画	清瀬モモコ	綴み、紡ぎゆく
	美術	アートクリエイター	佐藤 萌世	colloon
	美術	アートクリエイター	松岡 真矢	よっこいしょ。
	美術	小林 規子	裏の裏と裏に愛	
	デザイン	VD	川瀬 詩乃	金生山
	デザイン	LS	渡邊 愛奈	かたとる

賞	領域	対象コース	学生名	作品タイトル
優秀賞	美術	日本画	加納 遥	棲み家
	美術	日本画	佐野 七海	こころ
	美術	日本画	鴎瀬 真旺	Lumiere eternelle
	美術	洋画	兼平 恵真	煉獄より~廻天のマッチポンプ~
	美術	洋画	大嶽 涼太	Mind-set Drawings for 17 days
	美術	洋画	清瀬モモコ	綴み、紡ぎゆく
	美術	洋画	古川 亮河	all/oar
	美術	洋画	早川龍之介	サヨナラだ!
	美術	アートクリエイター	佐藤 萌世	colloon
	美術	アートクリエイター	松岡 真矢	よっこいしょ。
	デザイン	VD	小久保 楓	百人百図
	デザイン	VD	川瀬 詩乃	金生山
	デザイン	L	古川 廉悟	ペチュニアの想う夢~ジエンダー規範をアップデートするBL~
	デザイン	MMD	東元 佐穂	どこでも恐竜展~好奇心を育てる子ども向けワークショップ~
	デザイン	MMD	平山 亮太	反復の振る舞い
	デザイン	MMD	石川 桃子	魔法のない世界で生きるということ
	デザイン	MMD	加藤 詩野	ビブリオキッキンかりがね
	デザイン	MCD	島谷 研志	未来人ラボ
	デザイン	MCD	井上 真緒	surface
	デザイン	ID	オキタ 成淳	bloom
デザイン	CD	濱口 栄那	Liberte	
デザイン	SD	井手窪祐衣	ぽん~ちょっと置きのためのスペース~	
デザイン	SD	中川 裕太	コラージュ移動式屋台での演説地域活性化~	
デザイン	CMD	岡島 真怜	人狼	
デザイン	CMD	田村 麻実	弔い	
デザイン	TD	加藤ひいろ	終日パジャマ	
デザイン	TD	坂本 萌	みみかさね	
デザイン	LS	渡邊 愛奈	かたとる	
デザイン	文芸ライティング	辻 鮎里	物際目	
芸術教養	リベラルアーツ	遠藤 美月	コミュニケーションメディアとしてのキャラクター	

賞	領域	対象コース	学生名	作品タイトル
北名古屋市教育委員会賞	美術	洋画	兼平 恵真	煉獄より~廻天のマッチポンプ~
北名古屋市長賞	美術	洋画	大嶽 涼太	Mind-set Drawings for 17 days
最優秀賞	デザイン	MMD	東元 佐穂	どこでも恐竜展~好奇心を育てる子ども向けワークショップ~

賞	領域	対象コース	学生名	作品タイトル
大学院修了制作展 優秀賞	大学院	美術研究科 日本画制作	三柳 有輝	雪楼混降図
	大学院	デザイン研究科 ジュニアデザイナ研究	徐 環	月露体

賞	領域	対象コース	学生名	作品タイトル
名古屋芸術大学後援会賞	美術	日本画	佐野 七海	こころ
美術	洋画	大嶽 涼太	Mind-set Drawings for 17 days	
デザイン	MCD	島谷 研志	未来人ラボ	
デザイン	VD	川瀬 詩乃	金生山	
名古屋芸術大学美術・ デザイン同窓会賞	美術	日本画	加納 遥	棲み家
デザイン	TD	新木 萌愛	ぐるぐるcosmos	
CBCテレビ賞	デザイン	VD	川瀬 詩乃	金生山
美術	洋画	清瀬モモコ	綴み、紡ぎゆく	
画荘ヴィーナス賞	L	古川 廉悟	ペチュニアの想う夢~ジエンダー規範をアップデートするBL~	
デザイン	文芸ライティング	辻 鮎里	物際目	
ギャラリーかんしょ賞	美術	日本画	辻 南々子	記憶
美術	日本画	大岩弓未永	壺葬せる	
美術	日本画	鴎瀬 真旺	Lumiere eternelle	
美術	洋画	桑原 春海	少女	
後藤紙店賞	美術	日本画	加納 遥	棲み家
美術	日本画	鴎瀬 真旺	Lumiere eternelle	
古川美術館賞	アートクリエイター	佐藤 萌世	colloon	
デザイン	CMD	田村 麻実	弔い	
共栄食品 学生食堂賞	デザイン	MCD	島谷 研志	未来人ラボ
美術	LS	渡邊 愛奈	かたとる	
美濃紙芸賞	日本画	青木 莉華	浮遊	
大学院	美術研究科 日本画制作	三柳 有輝	雪楼混降図	
森荘賞	日本画	中根 彩花	迷える羊	
ギャラリーMOS賞	日本画	佐野 七海	こころ	
5RHall & Gallery賞	美術	日本画	三柳 有輝	雪楼混降図
美術	日本画	加納 遥	棲み家	
美術	洋画	宮向井奈桜	知覚する主体	
美術	アートクリエイター	真野佳那子	泰平を求む	
立風賞	日本画	青木 莉華	浮遊	
美術	日本画	吉田 百花	泰平を求む	
加藤材店賞	日本画	加納 遥	棲み家	



2021年度 第25回ブライトン大学賞授与式

2022年2月25日(金)本学西キャンパスB棟大講義室にて「第49回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 優秀賞 第25回ブライトン大学賞授与式」が開催されました。今年も、ブライトン大学の審査員を卒業制作展にお迎えすることができないため、審査はノミネート作品に教員からの推薦文、学生が用意した作品解説、展示の写真や動画を送付して遠隔で行いました。審査員は芸術・メディア学部のCaterina Radvan先生とJeremy Radvan先生が、3年連続して引き受けさせてくださいました。お二人からは、

「名古屋芸術大学卒業制作展 ブライトン大学賞の審査員に任命され光栄に思っています。才能豊かで勤勉な学生の中から受賞者を選ぶのは難しい作業でした。…(中略)…全ての卒業・修了生の皆さんが、将来のキャリアと人生につながる教育を受けた受賞者であることを忘れないでください。卒業生の皆さん、おめでとうございます。」と、心温かく未来への希望にあふれた言葉が卒業生に贈られ、美術、デザイン、芸術教養領域よりノミネートされた全29作品の中から、



卒業制作展優秀賞とブライトン大学賞受賞者集合写真



国際交流センター
センター長 松崎 久美

入賞作品10点が発表されました。

グランプリ作品は、"A hugely ambitious and exciting project. Innovative and dramatic placement of imagery within the exhibition space..." (非常に意欲的で面白い作品。展示空間におけるイメージの配置が斬新でドラマチックである)との講評をいただいた、デザイン領域イラストレーションコース 田中嵩人さんの“SKYGIRL <HEROINE'S IDENTITY>”です。グランプリを受賞した田中さんは受賞の喜びとともに「私は自分の描くフィクションの物語で現実の人々に勇気を与え希望を見出してもらいたいと思っています。ヒーローを描くことで読者のヒーローになることを目標に、これからも活動していきたいと思っています」と抱負を語ってくれました。

遠隔審査では作品一つ一つに添えられた資料は膨大な量となります。そのため審査は大変な作業であったこと想像します。短時間で審査をしてくださったブライトン大学の先生に、改めて感謝申し上げます。来年こそは、ブライトン大学から審査員をお迎えし、作品に触れ学生達と交流し、共に卒業とブライトン大学賞を祝えることを心から期待します。



賞	領域	コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン領域	イラストレーション	田中 嵩人	SKYGIRL “HEROINE’ S IDENTITY”
優秀賞	デザイン領域	ヴィジュアルデザイン	大熊 美央	Boxt
奨励賞	美術領域	アートクリエイター	清水 菜月	泡沫の記し
奨励賞	美術領域	アートクリエイター	村瀬 琴音	流れ星の降る夜は
佳作	美術領域	日本画	植田 百香	2006
佳作	デザイン領域	メディアデザイン	平山 亮太	反復の振る舞い
佳作	デザイン領域	インダストリアル&セラミックデザイン	渡邊 真菜	花暦皿
佳作	デザイン領域	スペースデザイン	中川 裕太	コテン～移動式屋台での諏訪地域活性化～
佳作	デザイン領域	メタル&ジュエリーデザイン	濱上 純華	伝染
佳作	デザイン領域	テキスタイルデザイン	加藤ひいろ	終日パジャマ

名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域 第49回卒業演奏会

2022年3月11日(金)にしらかわホールにて、名古屋芸術大学第49回卒業演奏会が行われました。今年度は12名の学生(学部生9名、大学院生3名)が演奏を披露しました。どの学

生も若々しい感性と卓越した技術で、会場に駆けつけた観客を魅了していました。

音楽領域主任 伊藤 孝子

名古屋芸術大学 大学院音楽研究科 第24回修了演奏会

2022年3月2日(水)に名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホールにおいて「名古屋芸術大学大学院音楽研究科第24回修了演奏会」が行われました。当初は8名の学生が出演の予定でしたが、奏者の都合により当日は6名の出

演となりました。どの学生も大学院生の演奏らしく卓越したパフォーマンスで、訪れた観客を魅了していました。

音楽研究科長 伊藤 孝子

第49回名古屋芸術大学卒業・修了制作展

第49回名古屋芸術大学卒業・修了制作展を2022年2月18日(金)～27日(日)の10日間の日程で本学西キャンパスを会場に開催致しました。残念ながら長引くコロナ禍の中、多くの関連企画の縮小・中止を余儀なくされるという悪条件下での開催となりました。そうした中、最終的には昨年度並の4708人の来場者にお越し頂きました。

今年度も後援会から「後援会賞」授与のお申し出があり、選考担当の皆様からのご推挙により、4名の作品がその栄誉に預かることができました。後援会からの日頃のご支援と併せて、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて、今回の開催で特に強く感じたのは、展示会場としてのキャンパス印象が全体としてより洗練され、また個々の作品もより適切に強く提示されていたことです。5年前、展示専用施設からキャンパス開催へと舵を切った際の大きな理由は、卒業・修了研究が創造された現場のリアルな空気感、熱気と共に学生たちの作品を鑑賞して頂きたい、そして学生たちには制約の少ない発表環境を活かし、個々の成果を存分に提示してもらいたい意図がありました。今回の展示では、展示場所の適切な選定、空間の時限的な展示環境への転換が高い次元で実現され、そのことが個々の作品、その総体としての展覧会全体の質的向上に繋がっているように感じました。

関連企画の多くを縮減する中、記念講演会は、全席予約+ビューイング会場として開催致しました。講師には編集者、評論家、西洋美術史を解説する人気ユーチューバーとしても活躍されている山田五郎様をお迎えし、「好き」を作って食っていく』の演題で卒業・修了生に向けたお話をさせて頂きました。山田様の多彩な経験と多方面への関心に裏付けられたお話は、人として持続的な生を生き抜くためには、耐えざる努力が求められることを強調され、若い学生に限らず、広く聴衆の皆さんに向けた力強いメッセージを頂きました。この他にも例年好評を得ている学生、OG.OBの作品販売事業「NUA ART SHOP」、そしてラジオ放送企画「アーラジオ」は、ゲストを交えたトーク等、多彩なプログラムが用意され、作品鑑賞の合間に耳を傾ける人の姿も目につきました。

第49回展は、学生はもとより関係各部署の協力によって

会期中大きなトラブルもなく無事終えることができました。いよいよ次年度は第50回の記念会を迎えます。卒業・修了制作展は、芸術学部だけではなく、名古屋芸術大学の教育研究機関としてのアイデンティティを学内外に強く顕現する上で重要な機会と考えています。つきましては、次年度も更に高いレベルで本事業を実施できるよう計画を進めて参りますので、引き続き皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

芸術学部長 萩原 周



入場ゲート/赤いゲートは
展覧会のアイコン



NUA ART SHOP / G棟1Fの
特設会場での作品販売



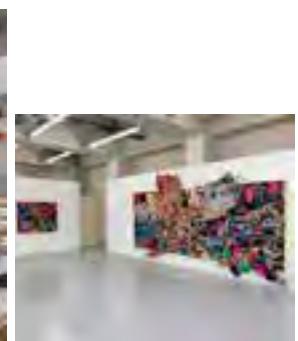
「ほん~ちょっと置きのためのスペース」
井出謹祐衣 (デザイン/スペースデザイン)



「愛」關山瑞季
(美術/アートクリエイター)



「百人百団」小久保楓
(デザイン/ビジュアルデザイン)



「煉獄より~廻天のマッチポンプ」
兼平恵真 (美術/洋画)

美術領域 卒業制作展

感染防止対策を整え、コロナ禍での安全確保を前提に行われた卒業・修了制作展での、総入場者数は4,708人、美術領域学生たちの制作、表現に対する熱量はご来場の皆様の期待を裏切ることなくとても高いものでした。

以下の文は今年度展示について各コース担当教員からのコメントです。

【日本画コース】

今展の日本画展示会場には、描かれた対象が人物や動物、風景、抽象等と幅広く表現技法も様々な作品が並び、まさに学生各自の持つ個性が花開いていました。特異な社会状況の中それでも制作をしたいという情熱を、ご家族の皆様を始め美術ファン、美術館やメディア関係者等多くの方々に学生生活の集大成として見て頂けたことを心よりうれしく思います。コース作品より大学院優秀賞1点とコース優秀賞4点、ブライトン賞佳作1点に加え、昨年度より増設された企業賞にも14点、延べ20点が受賞作として選出されました。

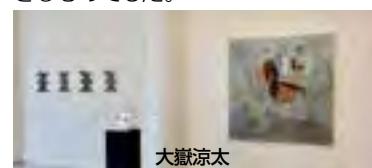


【洋画コース】

長びくコロナ禍と、極寒の中での卒業制作展でしたが、1

階から4階まで洋画棟のアトリエを広く使った展示となり、作品も、クールなミニマル系から、熱い実存のほとばしりまで、幅広い絵画表現や、アニメ、人形、書、マイワールドを部屋として作ったり、自作漫画の空間再現インスタレーションまで、名芸の洋画の自由度の高さは、もはや伝統となってきた感があります。

作品と展示空間作りに没頭した1月2月で、学生の表情が良くなってきて、最終日のやり切った感あふれる笑顔を観れたのは、教師冥利につきるものでした。



【アートクリエイターコース】

この学年の学生たちはこの2年間、コロナ禍で思う様に制作に集中できない状況の中で、それぞれの研究、制作に励んできました。コミュニケーションアートクラスの学生は立体、平面、映像など様々な分野のまったく違うタイプのユニークな仕事を、陶芸・ガラスクラスの学生は素材にこだわりながらも個性豊かな作品を制作し、展示内容はバラエティに富んだ、とても興味深いものとなりました。展示期間中は多くの方に来ていただき、直接感想やアドバイスをいたたくことが多く、この経験は卒業後の創作活動のみならず、社会に出てから大いに役立つはずです。

美術領域主任 長谷川 喜久



松岡真矢（優秀賞作品）

佐藤萌世（優秀賞作品）

芸術教養領域 卒業研究展・口頭発表会・卒業制作展

2021(R3)年3月に1期生を社会に送り出した芸術教養領域は、今年度も後援会の保護者の皆様のご尽力により、2期生および昨年度の3年次編入生が2022(R4)年3月に卒業する見込みです(2022年2月上旬・本稿執筆段階)。昨年度も今年度も、1月に東キャンパスのギャラリーで卒業研究の成果をポスターで発表する卒業研究展を開きました。同時期にソニー株式会社の内藤友宏先生を招聘し、東キャンパス1号館701教室(アッセンブリホール)にて、万全の感染対策をとりながら口頭発表会を開催しました。2月下旬には美術領域およびデザイン領域とともに西キャンパスの第49回卒業・修了制作展に参加します。西キャンパスでは昨年度と同じくB棟2階の視聴覚室が芸術教養領域の展示会場でした。

昨年度の卒業生は日韓のアイドルの相違点、SNSが主題のホラー映画分析、豊橋市の水上ビルについて研究、発表しました。今年度の4年生の卒業研究テーマは、キャラクターに多用される河童の造形の変化、ジャズの街としての岡崎市、

演劇と教育、SNSアイコンと著作権、映像と音楽のサブクリエーションサービス、人が服を身にまとう理由、就活時のみだしなみ、宇宙とロマンティシズム、「推し」と色、コミュニケーションメディアとしてのキャラクターと、いっそう多種多様となりました。これらは全て2万字を超える卒業論文として纏められました。論文はそれぞれ三部作り、執筆した学生本人が持つほか、本学図書館と本領域に保管されます。

東キャンパスの卒業研究展では、領域でチラシ・ポスターを制作しております。昨年度は本学デザイン領域ヴィジュアルデザインコースの則武輝彦先生、今年度は2021年春に同コースを優秀な成績で卒業した西川真衣さんにデザインをお願いしました。お二方とも本領域のコンセプトと、学生の卒業研究テーマを咀嚼した上でデザインしてくださり、大変ありがとうございました。また、展示で使用したイーゼル、五角形テーブル、棚などは松村淳子先生ご紹介の谷薫さんによりデザイン・制作されました。

口頭発表会はコロナ禍で開催の方法を工夫しました。昨年度は4年生と3年生の人数が少なかったため、4年生の保護者とお世話になった幾名の方々をお呼びしました。しかし、今年度は4年生と3年生の数が多く、またオミクロン株の流行を懸念し、客員教授でもある内藤先生のみに来ていただきました。また、助手の中森信福さんと鈴木まなさんは録画など、実施の根幹となる作業をしてくださいました。

卒業研究の収録動画は、来られなかつた保護者の方々や、非常勤講師の方々にご視聴いただけるようにいたします。また、1・2年生および3年生の欠席者には、今後の学びに役立てるよう、内容をレポート等にして発表してもらう予定です。

4年生が主役の発表会でしたが、3年生も活躍してくれました。4年生の発表それぞれにコメントや質問をただけではなく、厳重な感染対策を取りながら、4年生へ花束を贈りました(図)。これは3年生の田坂美夢さんや小川りいあさん達が中心となって企画し、当日は大石茉幸さん、坂穂澄さんた

ちが運営してくれた送別会代わりのサプライズでした。花束贈呈前には、中島拓威さんが作曲・演奏した曲に乗せながら4年間の思い出写真をスライドショーで流す動画が上映されました。スライドの数々を4年生は懐かしそうに見ていきました。動画を編集したのは高橋優太さんです。

芸術教養領域主任 茶谷 薫



2022年1月の卒業研究発表会を終え、感染対策を十分にとった
3年生に花束を贈呈される4年生たち

大学院美術研究科 修了制作

美術研究科生2名はこの2年間、それぞれ研究、制作に励んできました。コロナ禍の2年間でありましたが、その中でしっかりと自己研鑽を積んだ研究成果について、まず修了制作展に先立ち2月9日に催された大学院 論文等審査試験において、研究科担当教員や学生たちを前に発表しました。続いて2月18日から2月27日までの10日間にわたって今年度も学内で開催された「大学院研究科修了制作展」にお



三柳有輝の展示風景

いて、それぞれの力作を出展しました。日本画制作研究の三柳有輝さんは大きな画面に静かに対峙するような、その誠実な作品が好印象を与え、同時代表現研究の吳晨韻さんは迷路のようなインスタレーションと映像を組み合わせて一室をまるごと作品で埋め尽くし、学内施設を使用した2名の研究内容は非常に魅力的で多くの方から好評を得ていました。充実した2年間で多くを得た彼らがどのように活躍の場を広げていくのか楽しみであり、今後も注目し応援していきたい。



吳晨韻の展示風景

美術研究科長 松岡 徹

大学院デザイン研究科 修了制作

学内で行われている卒業制作展と同時に開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生17名が出品した。ヴィジュアルデザイン研究のりゅうしょさんは、墨の動きに着目した映像作品、王聖キさんは独自のバトミントンブランドのブランディング、顔展宥さんは陰影に着目した作品、李一卉さんは無気力についてのインスタレーション作品、徐璟さんは、草書体独自に発展させた月露体として制作した作品、蔡紅ケンさんは中国の伝統的文様から新しい文様を生み出す作品、吳迪さんは人と動物の共生をTシャツなどをメディアとして捉えた作品、孫雪亭さんは食の万葉集の作品、馮梓盈さんはコロナ禍の現在の生活をヴィジュアルブック作品として、制作した。メディアデザイン研究の季歓さんは夢の中の世界をアニメーション作品として、REN JUNWEIさんはノンバイナリジェンダーをテーマにした写真作品、高びょうさんは登場人物3人の物語が同時進行するアニメーション作品、を作成した。ライフスタイルデザイン研究の張強さんはジェンダーをテーマにワーク



ショップやゲームを作品として、ホウシゼイさんは分類を知育の文房具としたプロダクト作品、を制作した。クラフトデザイン研究の岩田智代さんは自身の日常を織りによる日記とした作品、金佳穎さんは伝統技術である七宝の作品を制作した。3Dデザイン研究の管継業さんは日本の伝統工芸や安価な材料を最新の技術と中国の伝統的な価値観を融合させた新しい中国式家具の作品を制作した。

コロナ禍ではあったが、名古屋芸大での院生としての貴重な2年間に彼ら自身が色々なことを感じ、体験し、研鑽した成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井 貞治



皆さん受賞おめでとうございました

2021年度の本学在学生(学部及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。
学外のイベントでの受賞者については、本人及び教員を通じて広報部に報告があった内容を掲載しています。

芸術学部 音楽領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
4月14日	第2回 IS CART International Music Competition	International School of Culture and Art	第1位 Scholarship ex -aequo CHF 1,000.00	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
5月2日～ 5月3日	岐阜国際音楽祭コンクール	岐阜国際音楽祭実行委員会	ピアノ専門一般 I 【ピアノ部門】1位 【5月2日特別賞】優秀賞、岐阜県知事賞、文化人特別賞 【5月3日特別賞】準グランプリ	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究2年	浅野 佑佳
			弦楽器部門 専門 一般 2位	チェロ	音楽学部 演奏学科 弦管打選択コース 2020年3月卒	朽名 杏樹
			管楽器部門 専門 大学生 3位	ファゴット	音楽領域 弦管打コース 4年	井手口 彩子
			声楽部門 専門 大学生 1位	声楽	音楽領域 声楽コース 3年	武田 紗那恵
			声楽部門 専門 大学生 3位	声楽	音楽領域 声楽コース 2年	佐藤 奈那江
			声楽部門 専門 一般 3位	声楽	大学院 音楽研究科 声楽専攻 オペラ表現研究 2011年3月修了	菊池 京子
6月1日	International Moscow Music Competition	IMMC	第1位	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
	5th Edition Quebec Music Competition	The International Competitions of Music and Fine Arts	Platinum賞			
6月26日	第95回LEOPOLD BELLAN国際音楽コンクール	ASSOCIATION LANCER' ART	グランジャニー特別賞	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
6月30日	Muse 2021 International Music Competition	International Association of Art "The Muse"	第1位			
7月18日	シドニー国際ピアノコンクール 2021	Sydney International Piano Competition of Australia	第6位			
8月4日	第7回 ODIN International Music Competition 2021	European Academic Artists Association (EAAA)	II STRINGSHarp 第1位			
8月28日	第6回 Rising Star GrandPrix International Music Competition Berlin	Rising Stars Grand Prix UG (haftungsbeschränkt)	第3位	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
8月31日	第9回東京国際歌曲作曲コンクール	国際芸術連盟	第2位 (1位は該当なし)			
9月11日	Music Competition Online 2021 Grand Prize	Opus Artis Paris	第3位	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
9月21日	第1回 MAP International Music Competition?	Marker And Pioneer International Culture Exchange Center	Grand Prix 優勝			
9月23日	King's Peak International Music Competition 2021	iClassical Academy	第1位			
10月15日	2021 Vancouver International Music Competition	Canada International Arts & Music Society	Bronze Prize			
12月6日	学生の音楽録音作品コンテスト	一般社団法人 日本オーディオ協会	優秀音楽作品賞	—	音楽領域 音楽総合コース 3年	伊東 桜佳、武石 智仁
	1ST INTERNATIONAL COMPETITION WORLDVISION MUSIC CONTEST National Round	CLASSIC@HOME	ROUND II (NATIONAL) 第1位	ハープ	音楽学部 器楽科 弦管打コース 2008年3月卒	高田 知子
12月11日	2021年度 第31回日本クラシック音楽コンクール	一般社団法人 日本クラシック音楽協会	ハープ部門 一般の部第2位 (1位は該当なし)			
12月14日	Music and Stars Awards	TopCultureGroup OU	Best Teacher Award (最優秀指導者賞)	—		

芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
12月14日～ 12月26日	第16回 CBC頒賀！二十歳の記憶展 2021	CBCテレビ CBCラジオ	グランプリ	4年	美術領域 洋画コース	瀬古 亮河
			名古屋市教育委員会賞	4年	美術領域 洋画コース	兼平 恵真

芸術学部 デザイン領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
7月2日～ 7月8日	第38回 日本アートメダル展 コンペティション部門	日本芸術メダル協会	新人賞	4年	デザイン領域 メタル&ジュエリーデザインコース	岡島 真怜
			入選	4年		霜山優希、鈴村依里、田村麻実、瀧上純華、深谷竜馬
				3年		稻垣水穂、奥岡夢乃、川中冴恵、仲悠里、樋口悠、山下彩渚
12月2日	第7回東京装画賞	一般社団法人 日本国書設計家協会	入選	2年	デザイン領域 イラストレーションコース	鈴木 黎
12月2日	第55回中部染色展	中部染色作家協会	中部染色作家協会賞	2021年3月卒	デザイン領域 テキスタイルデザインコース	正木 里歩
			名古屋市長賞	2021年3月卒	デザイン領域 テキスタイルデザインコース	道下 順沙
			愛知教育委員会賞	2016年3月卒	デザイン学科 テキスタイルデザインコース	山下 真実



Challenge to the future BORDERLESS

国際交流事業について

①留学生支援事業「留学生マンスリーミーティング」
②第1回 留学生グループ展 -NUA International Students Exhibition 2021-

「International Awareness Month」の開催 - ポストコロナの国際交流を見据えて -

コロナパンデミックが大学世界に与えた影響は、加速したグローバル化を逆行させるような出来事でした。しかし、内の世界に身を置く時間は、これまで見過ごしてきた物に目を向け、新しい価値に気づく機会となりました。また、テクノロジーを駆使した幅広い活動を可能とし、これからグローバル社会や国際交流の在り方にパラダイムシフトを起こし、決してマイナスばかりではなかったと感じています。

そんな2年が過ぎようとしていますが、2021年度名芸の国際交流は、危機管理体制と留学制度を整え新しいフェーズを迎えるました。秋には、交換留学をいち早く再開し3名の学生をイギリス、ドイツ、フランスへと派遣しました。そのうち1名は音楽領域から派遣する初めての交換留学生です。また、海外で取得した単位が認定できる制度を開始し、4年間で卒業できる仕組みにより、幅広い領域の学生が海外協定大学との交換留学制度の恩恵を受けられるようになりました。今の名芸の学生は比較的内向き志向の学生が多いですが、制度の周知を徹底し、少しずつ外の世界への興味を持つてもらえばと考えています。

そして、ポストコロナ時代を見据え、学生の海外への関心を高め、学内の国際的なリソースを活用した「内なる国際化」"Internationalization at home"を推進した人材育成をすすめる取り組みとして「国際交流推進月間」「International Awareness Month」を開催しました。ここで、このコロナ禍で

広まったICTを活用する交流が、国際交流ファーストステージとして生きてきます。海外協定大学担当者によるオープンキャンパスや、留学中の学生の現地レポートなどヴァーチャルな交流企画を毎週開催し、気軽に世界と繋がる経験を提供しました。海外の大学事情を知り、自身の学生生活を客観的に省みたり、同級生や先輩が海外で生活している様子は、海外への「憧れや尊敬」から「身近で自信」に繋がる経験になったようでした。

もう一つ「内なる国際化」を意識した取り組みとして、学内の留学生の存在をしっかりとサポートし組織の一員として交流を深める視点を重視しました。「マンスリーミーティング」では東西のキャンパスを通じた留学生同士や大学組織との繋がりを強化し、「留学生グループ展」の開催、留学生と日本人学生が交流する「異文化交流事業」の実施など、学内の国際化を根付かせる方に注力しました。

これから留学生の受け入れ、海外派遣留学支援事業も正式に再開し、学生たちの往来が再び始まります。明るい光がさしかかり始めたと思いこの原稿を書いている時に、ウクライナとロシアの紛争が始まりました。分断された社会や世界との繋がりを取り戻そうとしていた矢先の出来事です。「コロナパンデミックは人類の力が及ばない出来事だったけど、今回の悲劇は人の意図で起きている」と、2年間留学が延期になった若者が発した言葉を耳にした時“International Awareness”的重要性を改めて感じました。これからもまだ予測不可能な時代が続く気配の中、名芸の国際交流は時代に必要な人材育成を目指していきたいと思います。

(国際交流センター 松崎 久美)

2021年度 国際交流センター主催

留学生支援事業「留学生マンスリーミーティング」について

本学で学ぶ留学生数は、毎年増えつつあります。2021年度の留学生数は、学部生34名、大学院生36名、研究生1名、合計71名です。世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により、日本に入国することが未だ叶わない学生もいます。

昨年度までは国際交流センターによる留学生向けのオリエンテーションの機会は、年度の初めに1回、卒業・修了生を対象



として年度末に1回、合計2回の開催でした。そこで、2021年度は留学生への重要な情報の共有を目的とし、毎月1回の「留学生マンスリーミーティング」を開催することにしました。

ミーティングの内容は、学生生活やキャリア支援など大学からの「お知らせ」、在留資格関係の案内、アルバイト時間の管理について、展覧会や演奏会などの学内イベント情報の共有、生活支援物資の配布など、多岐に渡ります。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、大講義室を使用し3密を



防ぎ、短時間の開催としました。さらには東西キャンパスをオンラインで繋ぎ、交流を図りました。

2022年2月、留学生に対し今後のミーティングに向けてのアンケートを実施した結果、日本文化の体験を希望する声や、生活支援物資を増やして欲しいという要望がありました。スタッフ一同、要望に応えられるよう、より一層工夫していく所存です。



「第1回 留学生グループ展-NUA International Students
Exhibition 2021-」開催

2021年12月10日～15日 本学西キャンパスArt&Design Centerにおいて、「留学生グループ展」を開催しました。本来であれば協定校からの交換留学生の作品展を毎年行っていますが、残念ながら昨今のコロナ禍により2020年度以降交換留学生の受入れが叶わない状況です。



私たちスタッフは、このマンスリーミーティングの場が、環境の変化に伴い心細い気持ちを抱えている留学生たちにとっての心の拠り所となる場であってほしいと考えています。また、この場をお借りしまして、生活支援物資をご提供いただきました後援会のみなさまに心より御礼申し上げます。

(広報部 国際交流チーム 河合 祐)

ご来場いただいた学内外のたくさんの方々、ご協力いただいた先生方、関係者各位に心より感謝申し上げます。

入学後、コロナの影響により学生同士の交流もままならない中で、異国での日常生活や制作活動を行ってきた留学生たちですが、共に協力しあい展覧会を無事に開催することができたことは、ピンチをチャンスに変える貴重な機会と今後の糧になつたこと思います。

(広報部 国際交流チーム 中村 朝奈)



有志9名だけでなく、搬入搬出のお手伝いに他の留学生や日本人学生も力を貸してくれました。



実施報告

後援会補助公開講座

芸術学部芸術学科音楽領域

今年度も名古屋芸術大学後援会からの多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。

おかげさまで2021年12月4日と5日の2日間、東キャンパス3号館ホールにてフランシス・ホジソン・バーネット著「小公女」を原作としたブロードウェイミュージカル作品「A Little Princess」(台本:ブライアン・クロウリー、作曲:アンドリュー・リッパ)を上演することができました。

なお、今回の公演がこの作品の日本初上陸となりました。

今年度も演出は鳴海康平先生が、そして振付は柘植万梨恵先生が担当し、アフリカ、

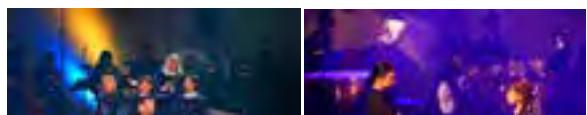
そしてロンドンを舞台としたシーンの数々を立体的かつ鮮明に作り出し、パワフルな4年生を中心に、ミュージカルコース全学生が一丸となって全2幕、2時間半の大作に挑みました。土曜日マチネ・ソフレ、そして日曜日にマチネ公演と全3公演を実施いたしましたが、全ての公演が満員御礼となり、ご来場いただいたお客様にも大変好評で、「プロ負けのすごい舞台だった」とのお声もいただきました。学生達にとってもグランドミュージカルをオーケストラ伴奏でたくさんのお客様の前で演ずることができた事は、大きな財産となったはずです。



そして今回の上演にあたっては、田中副学長や伊藤領域主任、そしてエンタメ、弦管打、

ポップス・ロック、鍵盤(ピアノ・電子オルガン)、声楽、サウンドメディアなど音楽領域の各方面からも並々ならぬご協力をいただきました。感謝すると共に、改めてミュージカルは現代の総合芸術であると実感する公演となりました。

今後も新しいことに恐れず、果敢にチャレンジしていき



たいと思っておりますので、どうぞ変わらぬご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

ミュージカルコース 准教授 塚本伸彦

芸術学部芸術学科芸術教養領域

「リベラルアーツ × X」

2017(H29)年の開設年に始まった芸術教養領域の公開講座「リベラルアーツ×X(リベラルアーツかけるエックス)」も、後援会の助成のお陰様で5年目を迎えることができました。毎年の助成に深謝申し上げます。

ご承知のとおり、今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍に見舞われ、形を変え、オンライン開催にて行うこととなりました。

第13回目(初年度からの通番)は10月と12月にオンライン



歩行支援機「aLQ by ACSIVE (通称: aLQ、アルク)」佐野教授とIMASEN (株式会社今仙電機製作所)が開発した歩行支援機 aLQ を装着した時のイメージ図。aLQ は受動歩行理論に基づいています。図は <https://www.imesen.co.jp/alq.html> より引用。

で収録した動画をオンデマンドで公開しました。ゲストは本領域特別客員教授、名古屋工業大学教授で学科長も務められている佐野明人先生です。このWEB公開講座のうち、10月収録分は「教養と現代2」の授業の一部ともし、2年生と3年生を中心とした受講生にライブで聞いてもらいました。佐野先生のグループは電気もモーターも、プログラムも使わず歩行支援する画期的な器具を開発するなど、足の不自由な方々に大変貢献してきました。その技術の一部は前回の「あいちトリエンナーレ」でも披露されました。アートと人間、工学技術、科学技術を繋ぐ芸術教養領域や本学の学生や教職員の意識も活性化するような素晴らしいご研究です。佐野先生の温かいお人柄と深いご見識もうかがえ、お話を非常に面白いものでした。

芸術教養領域 領域主任 茶谷 薫

人間発達学部

「教育・保育現場で心掛けたい LGBTへの対応・考え方」

講師 松尾かずな氏

(名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科医師)

今年度の、特別公開講座は新型コロナウィルスの感染蔓延が少し落ち着いた時期であったこともあり、1年生は広い教室で密にならないように対面で、それ以外の学生と一般の方にはオンラインによる視聴で講演会を行いました。名古屋大学医学部付属病院の松尾かずな先生を講師に迎え、「教育・保育現場で心掛けたい、LGBTへの対応・考え方」というタイトルでお話しいただきました。日本でのLGBTの割合は11人に1人とされ、教育・保育現場で働く中で、必ず性的違和感を抱えて悩んでいる子どもに出会うと考えられます。そういうとき、役立つ知識として、松尾先生にさまざまなデータを示していただきながら、基礎的な問題から対応の心構えなど、幅広い話をしていただくことができました。



「LGB」による性的指向の多様性や、「T」の性の自己認識についての特性をお話しいただき、多様な性のありようについての理解の重要性を話していただきました。また、現在の社会ではカミングアウトをしやすい環境となっていないことや、LGBTへの対応の3つのステップとして、「多様な性について知る」、「習慣・常識を変える」、「理解者を増やす」という方法を示していただきました。さらに、染色体レベル、出生時の戸籍上の性別、物心がつく頃の心の性別、思春期の性別のゆらぎ、そして恋愛や結婚前後の性別など、発達の各段階でも性別について多様な捉え方があることなども話していただきました。特に際立ったお話としては、10代で性別違和感を持つ人は日本国内で13%にも及ぶとされ、そういう性別違和感がある人も約75%は年齢を重ねることによって解消されるというお話をしました。安易に薬品によるホルモン治療を目指すのではなく、本人が感じている生きにくさや悩みに寄り添う姿勢が必要ということでした。さまざまな局面で多様性が尊重される社会を目指す取り組みが始まっている今日、とても貴重なお話をしていただくことができ、充実した講演会となりました。



芸術学部 音楽領域

2022年4月 音楽領域「プロフェッショナルアーティストコース」開設

音楽領域に14番目のコースとして新たに「プロフェッショナルアーティストコース」(通称:PAコース)が開設されます。このコースは声楽、鍵盤楽器(ピアノ、電子オルガン)、弦楽器、管楽器、打楽器の専攻実技の教授に特化し、将来演奏家を目指す学生を対象に、演奏技術はもちろん、国内外のコンクールやステージの場への積極的な参加を意識し、世界で活躍できる演奏家の育成を目指します。

これまでの演奏系コースと比べて倍になる個人レッスンの実施や国際舞台で活躍するためには必要不可欠な語学スキルの習得、更には演奏家としてのセルフプロデュース力など、まさに国際舞台での活躍のために自ら身につけるべき習得内容がすべて揃ったコースがいよいよ始動します!



名古屋芸術大学近況報告

芸術学部芸術学科音楽領域

■ 声楽コース

後援会の皆様には、日頃の多大なご理解とご協力に感謝申し上げます。今年度もコロナ禍のなか万全の感染症対策を徹底した上で、声楽コースのレッスンや授業は全て対面で実施され、公演や公開講座も円滑に開催されました。



10月16日には、西文化小劇場との連携コンサート花の木フェスティバルが行われ、エンターテインメントディレクションコースの協力のもとに第一部ではオペラ「あまんじやくとうりこひめ」、第二部ではオペラ名作集＆合唱が披露され、意欲あふれる舞台は満員の観客を魅了しました。

また昨年に続き、二人の特別客員教授による公開講座が行われました。11月4日、定期演奏会に出演する学生を対象に、日本を代表する演出家の岩田達宗先生による公開レッスンとオペラ講義が、12月23日、1月13日の両日には、コレペティトゥアの第一人者である浅野菜生子先生をお迎えして、「歌曲の夕べ」に出演する12名の公開レッスンを催しました。両先生の熱意溢れる講座に、受講学生はもちろん、聴講した教員や学生たちまで魅了され充実した時間を過ごしました。



また今年度は、12月18日 小牧市民会館にて中部フィルハーモニー管弦楽団主催の「こまき第九」と、1月27日に愛知県芸術劇場コンサートホールでの大学主催の「名芸第九」に、学生たちは合唱メンバーとして舞台に立ちました。学生たちは憧れであるオーケストラとの共演を実現でき、実際に出演して実力を飛躍的に伸ばしています。

1月29日には、恒例の「第20回歌曲の夕べ」を3号館ホールで開催しました。オミクロン株による新型コロナ感染が懸念される中、学生たちは研鑽に励み、その成果が発揮された素晴らしい演奏でした。

2月25・26日に3号館ホールで開催される第44回オペラ「泥棒とオールドミス」に向けて、現在 全学年の学生と大学院生が一丸となって稽古を重ねています。溌りなく公演できることを願っています。

来年度も、声楽教育に全力で邁進し、生徒たちにより良い学びの場を提供することができるよう努めます。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

声楽コース 松波千津子

■ 鍵盤楽器コース ピアノ

ピアノコースでは12月のクリスマス前、2日間に渡り、世界で活躍される愛知県出身のピアニスト田村響氏をお招きし、ドビュッシーとリストの楽曲を題材に公開講座を行いました。モデル生としてレッスンを受講した学生達はもちろんのこと、コースを問わず聴講に訪れた多くの学生が、田村先生の圧倒的な演奏に魅了されました。又、先生のアドバイスをそれぞれが楽譜に書き留め、真剣な眼差しで聴き入る姿が非常に印象的でした。田村先生は来年度より「アーティスティックプロフェッサー」として年間6回来校され、来年度新設されるPA(プロフェッショナルアーティスト)コースの学生を中心にご指導下さいます。学生達にとってはより一層充実した学生生活となることでしょう。

また例年通り、横山幸雄、上原彩子両特別客員教授による公開講座、個人レッスンも引き続き定期的に行われています。学生達がそれぞれの先生方から多くを学び、実技試験やコンクール、演奏会で遺憾無く力を発揮できるよう願っています。



年度末にかけては、卒業演奏会、音楽研究科修了演奏会、春のコンサート、カワイブーム演奏会、各新人演奏会と続きます。さらに今年度は3月に行われるウインドアカデミーコースの演奏会にて、オーディションにて選抜された大学院2年生 浅野佑佳さんが、ガーシュイン作曲ラプソディーインブルーのソリストとして、ウインドオーケストラと共に演します。それぞれの演奏会で充分にコロナ感染対策を取り皆様をお待ちしておりますので、是非たくさんの方々にお聴き頂けますと幸いです。今度とも名古屋芸術大学にご支援のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

鍵盤楽器コース(ピアノ) 戸田 恵

■ 鍵盤楽器コース(電子オルガン)

鍵盤楽器コース電子オルガン専攻を担当しております鷹野雅史です。2022年の年明けを迎え、皆々様にはどう

か息災であられますようお祈り申し上げます。

さて、電子オルガンは世間では“エレクトーン”というブランド名が通っております世界一の楽器メーカー、ヤマハ株式会社のリードのもと、国内外、昨今では中国の隆盛がめざましく、狭い業界ながら地道に発展を続けております。そのヤマハでは毎年、エレクトーン・フェスティバルなるコンクールが開催されております。2021年度のエレクトーン・フェスティバルにおきまして、本学の学生達の幾人かは目覚ましい成果を示してくれました。以下にざっとご紹介致しますに…

中牧美月(本学1年生)

東海地区大会特別賞

以上、鍵盤コース…

伊東桜佳(本学3年生)

東海地区大会銀賞

以上、総合コース…

この他、本学の大アンサンブル室で昨年、7月18日(日)、及び10月17日(日)の2度にわたり主催開催致しました『電子オルガン・ワークショップ』を受講なさった多くの中部・北陸の電子オルガンを学ぶ皆さんから、エレクトーン・フェスティバル上位入賞の成果と感謝が届き、私と2名の非常勤講師は、我々の形での地域貢献が出来たと安堵したいております。これらの成果も、言うまでもなく後援会皆々様からのご理解・ご援助がございましての話で、深く感謝を致すと共に、厚かましくも申し上げますが、今後とも是非、よろしくお願ひいたします。

今年度、卒業見込みの4人の4年生も全員、就職先が決まり、これもまた講師一同、大いに安堵を致しております。今年の2年生ほどではないにせよ(その代はご存知の通り入学式もなく、入学早々はオンラインばかりで学友にも会えずになりました…)(充分にコロナ禍の洗礼を受けた学生達だけに、よく頑張ってくれたものだと、内々にですが誇らしくさえ思っております次第です。内訳は以下…

ヤマハ・システム講師 1名

ヤマハ特約店社員 1名

一般企業 2名(福祉系等)

ご報告は以上となりますが、後援会の皆々様におかれましては幾重にも、常からの有形無形の豊かな愛情を、学生達や本学全体に賜り、感謝の念にたえません。「冬はつとめて…」と古(いにしえ)より申す通り、澄みきった空気を愛する季節ではございますが、皆々様におかれましては何卒、ご自愛頂けますように。

鍵盤楽器コース(電子オルガン) 鷹野雅史

■ 弦管打コース

後期に入り演奏会の回数が増えてまいりましたが、コロナの影響による入場人数の規制等で聴きに来て頂いた皆様にはご不便をお掛けしておりますことを、先ずはお詫び申し上げます。

今年度の名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第40回定期演奏会は、当初9月17日に愛知県芸術劇場において行う予定でしたが、緊急事態宣言が発令されていました

め12月2日に延期しての開催になりました。指揮者(ヤン・ヴァン・デル・ロース名誉教授→鈴木英史特別客員教授)や曲目の変更等がありました、サクソフォンソロに雲井雅人特別客員教授をお迎えして無事終了する事が出来ました。

そして年明け1月27

日には学生オーケストラwith名古屋芸術大

学フィルハーモニー

管弦楽団特別演奏会

が愛知県芸術劇場に

おいて行われました。

オーディションで選ば

れたファゴットの井手

口彩子さん(4年)によ

るウェーバーのコン

チエルトとベートーヴェ

ンの第九というプログ

ラムでした

が、まん延防止重点措置中にもかかわらず沢山のお客様に来て頂き、盛況の中無事終了致しました。因みにこの2つのコンサートはYouTubuで再度視聴する事ができますので、是非ともご覧頂ければと思います。

また今年度より立ち上がった名古屋芸術大学ウインドシ

ンフォニー第1回定期演奏会(1月7日)と名古屋芸術大

学フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会「音楽の森」(12月5

日アートマネージメントコースとのコラボレーション)にも多くの学生が参加しました。この2つの演奏会は、プロの演奏家と同じステージに立ち実践的に学べる、非常に良い機会だと思います。来年度もこの様な企画を考えていますので、是非とも足を運んで頂ければと思います。

弦管打コース 依田嘉明

■ ウインドアカデミーコース

新型コロナウイルスの影響が依然収まらない中ではあります、ウインドアカデミーコースでは今年度も積極的にさまざまな活動に取り組んできました。

当初9月17

日にベルギー

よりヤン・ヴァ

ン・デル・ロース

ト名誉教授を

お招きして開

催する予定だっ

た「名古屋芸術



大学ウインドオーケストラ第40回定期演奏会は緊急事態宣言が発令していたため12月2日に延期することになりました。12月の公演では指揮に鈴木英史特別客員教授、サクソフォンソロに雲井雅人特別客員教授の両名をお招きし愛知県芸術劇場において無事開催することができました。

2月6日にはウインドアカデミーコースの1年の締めくくりとなる「ウインドアカデミーコース第3回定期演奏会」を愛知県下に蔓延防止重点処置が適応する中ではありました

が、なんとか開催することができました。この演奏会では学生が企画運営を行い、指揮・指導も学生の有志によって行われます。1年から3年までの学生がそれぞれの学年のレベルに合わせた楽曲を練習の段階から音楽づくりをしていきます。1年生の緊張感あふれる初めての指揮、経験を積んだ3年の力のこもった音楽を楽しんでいただきました。

新年度になり新たな1年生を迎えると完成年度となります。一層充実した活動を目指していきたいと思います。

ウインドアカデミーコース 遠藤宏幸



■ ポップス・ロック&パフォーマンスコース

新型コロナ、デルタ株、オミクロン株とまだまだ気の抜けない状態が続いております。感染対策を十分取りながらの授業は元より、イベント等にも万全の体制を取って望んでいます。まずは、2021年12月23日の第2回となるイベント、ポップロックのライブ配信を紹介したいと思います。ポップスロック&パフォーマンスコースに携わっている生徒さん、サウンド、エンタメの有志による勉強会となっています。セッ



ションクラスとは違って授業扱いではないので自分のバンド、仲良しで作ったバンドなど自由なメンバーで5バンドくらいの出演を目安に、音響の生徒さん配信の生徒さん、照明は演奏科の竹内さんでライブ形式で行っています。担当の先生はポップスロックからはロックギター講師の栗木先生、サウンドからは山口先生にお願いして楽しくスムーズな勉強会となっております。

次にセッション授業の発表会6クラス分、NUAステーションは2022年1月15日15時スタートしました。岡野先生をはじめとするエンタメ、古川先生をはじめとする照明は前日から仕込んで頂き当日リハーサルもスムーズに進みました。1番の出演、清本先生クラスはボーカルのハーモニーを中心とした心地よい演奏でした。2番、荒川先生クラ



スはラテン、ミュージカルと幅の広い楽しい演奏でした。3番、山下先生クラスはポップスをボサノバにアレンジし

て興味深い演奏でした。4番、林先生クラスはジャズのスタンダードで落ち着いたよい演奏でした。5番、渡邊クラスはポップス、ジャズファンクで元気な楽しい演奏でした。6番、栗木先生クラスはポップス、ロックで勢いとパフォーマンスもたっぷりの面白い演奏でした。特に荒川先生クラスはNUAステーション始まって以来、1度もなかったミュージカル仕立てのライブでとても楽しいものになっていました。

以上30曲以上の曲がいろいろな方向性で全員楽しく演奏して、ひとつも見逃せないご機嫌なライブコンサートとなりました。それぞれのクラスの先生の個性もしっかり出て、質もレベルも年々上がってます。

ポップス・ロック&パフォーマンスコース 渡邊則夫

■ ミュージカルコース

今年度より歌唱の個人レッスンにおいては「ミュージカルナンバーを原語で歌う」という新たな方針を作りました。元々声楽出身の私からすれば、歌を原語で勉強するのは当たり前だと思っていたのですが、日本の商業ミュージカル界では通常、輸入ミュージカルが日本語訳上演されている事もあり、学生たちも当然のように訳詞で歌を勉強していました。ただ、限られた音符の数内で原語から日本語へと翻訳される際に失われてしまう”意味”が多い事、言語体系の違いから訳詞ではその曲が本来持っている音楽的なストレスとの”ずれ”が生じてしまっている場合が少なからずある事、また日本語で上演されている作品自体がミュージカル全体からみてほんの一握りでしかなく、勉強できる範囲が限られてしまう事など、ミュージカル歌唱を学ぶ上でデメリットが多いと感じていた為、思い切って方向を転換してみました。はじめは普段喋らない言語で歌うということに多くの学生が戸惑っていましたが、次第に慣れ、音楽と詩の結び付きも感じながら年度末の公開試験では皆堂々と歌っておりました。また、西洋言語で歌う事により日本語では意識が希薄になりがちな子音と母音の発音の区別も併せて勉強できる為、結果的に日本語の発音にも還元されていくであろうと期待をしており、今後も継続していくと思っています。(注:私はミュージカルの日本語訳上演否定派ではありません。念のため。)



それから新カリキュラムの授業の中の1つ「ステージクリエーション」では、これまで各学年別々に行われていたミュージカル実技の授業を、実際のミュージカル公演に向けた「稽古／リハーサル」のより実践的な授業として展開するべく集約し、ミュージカルコースに在籍する全ての学生

が1つの稽古場に集い作品を作り上げていくものとしました。後期からは演出の鳴海康平先生も加わり音楽・ダンス・演技の全ての方向から指導する体制となり、集中して授業が行われました。今年度のミュージカル公演は12月、授業実施期間中という事もあり、学生達にとっては大変なスケジュールの中ではありました。力を合わせて作品作りに取り組み、生き生きとした舞台を作り上げました。また、2月1日には本公演でアンサンブルをしながら「代役」として勉強してきた下級生たちが実際に舞台でキャストとしてのパフォーマンスを経験する「アンダー公演」も行いました。そのアンダー公演に向けての稽古では本公演でキャストを務めた上級生が下級生へとバトンを渡すように率先して指導する姿も数多く見られました。新型コロナの影響でディスタンスの確保を余儀なくさせられ、それと共に失いかけていた「大事なもの」を少し取り戻せたような気がします。

ミュージカルコース 准教授 塚本伸彦

■ ダンスパフォーマンスコース

コロナの感染状況が少し落ち着きをみせる中、10月26日(日)3号館ホールにて、修了公演「DANPA!」を開催致しました。サブタイトルを初年度は“Start Line”2年目“Move Forward”3年目の今回は“Feel the moment”として「今、この瞬間、コロナ禍でも出来る事、今を大切にして進もう」との思いを込めました。初年度は1期生7名のみ約30分の発表でしたが、今年度は3学年31名で約90分の公演を行う事が出来ました。今回もまた、ミュージックエンターテイメントディレクションコース学生42名が、舞台、照明、音響、制作として、ダンスパフォーマンスコース学生をサポートしてくれ、共にステージを作り上げてくれました。1部を『和の世界』と題しまして、今年度より日本舞踊講師として授業を担当して頂いております西川流家元・西川千雅先生、殺陣講師の手嶋政夫先生監修の元、学生主体で手探りながらも“舞・殺陣・台詞”を融合させ“獅子舞が出来るまで”を『始々舞』として創作、発表しました。2部は『To higher goals』。ジャズ・ストリート・タップ・コンテンポラリー、各ジャンルでより高みを目指し、エネルギーあふれるダンスパフォーマンスを披露しました。

終了後の感想としては、達成感あり…、改善点・反省あり…、新たな目標あり…。1人1人の意識の変化を感じる事が出来ました。今後の更なる成長、チャレンジが楽しみです。



ダンスパフォーマンスコース 古賀明美

■ 声優アクティングコース

声優アクティングコースの今年度後期の活動としては、1年生は2月に控えている2.5次元風ミュージカル作品の発表会に向けての稽古を、3年生は、昨年12月に行われたエンタメコースの舞台公演「えんとつ町のペペル」に多くの学生が出演した為、その稽古に明け暮れています。そして2年生は、声優アクティングコースの本公演である修了公演として、手塚治虫「百物語」の朗読劇を2月に行う為、その稽古が今、大詰めを迎えています。さらに今年度は、声優アクティングコースとして初めてとなる、4



年生(1期生)の卒業公演が11月に行われました。その第一部では、2020年に美術領域の学生が作成し、声優アクティングコース1期生が声を担当したアニメーション作品「COLORS」の生アフレコを舞台上で行いつつ、生身の俳優としてもアニメと同じ役を舞台上で演じるという、今までにない2.5次元舞台に挑戦しました。また第二部では、声優アクティングコースの学生達が3年間学んできた殺陣の授業の集大成として、迫力のある殺陣ステージ「you」を披露しました。学生達の4年間の努力が見事に結実した、素晴らしい卒業公演となり、大盛況の中、舞台は幕を下ろしました。その他にも、恒例の名古屋造形大学のアニメーションコースが作成した作品の声を、声優アクティングコースの学生達が演じるコラボ作品も、過去最多の7作品制作し、プロと同じような現場を数多く体験できた事は、学生達にとって大変貴重な経験となったと思います。

さらに、声優アクティングコースから生まれた声優アイドルユニット「iCANDY」は、「YAMAHAライブステージ」という外部公演に、日々に出演する事ができました。この日の為にオリジナル楽曲も作成し、大変好評なライブステージとなりました。「iCANDY」には今後も外部出演のオファーが来ており、学生達の貴重な経験の場として、また声優アクティングコースの認知の為にも、さらなる活躍に期待しています。



声優アクティングコース 平光琢也

■ サウンドメディア・コンポジションコース

本コースの学生は、音楽制作・録音・音響を学びながら、新しい時代の音楽とテクノロジーと芸術の関わりについて考え、作品制作に取り組んでいます。音楽制作分野では、デザイン領域メディアデザインコースと共同で「1MinProject」という1分で起承転結する音と映像の作品制作プロジェクトを行いました。完成した作品は本コースのWebページで公開しています。ぜひご覧ください。<http://soundmedia.jp>



2021年11月14日(日)には声優アクティングコース1期生の卒業公演が行われ、その舞台の音楽を本コースの学生が担当いたしました。今後もこのような他領域・他コースとのコラボレーションを積極的に行ってまいります。録音・音響分野では、昨年度に引き続き本学演奏会等のライブ配信を行いました。今年度は通常ステレオに加え、バイノーラル・ステレオによる立体音響での配信も行いました。これまで培ってきたオーケストラの録音制作技術とともに、録音・音響を学ぶ学生が様々な機器を組織し、音楽的なライブ配信を目指しました。詳細は、本コースWebページをご覧ください。

また、本コースでは毎年度末に、アートと音楽の有機的結合をめざすコンサート「カレイドスコープ」を行っています。今年度は2月12日(土)に行い、本コース学生による音楽制作・PA・配信・録音はもちろん、エンタメコースによる照明演出、デザイン領域メディアデザインコースによる映像演出、声優アクティングコースの学生による司会など、コース・領域を問わず、学生の自由な発想力で演奏会を構成しました。本コースの近況等は随時Webページに掲載してまいります。これからも引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

サウンドメディア・コンポジションコース 原田 裕貴

■ エンターテインメントディレクションコース

(ミュージックエンターテインメントディレクションコース1年生含む 以下エンタメコース)

エンタメコースは、音楽領域内の各コース(声楽コース、弦管打コース&ウィンドアカデミーコース、ミュージカルコース、声優アクティングコース、ポップス・ロック&パフォーマンスコース、ダンスパフォーマンスコース等)の公演をサポートしました。

後期に開催される公演数は、毎年12～15公演にのぼります。開催の皮切りは10月で、11月、12月、2月が最もスケジュールがタイトな時期となり、毎週、何かしらの本番が開催されるという時期もあります。



この、各コース公演でのエンタメスタッフは、エンタメ公演リーダーを筆頭に、舞台監督、舞台(美術)チーム、音響チーム、照明チーム、衣装チーム、映像チーム、制作チーム等に分かれ、それぞれの持ち場の仕事をこなしていくします。もちろん、これには、担当の指導教員が付き添い、指導をしながら本番に臨みます。

この数々の公演の中で、エンタメ学生が企画から運営までの全てを行う、3年修了公演、4年卒業公演があります。今年度の3年修了公演は「KAKERU Dance Concert」を11月7日に開催しました。この3年修了公演は、4年生で開催する卒業公演に向けての練習という意味合いもあり、3年生が初めて全員で挑む公演です。



今回の「3年修了公演 KAKERU Dance Concert」は、コロナ感染で様々な自由が奪われた今、思い切り生きていきたいと言う想いをダンスや歌に掛け合わせ、また、自由に繋がる未来に向かって「駆ける」という意味が込められたオリジナルダンスコンサートでした。出演者は3年生が選んだ他コースの学生。コロナ渦での本番でもあり、来場者数に規制をかけ、本学ホール収容定員の半数を上限としました。本番当日、集客はまずまず。本番も問題なく終演しましたが、本番終了後、教員からは数々のダメ出しがあり、学生たちも反省すること頻りでしたが、この経験を4年生で行う卒業公演の糧にしてくれることと思います。

12月12日(日)。4年生は、エンタメ4年間の集大成とも言える卒業公演を開催しました。「卒業公演」という響きからも重みを感じるのでしょうか。4年生たちは今年度当初には演目を決定し、担当部署ごとで既に準備をスタートさせていました。

4年生が選んだ演目は「えんとつ町のペペル」。この作品は漫才コンビ、キングコングの西野亮廣さんの絵本作品です。この作品を題材に、学生が作詞作曲した音楽を加え、独創的な舞台美術の大道具を加えたりして潤色した作品で挑みました。

公演は2回。事前予約制でどちらの公演も早々と満席となり、主催者側の4年生も改めて気合が入ったことと思います。

本番当日。受付から会場までの動線には、これから開演される舞台となる「えんとつ町」を連想させる数々の演出があり、開演前のワクワク感を誘っていました。



会場に入ると、そこには一瞬で物語に引き込まれるような、えんとつ町のランドマークとも言える大きな時計台や、様々な大道具がステージ上に。開演前の会場内には物語を想像させる音楽が流れ、お客様の期待感を高めます。そして開演。まるでテーマパークにでもいるかのような照明と立体音響の演出で、飽きさせることのない物語が展開していくなか、それまで、舞台上に鎮座していた階段の役目をしていた大道具が舞台中央に動き、船の穂先に早変わり。お客様を更にストーリーに引き込みます。そして終盤は、プロジェクションマッピングで映し出された満点の星空が舞台天井に輝き、感動のうちに幕。終演後には涙を流して感動されているお客様が多くいらっしゃいました。

エンタメコース担当教員からも「よくやった!」と感心の一言。

大成功の余韻にも浸る時間もなく、4年生にはバラシ(撤収)が待っています。退館時間ギリギリになりましたが、無事に撤収も終わり、興奮冷めやらぬまま、各自、帰路につきました。

後日、お客様から頂いたアンケートを拝見させていただきましたが、「もう、本当に感動しました!ありがとう!」、「何度も泣きました。」、「クオリティが高くて安心して楽しく観劇できました。」、「学生自身が創り上げたとは思えないほどのクオリティで、想像を遥かに超える完成度でした。本当に心からすごいと思いました。」などなど。数多くの好評をいただきました。

ここまで
の公演を実現す
ることができた
4年生のみな
さんは、社会に
出てからも、本



学での4年間で培ってきたこと、また、この公演を通して得たものを誇りに、輝いていってくれることと信じています。

次年度は現3年生の番。先輩たちの公演を超えるよう、今まで学んできたこと全てを注ぎ込み、万全なチームワークで卒業公演に臨んでほしいと願います。

ミュージックエンターテインメントディレクションコース 金子靖

■ 音楽ケアデザインコース

引き続きコロナ禍の状況において、各施設での音楽療

法実習の現地での実施は困難でしたが、子どもの施設では実現が叶ったり、成人や高齢者の施設ではオンラインでのリアルタイム音楽療法を実践したりすることで、これまでとは異なる療法的交流を積み重ねることができました。実際にお会いして音楽をする空気感の再現はもちろん難しいですが、オンラインならではのお互いの情報発信により、これまでより一層相互理解が深まるという大きなメリットもありました。知識、技能ともに新しい学修が得られる機会となり、今後の学生の実践活動にも必ず活かされるという希望が持てる一年でした。

12月12日(日)には、大変久しぶりに音楽療法コンサートを行うことができました。感染対策のため、いつものように多くの方にお声掛けすることができませんでしたが、北名古屋市社会福祉協議会との連携で、地域の親子の皆さんにもご参加いただきました。3年生を中心とした学生の随所に散りばめられた



交流のための工夫や思いによって、とても暖かい交流コンサートとなりました。

4年生は毎年恒例の(一社)日本音楽療法学会(補)の認定試験に向けて猛勉強し、9割以上の学生が合格しました。3月には本試験があり、複数の学生が挑戦する予定です。朗報をまちますが、結果がどうであれこれからも音楽療法という奥の深い健康支援の専門分野に関わり続けてほしいと願っています。



また、4年生はそれと同時に2月17日に卒業論文発表会を行います。各学生の4年間の集大成を、コースみんなで聴く日を楽しみにしています。きっと1~3年生のよい刺激になってくれることと期待します。卒業後は多くの4年生が福祉施設や医療施設で常勤音楽療法士や支援員等として活動することになっています。これからこの分野の強力な担い手になってくれることを確信しています。

Facebook公式ページも随时更新しておりますので、ご覧いただけますと大変うれしく存じます。<http://www.facebook.com/meigei.music.therapy.caredesign>

音楽ケアデザインコース 伊藤孝子

■ エンタテインメントディレクション&アートマネジメントコース／アートマネジメント選択

アートマネジメントコースは、文化施設を主なフィールドとして、文化政策や企画制作、施設運営の分野で活躍でき

る人材、つまり“プロデューサー”、“ディレクター”となる人材の育成を目指し、理論と実践のバランスをとりながら教育活動を行っています。大きな特徴は、数多くの「現場」に恵まれ、実践的に学ぶ環境が整っていることです。

コロナ禍での教育活動が1年半を経過したところで迎えた後期は、教員も学生も、文化芸術の意義や意味、価値を常に自らに問いかける日々を送りました。学内の授業は、オンラインと対面の併用で実施されていたものの、軸となる「ステージマネジメント」は2年生から4年生まで前期と変わらず対面で実施され、実際の公演事業の制作や広報・運営に費やしました。全ての学年が実施した公演事業を中心にご紹介いたします。

尚、アートマネジメントコースは、今年度4月に開設された舞台芸術領域の舞台プロデュースコースへと組み込まれていくため、2021年度は1年生の活動は、舞台芸術領域のページに記載いたしました。

・4年生

4年生の卒業公演は、千種文化小劇場とアートマネジメントコースの共催で実施されました。近年、話題となっている1980年代を中心とする「昭和レトロ」に「令和」の時代から何を見出すのか、という視点で企画された「昭和アイドル無敵伝説 座談会&コンサート～華の80年代っていけど、実際何が華なのかちょっと教えてもらえます?～」。4年生たちのこれまでの学びと思いが詰まった公演は、ナビゲーターに堀井庄一氏（本学非常勤講師）を迎えたトークと、アマイワナ氏による1980年代アイドルの楽曲によるライブで、会場を沸かせました。

公演を成功に導くまでの制作過程は、アーティストを探し出すこと、資金調達、広報宣伝、チケット管理等、まさにアートマネジメントの集大成。夜遅くまでオンラインミーティングを重ねたり、大学で発送作業を行ったり、熱い想いで走り切りました。

並行して執筆していた卒業論文は、フィギュアスケートの芸術性、プロ野球リーグのファン満足度、小規模映画館の運営のあり方、テーマパークの顧客満足度からみる今後の



姿、コロナ禍におけるオンライン音楽鑑賞の捉え方、など多様なテーマによるもので、最後の授業で卒業論文発表を行いました。



アマイワナ氏のライブの様子



堀井氏、奏者と一緒に

堀井氏、奏者と一緒に

・3年生

3年生は、横浜在住の世界的ギタリスト井草聖二氏によるコンサートを、「Nostalguitar」（ノスタルギター）と題して、4年生と同じく千種文化小劇場との共催で行いました。どこ

かノスタルジックな雰囲気を醸し出すアコースティックギターの音からつけられたこのタイトルに合わせて集められた楽曲は、3年生たちがノスタルジーを感じる楽曲と井草氏のオリジナル曲。当日の会場には、井草氏のファンはもちろん、劇場近隣のお客様も数多くご来場いただき、3年生の地道な広報活動の効果を見るることができました。

3年生は、少しずつ就職活動に入り、そして春には4年生を迎えます。卒業制作公演、卒業論文と、先輩たちが歩んできた道を辿りながら、自分の道を見つけていく1年間が始まります。



井草聖二氏のコンサートの様子



本番前のミーティングの様子

・2年生

2021年12月5日に、竹本泰蔵氏（本学特別客員教授）指揮による名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団のコンサートが、名古屋芸術大学アートスクエア（北名古屋市文化勤労会館）で行われました。トムとジェリーやミッキーマウスの楽しい映像付きコンサートは、満席（感染対策のため50%の入場制限）のお客様となりました。2年生はこのコンサートに先駆けて行われたワークショップを担当しました。2年生全員でディスカッションを重ねながら決めた「音楽を五感で感じよう」と題したワークショップは、聴覚・視覚・触覚・味覚・嗅覚をそれぞれ音楽と掛け合わせた内容で、10人の2年生が2人ずつペアとなり各ワークショップを担当し、制作だけではなく当日の進行も務めました。ワークショップは、参加者とのフリーで水平な関係が肝となるため、ファシリテーション技術が求められますが、舞台芸術領域1年生のサポートを得ながら無事に終了しました。アンケートでは「全部のワークショップがおもしろかった！」との感想もいただき、これから活動の自信になったこと思います。



聴覚



視覚



触覚



味覚



聴覚



ワークショップ後のコンサート

エンタテインメントディレクション＆アートマネジメントコース 梶田美香

芸術学部芸術学科舞台芸術領域

舞台芸術領域は、2021年4月に開設されました。舞台芸術作品を制作する人材を育成することを目的として、舞台プロデュースコース、演出空間コース、(音響・照明)、舞台美術コースの3コースを包含しています。

現代では舞台芸術作品といつても、作品を展開する場所は、劇場、野外、オンラインと様々です。また、舞台芸術作品を提供する対象者は、舞台芸術を愛する愛好家、地域の活性化に活かしていきたい街の担い手、教育や福祉、医療に活かしていきたい舞台芸術以外の専門家と多様です。そういったことを踏まえ、全てのコースにおいて、専門技術と専門知識をしっかりと身に付けるとともに、芸術的側面と社会的側面の両面から舞台芸術作品制作にアプローチする力が身につくようにカリキュラムが設計されています。“何を”“誰に”“いつ”“どこで”“いくらで”“何のために”といった企画趣旨を理解し、多様な職業能力の人材が集まる現場で適切にコミュニケーションを取り、社会に作品を送り出していく力が必要だと舞台芸術領域では考えているのです。

そのために、1年生は“舞台芸術ファンデーション”として、コースに分かれずに、全コースの導入部分を学修し、2年生のコース選択に向けた経験と知識を積み上げています。4月に40人の1年生を迎えて過ごした4ヶ月の前期授業を終え、9月から始まった後期は徐々に領域の個性、学生の個性がはっきりと表れてきたように感じます。

4月からはコースごとの学びが始まりますが、舞台芸術領域はコースが分かれても、公演制作のために常に連動していくという特徴があります。次年度も初めての挑戦を繰り返していくますが、教員一同、全力で新領域の運営に力を注いで参りますので、どうぞ今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

*尚、舞台芸術領域の舞台プロデュースコースは、音楽領域アートマネジメントコースから接続されていくため、アートマネジメントコースのカリキュラムに基づいて設計されています。

主任 梶田美香

・舞台芸術演習 I より

舞台芸術領域のコア科目です。企画制作・舞台美術・音響・照明のそれぞれの導入について、前期とは異なる先生方による授業が展開されました。一部をご紹介します。



舞台芸術演習 I -6 (舞台美術)



舞台芸術演習 I -5 (照明)

・図面演習 I

舞台芸術の世界では、舞台美術制作や照明デザイン、音響デザインの際に、ベクターワークスというソフトを

使うのが一般的です。建築の西岡先生からソフトの基礎を教えていただきました。



・初めての成果発表

プロジェクトワーク2では、次年度に予定しているダンス公演のための企画についてグループごとにディスカッションを重ねました。そして実際の舞台模型を作り、使用する音楽を決め、照明もイメージしました。公演チラシも想定しました。それらを、東キャンパスのギャラリーイーストで展示し、多くの方々に見ていただく機会を得ることができました。



・授業外活動



オーケストラコンサート

「音楽の森」では美術製作、ワークショップ、音響、照明、受付と、全てのセクションに、補助スタッフとして参加しました。

夏休みに、舞台美術の金井大道具の工場見学に行きました。



芸術学部芸術学科美術領域

美術領域では制約の多い社会状況の中、学生達の健康安全確保と創作意欲の向上、減退防止に重点を置き後期も様々な活動をいたしました。

■ 日本画コース

日本画コースの作品発表は「芸大生のshow case 展」(東急ホテル)とコース展、レビュー展の3件で、コース展では古川美術館学芸員山内綾子先生、レビュー展では特別客員教授立島恵先生に講評して頂きました。卒業制作指導として特別客員教授土屋禮一先生による2度の講評会、講義では「佐藤美術館・作家支援の取り組みと学芸員の仕事」「寺田倉庫のアート事業について」「表装について」等、幅広く充実した内容で行いました。



■ 洋画コース

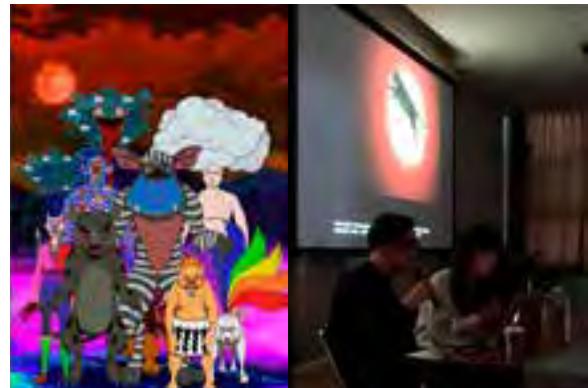
洋画コースでは今年度の特別客員教授で国際的に活躍するアーティスト加藤泉先生による特別講義が行われました。また12

月17日に学生アトリエで作品講評会が行われ、講評を受ける学生に対して適切なアドバイスや指導がありました。12月17日～22日の期間 A & D センターで洋画コース2～3年生による選抜展覧会PARADEが開催されました。展覧会オープニングでは2年生有志によるバンド演奏があり、会場ではロックな音楽が流れて盛り上がりました。



■ 現代アートコース

映像、アニメーション、演劇などの多領域を横断し、シンガポールを拠点に各地で作品を発表してきたホー・ツーニエン氏を客員教授に迎え、特別レクチャーを行いました。豊田市美術館での個展「百鬼夜行」の紹介とともに、学生時代に影響を受けた音楽、映画、哲学のお話や、近作の題材となる戦争をめぐるアジア史などにも触れ、日本の文化や歴史に造詣が深いツーニエン氏の作品への理解が深まる貴重なレクチャーとなりました。



■ コミュニケーションアートコース

コミュニケーションアートコースでは、今年度も名古屋みなと蔦屋書店(ららぽーと名古屋みなとアクリス内)からX'masの店内装飾の依頼をいただきました。3回目の展示について蔦屋書店との打ち合わせを繰り返し「プレーメンの音楽隊」をモチーフに1年から4年生までの総勢38名の学生たちが数人のグループに分かれて制作を実施しました。物語のキャラクターや冬の動物たちを制作し、およそ2ヶ



月間、店内に訪れたたくさんの人に店内装飾を楽しんでいただきました。

■ 工芸コース

工芸コースの主なトピックスは二つ。

①領域横断として工芸分野連携による KOUGEI EXPO in AICHI へ参加。三州鬼瓦工芸品にふれ「映える」をテーマに作品制作。有松絞・尾張七宝に参加したデザイン領域工芸分野の 2 コースと愛知県国際展示場にて発表しました。本学ブースは会場でひときわ輝きを放ちました。



②陶・ガラス授業の成果として学生企画「てしごと展」を開催。素材と身体を通して思考が、時代性や世代性とともに、澆刺とした印象を与えた展覧会となりました。

■ 美術総合コース

美術総合コースでは学びたいコースの授業を自由に選択できるため、同級生全員が揃うことは少ないのですが、2022年1月に開催されたレビュー展では一同に作品が並びました。1年間かけて学んできた日本画、洋画、版画、陶芸、フィギアなど自信作を5作品ほど選んで発表しました。講評会では、制作者として先生からの質問やコメントに対応する姿をみることができました。1年間を振り返り自身の成長を確認できたと思います。



芸術学部芸術学科デザイン領域

今年度後期も新型コロナウイルス感染症拡大防止のための措置として、講義系科目は前期に引き続きオンラインで行われ、実技科目のみ3密を避けながらガイドラインに沿って対面で行われました。学外での授業や直接的な体験などは思うようにできないなか、各コースで試行錯誤しながら学びの機会を失うことのないよう進めていきました。

デザイン領域の1,2,3年生にとっては、レビューが1年間の自身の制作を振り返り、展示や講評、公開による一般の方からの反応などが、次の制作に繋がる機会になっています。今年度も受付で体温測定を行うなど感染対策を行いながら開催しました。

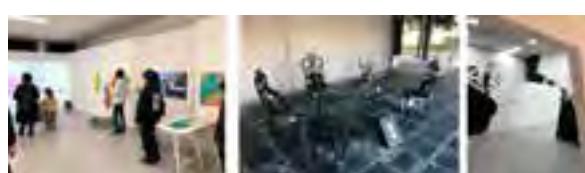


1.2.3年の全学年レビュー

2021年度卒業制作展も感染症対策を行なながら大学内で2月17日から27日まで、直前まで授業で使用していた教室などを学生自らの手で展示空間へと作り替え作品発表を行いました。

今年度もコロナ禍であることを反映してなのか、例年以上に自分の内在的なものや、近親の範囲における問題発見などをテーマ設定の対象としながらも、確実にプレ

ゼンテーション技術が向上し、社会へ向けてのより強いメッセージが込められた作品が多く見られたと思います。



学内開催の卒業制作展

デザイン領域では今年度から ALPs(超域創造プログラム)として、デザインとは本来結びつかないような分野との関わりから新しいデザインの方向性を探っていくようなプロジェクト型のプログラムが各コースから選抜されたメンバーにより始まりました。今年度は、昆虫食の専門家に講義をしてもらったり、名古屋高速道路公社と廃材を素材から見直すリサーチをスタートさせたりなど具体的な活動が始まりました。



■ ファウンデーションからの報告

コロナウィルス感染症対策を行なったうえでの実技授

業も要領が掴めてきた今年度は、石膏や金属といった素材を扱う授業を含め、コロナ禍前の授業内容を行うことができました。それでも、およそ200名の一年生全員が集まる機会をつくることは叶わず、グループワーク型のワークショップは制限せざるを得ないなど、制約は未だ残っています。慣れない大学生生活のスタートに加え、長引くコロナ禍に翻弄された学生も少なくなかったのも事実です。それでも、大学入学後に専門的な実技授業を対面で受け、新しい仲間と出会う経験を担保することができたことは喜ばしいことでした。限られた環境の中でも盛んに交流し、切磋琢磨しながら作品制作へと打ち込む姿を見ると、一年生の皆さん底力を感じずにはいられませんでした。年度の最後には、1年間の成果を振り返るレビュー展示を例年通りの規模で行うことができました、それぞれが課題成果や自主制作をブースに展示し、この一年の成長を振り返る機会となりました。

■ ビジュアルデザインコースからの報告

◎ ナゴヤ展 | 3年

ここ数年、継続して行われている名古屋をテーマとした「ナゴヤ展」ですが、今年度はテーマを少し広げ「城下町・名古屋の魅力発信」として、フィールドを名古屋城から長者町周辺の城下町とし、2月3日から9日まで名古屋城・本丸御殿にて展示発表が行われました。制作プロセスの中で、学生たちは幾度となく現地を訪れ、積極的に街の人たちとコミュニケーションを積み重ねながら制作を行いました。



◎ ナゴヤ展・サテライト展示「それはほとんどの場合、かたちがそこにある」展 | 3年

4日間の短い期間でしたが、「ナゴヤ展」と並行して、長者町にてナゴヤ展のサテライト展示を行いました。期間中、より開かれた発表を目指し、長者町の関係者をお招きしての、講評会とコース客員教授・原田祐馬氏の講演会を行いました。学生にとっては、デザインの役割を実感する良い機会となりました。



◎ デザイン実技Ⅲ -1 | 3年生

3年生は前期課題で取り組んだ「プランディング」の展示を10月6~12日までXギャラリーで行いました。

4つのグループが新しく世の中に欲しい架空のブランドを設定し、市場の調査・分析から、コンセプトの組み立て、ネーミング、ロゴマーク、サービス、商品パッケージ、広告、プロモーションツール、展示までの一貫した企画制作を行いプレゼンテーションをしました。



◎ デザイン演習Ⅱ -2 | 3年生

3年生のデザイン演習Ⅱ-1、デザイン実技Ⅲ-2、デザイン演習Ⅱ-2の3つの授業の合同展示を11月4~9日までXギャラリーで行いました。

エディトリアルとインフォグラフィックスとレビュー展のポスター制作です。共に、色・かたち・タイポグラフィーの基礎的な知識と技術が必要となる課題です。視覚伝達のための知識と技術の習得の成果を発表しました。

今年度は吉田海斗君の2枚組のポスターが投票によって選抜され、1月のレビュー展のメインヴィジュアルに使用されました。



◎ デザイン実技Ⅲ -4 | 3年生

3年生のデザイン実技Ⅲ-4では、新聞広告を題材に主観的な理由だけではなく、客観的にヴィジュアルや言葉を選び、表現としてコミュニケーションを成立させることを学びました。

外部の広告代理店から現役のクリエーターに講義や講評に参加して頂き多様な視点から繰り返しアイデアを練り上げる訓練をしました。その成果物を今年度の毎日広告デザイン賞に出品しました。



◎ デザイン実技Ⅱ -4 | 2年生

2年生のデザイン実技Ⅱ-4では既存のパッケージを元にリ・デザインを行いました。

パッケージは商品でありながら企業イメージを表す最大の広告でもあります。

非常にシビアな経済的、技術的な過程をクリアして作られており既存のパッケージを分析しリ・デザインすることで市場に求められているものを客観的に分析すること、問題点を改善し社会に必要な新しいアイデアを考えること、立体物を制作するための基本的な技術と制作のプロセスを学びました。



◎ 実技 II-3 | 2年生

実技 II-3 では前半は白澤先生のもとで、はじめに「表現ストレッチ」と題するいくつかのレッスンを受けながら、アイディアを具現化する方法を探りました。そして『チルドレンミュージックバンド COINN』の楽曲をテーマに与えられ、楽曲をリサーチする中でデザインを作り上げていきました。後半はそのデザインをスクリーンプリントの技法を学びながら、自分で選んだ紙に印刷し、組み立ててレコードジャケットに仕上げました。本年度は例年と違いシルクスクリーン印刷の製版から印刷まで全ての作業を学生が出来ることになり、デザインを作品化する全ての作業に主体的に取り組むことが出来ました。また本年度より印刷工房に導入されたリソグラフとシルクスクリーンとの併用という新しい表現にも積極的に取り組みカラフルで質感の高い作品が多く生まれました。



◎ レビュー展 | 2・3年生

2、3年生の一年間の学習の成果を展示するレビュー展が1月15～23日まで体育館で行われました。

3年生はグループワークをベースに2月からのナゴヤ展のキーヴィジュアルの展示や4年生に向けてのポートフォリオの展示を行いました。

2年生は個人制作物をメインに展示を行い、各自が3年生に向けて次の課題を明確にするきっかけとなりました。



■ イラストレーションコースからの報告

イラストレーションの意味は拡散し、近年は、マンガ・アニメ・ゲームなどのカルチャーとしてイメージされることが主流となっている。それらもかつてのような素朴な理解では捉えられないほど多様化が進み、新しい意味、価値、表現方法、媒体など、さまざまな角度からのアプローチが求められるようになった。イラストレーションコースでは、こうした状況に柔軟に対応し、新しい時代の新しいカルチャーを生み出せる人材の育成を目標に、カリキュラムを工夫している。



榎原健祐氏講義、ワークショップ

特別客員教授であるグラフィックデザイナーの榎原健祐さんをお呼びし、「自分の作品のタイトルロゴをデザインし、キャッチコピーをつけてポスターを作る」というワークショップを行った。

事前に描いたイラストレーションを使いオリジナルの映画を想定したポスターを制作。選抜された作品は学内のギャラリーで展示した。文字のデザインが作品に与える影響に気づくきっかけとなった。



さやわか氏講義

前期に引き続き、サブカルチャーブログ家、物語評論家、マンガ原作者のさやわか氏を招き、2・3年生を中心に行なった特別授業を行なった。多くの学生の興味の中心にある「キャラクターとは何か」というテーマに対し、平易でわかりやすい講義内容でキャラクター論の核心を説明いただいた。卒業制作展でもゲスト講師として講評いただく予定である。また、次年度は特別客員教授としてお招きし、さらに発展的に教授いただくことも予定している。



卒業制作

4年生は卒業制作の完成に向けて精力的に取り組んだ。全体的に多彩な作品群だが、特にマンガ作品やキャラクターを扱った作品が増えている。キャラクターについての深い洞察とマンガ表現論の理解も進み、同種の卒業制作としては、全国的に見てもハイレベルな作品が制作されるようになった。また、後半の追い込み時期には、卒業生たちが入れ替わり訪れ、様子を見たり、作業を手伝ったりするなどコース内での縦の繋がりができつつあることは印象的だった。

デザイン演習 II-2

デザイン演習 II-2 では「ムードを作ること」をテーマに版画、写真、ドローイングなど様々な媒体を駆使しながら自分が設定したムードを紙の上に定着させ、22x30cm のボックスに収めるプロジェクトを実施した。

初めからムードに合わせた作品を狙い撃ちするようになるのではなく、様々な方法でたくさん作品を作り、それらの中からムードに合う作品を選び取る、そして、方向性が見えてきたら今度は狙いながら作る、といったプロセスを実現するために、無意識に描いたドローイングからデジタルファブリケーション工房のレーザーカッターデバイスを用いて木片を切り抜きスタンプを制作して、それらで抽象的な画面を構成したり、白黒写真を撮影し、それらからイメージを選び取り、凹版（紙版画）の版に置き換えることで偶然性をはらんだ版画作品としても制作をした。授業の終盤には版画作家の森田朋氏に特別講義として、森田氏の銅版画を目の前でインクを詰め印刷する作業をしていただき、その後では作家としてのスタンスや表現に

おける考え方をお聞きする時間も持つことがでた。結果的には表現形式は様々でも統一感のある作品群が制作されたと思う。



■ メディアデザインコースからの報告

今年度スタートしたデザイン領域 先端メディア表現コースは、後期もデザイン・映像・メディアの3つの分野を横断する学びを進めています。

1年生は専門実技でプログラミング、電子工作、3Dプリンターを使って実際に動くものを作っています。これまでメディアデザインコースの3年生でやっていた課題を前倒しで取り組んでいます。

2年目からは、さらに自分のやりたいことに即したことができるよう、プロジェクト型の課題として外部の企業と繋がりを持たせたり、社会に自分の考えを伝えていくことができるような課題を展開していきます。

工芸分野領域横断「工芸 EXPO」プロジェクト 映像制作

メタル＆ジュエリーデザインコース、テキスタイルデザインコース、美術領域 工芸コース(陶芸・ガラス)の「工芸 EXPO プロジェクト」と連携し、先端メディア表現コースの学生が制作過程を追ったプロモーションムービーを作成しました。



1 Min Project 2021

リアルにコミュニケーションが取りにくいコロナ禍の中、サウンドメディア・コンポジションコースの学生とオンラインでやりとりし、1分で起承転結する作品を制作しました。音楽主導で制作する「Movie on the Sound」、映像主導で制作する「Sound on the Movie」。モーショングラフィックスを使った映像など、多彩な作品ができあがっています。



デジタルファブリケーション工房

この工房は5月から稼働を始めましたが、後期になって利用が増えており、他コースの学生にも浸透してきました。ガラス張りの工房になっていることもあります。先端メディア表現コースの学生は授業で工房を使っていますが、他のコースの学生も一緒に来て試しに何か作ってみようとか、友達へのプレゼントを制作するなどの利用もあります。またUVプリンターを導入し、木材、アクリルなどの樹脂、革、布などさまざまなものにプリントができるようになりました。

リルなどの樹脂、革、布などさまざまなものにプリントができるようになりました。

メディア・アーティスト藤幡正樹氏を今年度特別客員教授としてお招きし、特別講義を行って頂きました。「もの」の価値からNFTまでの関心ごとを中心に話して頂き、3月にはアートラボあいちでワークショップ+展覧会を予定しています。

■ メディアコミュニケーションデザインコースからの報告

後期開始直前の9月16日、今年度MCDコースの特別客員教授濱谷克彦先生のポスター課題の2回目中間チェックがありました。今までの報告レポートにも度々登場する濱谷先生は、長年資生堂のインハウスデザイナーとして、多くの広告デザイン、PR誌である『花椿』のアートディレクターなどに関わってこられ、第14回亀倉雄策賞、東京ADC賞をはじめ多くの賞も受賞されています。(現在は東京の大学で教鞭をとられています。)今回の課題は<資生堂の口紅>で、コロナ下で口紅を売るにはどういう広告をつくるかという実践的なテーマに取り組みました。

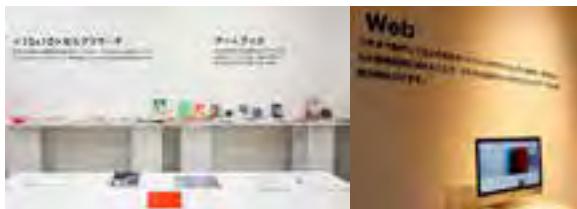
通常は特別客員教授の方々にも個人チェックをお願いしていて、30人以上の受講学生に丁寧に個別指導をしてくださるため毎回授業時間を大幅に延長してしまいます。コロナ下ということもあり、今回はB大講義室で学生が、コンセプトやアイディア、途中段階の作品などをプレゼン形式で発表し、先生のアドバイスをオープンにしました。聞いている他の学生たちそれぞれの問題にも置き換えられ有効的な展開がみられました。最終的にはB2ポスターにプリントし全体講評、その後コース展で学内展示も実施しました。



毎年11月< MCD デパートメント >コース展を開催しています。今年のテーマは<全方向MCD>。課題が多く、アートからグラフィック紙媒体、本、写真、映像、ウェブ、メディア全般的に取り組むことを、力強く伝えるタイトルで、学生たち自ら積極的なベクトルに、意識を向いたと頼もしく感じました。会場はA&Dセンターに加え、Xギャラリー、和室と様々な空間展示を試みています。

このコース展は3年生後期、自分の目指すテーマを深く掘り下げ専門的に技術的に反映させた作品と展示の関係を考える課題の発表をメインに置き、その他MCD2～3年の授業で制作した本や写真、映像など課題ごと

に学年を超えて展示します。年度末の個人ブース展示のレビュー展とは違う形式でコース全体が見渡せるような展示となっています。



今年は関連イベントとして、写真家長島有里枝氏の特別講義を企画し、学内外にむけ聴講を告知しました。長島有里枝氏はフェミニズムの視点で作品を制作する写真家です。受講した学部生、院生たちは、はじめてフェミニズムという考え方方に向き合った人が多く、少なからず衝撃をうけたようです。今後も学生に影響力のある先生を招聘し、思考のきっかけを生み出す機会を増やしていきたいと考えています。



昨年2020年4月1日中日新聞全30段に使用された名芸の新聞広告。MCDの授業課題で制作されたものでした。2021年9月13日に発表された「第12回中日新聞社広告大賞」で読者が選ぶ中日新聞広告賞部門賞を受賞しました。名古屋の大手企業の広告が選ばれているなかで、コミュニケーションをテーマに、写真とオリジナルフォントを生かした学生がつくったポスターは<アートで世の中を応援する大学>として高い評価をいただきました。

MCD・HP・<https://nua-mcd.com>



■ ライフスタイルブロック ライフスタイルデザインコースからの報告

デザインがどのように私たちの生活と密接に関わっているのかを知り、その本質へと実行力を持ったデザイン提案ができるよう、ライフスタイルデザインコースでは、現場での学びを大切にしています。その一環として、各地の企業や自治体とも連携し活動する機会を多く用意しています。後期からは岐阜県飛騨古川に拠点を構えるファブラボ「株式会社 飛騨の森でクマは踊る」と連携したプログラムを開始しました。この特別プログラムでは、森林問題と地域コミュニティ、そしてデジタルファブリケーションとの関係のうちに、改めてモノづくりを媒介

とした自然と暮らしの関係に一步踏み込んで学生たちと考え、実行力のある提案へと結びつけます。そのプログラムをスタートするにあたり、10月には飛騨古川を訪れフィールドワークを行いました。広葉樹の森林、製材所、飛騨古川のまち、ファブラボなど、木材流通の流れに沿って現場を巡り、それぞれの地点で広葉樹の木材流通を進める方々から解説を頂きました。それにより、日本の林業が抱えている問題やそれを引き起こしている要因を体感的に知ることができました。その後、学生たちは森林問題へとアプローチするためのデザインアイデア発想とその深掘りを繰り返しました。今後、最終的なデザイン提案へと定着させ、次年度にはアイデアの実現へと向けてプログラムを進展させる予定です。同様に、岐阜県池田町、OKB総合研究所とともに、レンタサイクルを通じた地域活性やマイクロツーリズムの可能性を模索する産官学連携事業をインダストリアル＆セラミックデザインコースと共に始めました。新しい時代にふさわしい観光や地域活性のあり方を模索し、8月に現地調査を行うところからプロジェクトを開始しました。現地での気づきからアイデア出しや検討を重ね、最終的には池田町の水の恵をテーマとした、新しいレンタサイクル観光マップの提案へと行き着きました。次年度には実際に池田町を中心にマップが配布される予定です。

また今年度から3年次のデザイン演習の授業内容を刷新し、ナラティブ（物語性）／サービスデザインの内容を中心とした授業をスタートさせました。木村恵美理非常勤講師（ナラティブストラテジスト）が授業を担当し、現代のデザインマネジメントを考える際に必須である、サービスデザインを実践的に学ぶと同時に、デザインにおける「物語性」を扱う課題に挑戦しました。

加えて、3年生の学生たちが自主的にグループを組み「とよたまちなか芸術祭」へ関わるなど、学生たちが大学のプログラムから離れたところで、積極的にこれまで得てきたデザインの力を実践へ移すような活動がみられたことは、非常に喜ばしいことでした。今後もライフスタイルデザインコースでは、生活と社会の現場への深い理解に根ざしたデザインを生み出すための教育と実践を重ねていきます。



「ヒダの森でクマは踊る」と森林問題に取り組むプロジェクト



飛騨古川でのフィールドワークと
アイデア発想



中間講評

■ テキスタイルデザインコースからの報告

○工芸分野の領域横断による連携

今年度から工芸分野の美術領域工芸コース、デザイン領域メタル＆ジュエリーコース、テキスタイルデザインコースは、領域横断による連携を始めました。後期は「工芸から グリーンシティプロジェクト」と「工芸 EXPO プロジェクト」を実施しました。また、美術領域とデザイン領域の 1 年生が合同で行う「工芸制作」の授業が始まりました。

○「工芸から グリーンシティプロジェクト」

10/5～8 グリーンシティで展覧会

大学外来者宿舎グリーンシティの住環境の改善を目的に、美術とデザインの学生がアイデアを出し、制作、提案を行うプロジェクトです。

専門の技術や思考を駆使して制作した作品は、殺風景だったグリーンシティの室内を明るく彩りました。来訪者の評判は良く、展覧会後も学生作品を恒久展示することになり、次年度も継続してプロジェクトを続けることになりました。



ジャガード織カーテン

暖簾と部屋のマーク

○「工芸EXPO プロジェクト」

11/26～29 愛知県国際展示場Aichi Sky Expo で展示

経済産業省主催、伝統的工芸品月間国民会議全国大会の大学コラボ展の制作と展示を行いました。テキスタイルデザインコースは有松鳴海絞りと連携し、豆絞りに見える柄を提案しました。

有松絞り産地・豆絞りプロジェクト

https://www.nua.ac.jp/info/detail/expo_4.html

会期中の 11/28 には、会場ステージで映画監督の堤幸彦氏とのトークイベントで、学生たちがステージで自作の説明をしました。



作品

ステージ

○「工芸制作」後期授業

美術、デザイン領域の 1 年生にメタル、テキスタイル

ルの作品制作を通して、工芸の基本となる考え方や技術を伝える授業です。テキスタイルでは草木を煮出し叩いて、布を染めました。染色に対する興味を促し、生活の中の植物に対する見方を変えながら、ものづくりのヒントに繋がる制作を行いました。



草木の叩き染



工芸制作講評

○「有松絞り手ぬぐいブランドプロジェクト」後期授業

名古屋市有松とドイツデュッセルドルフを拠点に世界展開を行う (株) suzusan クリエイティブディレクターの村瀬弘行さんを特別教授に招き、2 年生がプロジェクトを行いました。去年に引き続きコロナ禍のため、村瀬さんが来校したのは 1 回のみ、後の 3 回の授業は、ドイツの村瀬さんと学生をオンラインで繋ぎました。従来の手ぬぐいは女性客目線のものが多いのですが、今年度は時代を反映したジェンダーレスのブランド「Varigent」「木洩レ日」を提案、来年度 6 月第一土日に行われる「有松絞りまつり」で学生自身が販売する予定です。



村瀬さんとオンライン授業 手ぬぐいブランド Varigent 手ぬぐいブランド木洩レ日

3 年生は、10/23～24 名古屋栄三越百貨店での (株) suzusan のポップアップショップで、自作の手ぬぐいを販売しました。



三越百貨店で販売

村瀬さんと学生

○「帽子プロジェクト」

名古屋の帽子問屋林八百吉 (株) から依頼を受け、帽子の布を 3 年生がデザイン・制作、林八百吉が帽子に仕立てました。今年度の学生が考えたテーマは「物語」。出来がりの評判が良く、12 名全員の作品を林八百吉 2022AW 展示会に出品する予定です。



帽子講評

完成した帽子

○総合展「THE 尾州」2/17～18一宮市総合体育館

3年生の近藤悠香さんが翔工房に参加、尾州産地の匠と布作りを行い、作成した布はガーメントに仕立て、オンライン上のファッションショーに出演しました。



布_Wave Strip

ガーメント

○詳しい活動の記録は、こちらをご覧ください。

Facebook: NUAtextile

■ メタル&ジュエリーデザインコースからの報告

美術デザインの工芸分野・領域横断連携では前期成果物展「工芸リレー」3コースリレー展示に引き続き後期は2つの展示発表を行いました。

「工芸から グリーンシティプロジェクト」

大学のゲスト宿舎「グリーンシティ」改善企画の展示を10/5~8 現場グリーンシティにて行いました。メタル&ジュエリーデザインコースは金属素材を活かした作品を展示。展示後もゲストに楽しんで貰おうとクラフト研究科1年富永侑里さんの七宝額2点、3年川中冴恵さんの花瓶と靴べらがグリーンシティに置かれています。



富永侑里さんの七宝額、川中さんの花瓶（手前）、
大杉真帆さん（金属を知って貰うためのハンガー）

「工芸 EXPO プロジェクト」

伝統的工芸品月間国民会議全国大会「EXPO IN AICHI」（経産省等主催）が11/26～29 愛知県国際展示場にて行われ、大学コラボ展・メタル&ジュエリーコースでは美術領域ガラスコースの学生と共に有志が集まり、夏休みを返上して尾張七宝を学び制作を行いました。

あま市七宝焼アートヴィレッジの全面協力により、相互七宝有限会社提供「しがかり品」（製作途中の製品）✖️学生オリジナル作品と伝統工芸士加藤実氏に学ぶ有線七宝作品の2種類を展示しました。当日は学生がチラシを配り、尾張七宝や自分の取り組みについて来場者に説明をしたり、特設ステージにて堤映画監督からインタビューを受けて答えるなど積極的に社会参加を行ないました。



3产地合同の展示ブース制作中

出来上がりの様子

ガラスコース高木愛菜さんの靴と研究科2年金佳穂さんの合子（手前2点）

メダルプロジェクト「卒業学生表彰者への副賞メダル制作」

3年生は卒業式で表彰される学生表彰者への副賞メダルを制作しました。メダルはそれぞれ一点ものの特別制作で「2021 NUA STUDENT AWARDS」の文字が刻まれています。制作されたメダルは卒業式で授与される前に2月22日から26日まで(23日開廊) ADセンター East (東キャンパス) でお披露目展が開催されます。展覧会ではミニメダルの新作、海外メダル作家の作品なども展示されます。



表彰メダル / 川中冴恵さん作品 表彰メダル / 奥岡夢乃さん作品

産学連携・尾張七宝プロジェクト

3年目の今年は制作後にジュエリーセレクトショップ「FULIGO SHED」店長林秀和氏をお迎えし講評会が行われました。商品セレクトの基準などプロの厳しさに触れながら可能性も示唆して頂きました。

レビュー展は2年、3年共に体育館での展示でした。各自の課題と共に自主制作を展示し、個性を活かし工夫を凝らした展示空間を作りました。

4年生卒業制作今年は11名が卒業制作に臨み、自分の生い立ちや思い出などを振り返り、今現在身の回りで起こっている事柄を思考し、各々の技法、表現に落としました。

「芸大生の Show Case」

主催：名古屋東急ホテル、協力：愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、C B C テレビによる企画に4年瀬上純華さん(9/1~30)、岡島真怜さん、研究科1年富永侑里さん(12/1~26)が参加展示しました。名古屋東急ホテルの2階「なだ万」向かい壁に並ぶショーケースに1ヶ月間展示され、宿泊や食事をされる人達の目に触れる機会を持ちました。



濱上純華さん作品

富永侑里さん搬入中の様子と作品



岡島真怜さんと作品

10/31Gifu ビルにて開催されたクラシック音楽イベント<LE PROJET à GIFU>にて3年奥岡夢乃さん、川中冴恵さんが美濃和紙ショップWashi-nary・和紙見本用アイアンスタンドを2脚制作し、コンサート和紙インスタレーション作品（1年生制作）の搬入を行いました。アイアンスタンドは今後Washi-nary の和紙イベントで使用されます。



メタル工房でアイアンスタンド制作中の川中冴恵さん、奥岡夢乃さん

日本新工芸展 学生選抜展

4年生の田村麻実さん、濱上純華さんの卒制が日本新工芸展の特別企画、学生選抜展に選ばれました。二人の作品は第43回日本新工芸展（東京会場／国立新美術館、東海会場／松坂屋美術館）で展示されます。

奥岡夢乃さんを研究代表者として3年生8名が「永井科学技術財団奨励金モノづくり試作」に応募し採択され、奨励金を授与されました。

半年間受験に向けて努力した結果が実り、国家検定制度1種「貴金属装身具製作技能士検定3級」を3年奥岡夢乃さんが受験して合格しました。

■ インダストリアル&セラミックデザインコースからの報告

IDコースでは、お香・線香の専門店「香源」を展開する菊谷生進堂殿とのコラボレーションで、前期と後期を通じた産学連携プロジェクト「お香文化を楽しむ新しい道具のデザイン開発（香源プロジェクト）」を行いました。

日本におけるお香を楽しむ文化は1400年前から始まり、その歴史も古く、種類や楽しみ方は多様で実はとても優美な世界観を持っています。しかし、現代社会では仏具として定着していますが、それ以外は登場する機会が限られ、年齢層の高い嗜好品的なものとなっています。

す。このプロジェクトでは、お香に一番馴染みのない世代である学生たちに、自身の生活の中でのお香の可能性について模索してもらい、香源ブランドの新商品開発につなげることを狙いました。

プロジェクトを始める前に菊谷生進堂の菊谷勝彦代表に「お香とお香文化」について、ご講義頂きました。実際の道具などを使った講義はわかりやすく、お香に縁のなかった学生たちの興味を惹く事ができました。その模様は名古屋芸大グループ通信のWebサイトでご覧いただけます。

https://www.nua.ac.jp/group_tsusin/collaboration/collaboration_14.php

前期はIDコースの3年生と大学院1年生にお香を使った新しい商品の企画提案を行ってもらいました。2ヶ月という短期間でしたが、ユニークな提案が多くあり、菊谷氏からとても良い評価を頂き、2名を表彰しました。その模様もWebサイトでご覧いただけます。

https://www.nua.ac.jp/group_tsusin/collaboration/collaboration_17210810.php

- ・最優秀賞:青山健太郎(大学院1年)「時計のない生活」
- ・優秀賞:吉野廉平(IDコース3年)「INCENSE HOLDER」

後期はIDコース2年生のセラミック演習で香台を作りました。セラミック演習では、原形作り、鋳込み型製作、素焼き、色付、本焼きの一通りの工程を学びながら、思い思いの香台をデザインしました。



■ カーデザインコースからの報告

◇自動車技術会デザイン部門委員会『二輪デザイン公開講座』を共同開催しました。カーデザインコースでは教員が日本最大の学会である自動車技術会のデザイン部門委員会に所属し、この主催イベントである『二輪デザイン公開講座』の開催を担当しています。この講座は国内

のデザイン系大学でカーデザインを学ぶ学生を対象に二輪デザインの楽しさやその仕事内容を伝えるためのイベントで、国内5社の2輪メーカーカーデザイナー直接指導をする貴重な講座です。前年度はコロナで中止になりましたが、2019年度の開催に引き続き2021年度も夏季休暇期間の8月19、20日に本学で開催することができました。コロナの影響があったため、対面での参加は本学の学生のみで他大学の学生はリモートで参加、結果的に参加しやすくなったことで前回よりも多く、ほぼ2倍の60名ほどの学生が参加してくれました。講座はスケッチ、モデル、デジタルスケッチ、カラーデザインの4講座構成で、本学学生は対面、他大学の学生はリモート受講で、時間を区切って全員がすべての講座を受講しました。本学はデジタル工房が充実しており、この資源を有効活用することで全国の大学にとてもスムーズにリアルタイムで授業を配信することができ、大変好評のうちに終了しました。



プロデザイナーによる熱いお話し



モデル制作指導



スケッチ講座



スケッチ講座

◇本年度後期よりトヨタグループのテクノアートリサーチ社から講師をお迎えしました。カーデザインコースの大きなニュースとして、後期からトヨタ自動車のブランチである株式会社テクノアートリサーチ社より講師を迎える授業をお願いすることになりました。同社はトヨタデザイングループの一拠点として先行開発やレーシングカー、生産車などの車両デザインを中心に、ボート、ロボット、住宅設備などトヨタの幅広いプロダクトデザイン提案を担うデザインに特化した専門会社です。授業は2年生後期の実技でスケッチからクレイモデルまで、カーデザイナーにとって特に重要な表現技法の基礎を指導していただきました。指導は岡本先生（同社副社長）桑田先生（同本部長）に担当いただき、授業には同社の若手スタッフも参加、熱のこもった授業が行われました。また、間でテクノアートリサーチ社の見学、さらに前トヨタ自動車取締役でデザインを統括していた福市得雄氏の特別講義も受講することができました。最前線の企業からの指導を受けることで学生はカーデザインの現場を知り、未来のデザインを知り、さらにこれらを生み出す基礎の技術を学びました。カーデザインコースからはトヨタ自動車、テクノアートリサーチ社、さらにそのグループ企業であるデンソー、トヨタ紡織、アイシン、トヨタ車体な

どに多くの先輩が務めており、愛知県を支える自動車産業に貢献しています。



クレイ工房でのモデル制作



レビュー会場での講評

■ スペースデザインコースからの報告

スペースデザインコースでは、授業内での作品制作だけでなく学内外の展示・発表を積極的に行っており、今年度はかなりコロナの影響がありましたが、形を変えながらもたくさんの取り組みを各学年が行いました。

2年生は、毎年秋に美濃市で行われる「あかりアート展」に、美濃和紙を使った照明を各自自宅で制作し、歴史的な町並みに屋外展示する予定でしたが、今年度もコロナ禍ということもあり屋内会場展示、審査が行われました。



和紙のあかり屋内展示

また、自身の出身地を紹介するメディアとしてのゲストハウスの課題ではグループで実制作に取り組みました。



実技2 ゲストハウスの実制作



杉とダンボールのテーブル mozoとの産学連携プロジェクトのTV中継

3年生は子どものための読む空間で使用する家具を制作し東京のこどもミュージアムPLAYで展示を行いました、社会的なテーマとなっている資源の再利用を「アップサイクル」する課題に取り組みました。



子どものための読む空間で使用する家具 PLAYでの展示



アップサイクルでのものづくり アトリエのある住宅設計課題

3つの企業との産学協同プロジェクト行いました。ガーデンメーカーさんとは、庭造りの中で生まれる廃材を使ったノベルティーの開発についての提案を行い、パームホルツさんは、社の開発した新素材の建材を生かした、ストリートファニチャーを東京の見本市会場での展示会に出展したり、オダタイヤ、トヨタカローラ愛豊さんには新車発表のディスプレイを担当させていただき、大学のホームページをはじめたくさんメディアに取り上げられました。



卒業生が美術教員として赴任、スペースデザインにも多数在籍している木曽川高校と高大連携のプロジェクトで高校正門にモニュメントを完成させました。



今年度も卒業制作展が学内開催のため、スペースデザインコースでは日頃の実技室を、作品と空間が一体化した展示空間として、多くの2.3年生の協力を得て学生自らで作り上げました。

今年も卒業生が多数見に来てくれ、近況を聞いたり、感想を言ってもらったり、交流しました。



卒展会場

■ 文芸・ライティングコースからの報告

文芸・ライティングコースでは、各々の学生が日々の取り組みや成果を意識的に形にするために、冊子制作や展示に取り組みました。様々なジャンルの本を精読し、異なる文体を書き分ける力を習得すると共に、自らが創作した作品の執筆意図を具体的な言葉で表現するためにプレゼンテーションの方法も積極的に学んでいます。

コース発足時から毎年行っている「ラジオドラマ脚本」の執筆、「新博物誌」の冊子制作には、例年以上に学生が主体的に取り組むことが出来ました。ラジオドラマは、学生一人一人が「言葉が音で表現される過程」をイメージして丁寧に書き上げました。また、共同制作を行っている声優アクティングコ

ースおよびサウンドメディア・コンポジションコースとの交流もより深められた一年となりました。「新博物誌」は尾張中央タイムズ編集長の米田環氏の指導のもと、学生有志が編集チームを作り、冊子にしました。その冊子をベースに、文芸コースの3年生が、挿絵を担当した洋画コース・日本画コース・コミュニケーションアートコースの学生と共に、東キャンパスのギャラリーで原画展(「新博物誌展」)を開催しました。

また、学外授業やデザイン共通の授業において、「文章と言葉が社会の中でどのように機能しているのかを多角的に捉え、将来の仕事について考える」ことを目的に、様々な分野のプロの方々からレクチャーを頂きました。2021年度の特別客員教授であるコピーライターの谷山雅計氏は、年間4回の講義を通して、「人を惹きつけるキャッチコピーとは何か」を知るための具体的な課題を提示され、提出課題に対して丁寧に講評をされました。10月には、本学洋画コース卒業生の画家・水野里奈氏から「ビジュアルとテキスト」についてのお話をうかがい、「デザインと文化」の文芸コース担当回では、古書五つ葉文庫店主の古沢和宏氏から「痕跡本」や古書の面白さを社会に広める活動について魅力的なお話を聴かせて頂きました。11月上旬には、一学生から企画の声が上がり、本学イラストレーションコースの丸岡慎一先生と文芸コース非常勤講師の松本育子氏(刈谷市美術館)による対談形式の講演会を開催し、言葉と絵の双方の観点から絵本の魅力を知ることが出来ました。また、11月下旬には、就職活動に向けてアドバイスを頂くために、コミュニケーション・プランナーの上田源氏から、広告や映画のタイアップ事業に関する実践的な取り組みを紹介頂きました。

戯曲の授業では、西欧の未邦訳作品の講読を行い、東キャンパスの中アンサンブル室でアルゼンチンの作家コピの「フリゴ(冷蔵庫)」を上演しました。演出家の深澤伸友氏・俳優の榎原忠美氏の御指導のもと、文芸コースと芸術教養領域の学生有志が協力メンバーとして半年間共に活動し、舞台作りやアフタートークでの司会を担当しました。一年をとおしてのブック・プロジェクト、「メイゲイ・ブックツリー」は、大学図書館との連携をより深め、現在、西キャンパス図書館で「本の木」の展示を行なっています。ブックツリーの特設ホームページやコースのFacebookは随時更新していますので、ぜひご覧下さい。

先の見えないコロナ禍ではありますが、学生を中心に今できることは何かを模索し、今後も様々な取り組みを行なっていきたく思っております。



絵本についてのレクチャー



「新博物誌」展より冊子と共に



朗讀劇「フリゴ、もしくは…冷蔵」

芸術学部芸術学科芸術教養領域

今年度も保護者の皆さまのご支援により、本領域を運営できております。誌面をお借りし改めて感謝申し上げます。ここからは芸術教養領域の今年度後半の教育活動を記します。紙幅が限られているため、詳細は本学のWEBサイトや、領域のWEBサイト (<https://www.nua-la.jp/>) 、本学院のグループ通信等をご高覧くださいれば幸甚です。

■芸術教養領域と学びの意義

芸術教養領域では、人工知能（AI）にできないことができる人、アーティストや芸術を社会と繋げられる人を育てることを目標としています。AIにできないことの一つが、アルゴリズムにしにくい物事です。それは、課題を発見し、それを分析したうえで、試行を繰り返し、解決に導くことです。この過程に必要な、課題発見や分析には、広い視野と視覚や聴覚を研ぎ澄ませた観察力、言葉と視覚・聴覚情報を駆使した思考とアウトプット（プレゼンテーション）が欠かせません。また、解決策の提案・実行には、グループで動く力も必要です。

芸術教養領域ではこれらの力を涵養するさまざまな授業科目を設定し、進級するごとに力を少しづつ身につけるようカリキュラムを組んでいます。最終学年では集大成となる卒業研究を行い、それを文章でまとめています。以下、集大成の研究を終えた4年生から順を追い、本領域の学生の授業内外での活躍を記します。

■4年生の卒業研究と発表

別項の「芸術教養領域 卒業研究展・口頭発表会・卒業制作展」でも述べましたが、今年度後期、4年生は学びの集大成となる卒業研究を行いました。人間発達学部の多くの学生が取り組む卒業研究と同様に、美術やデザインでは卒業制作、音楽では卒業演奏などに該当するものです。芸術教養領域では研究成果を2万字程度の卒業論文にまとめます。12月17日の論文提出締切直前、徹夜に近い状態の4年生もかなりいたと思います。提出時刻の13時半には全員が分厚い論文を持参し、最も太いホッキスで仮綴じを行いました。

それで終了ではありませんでした。次はA1サイズのポスターのデータ制作がありました。ポスターは文章と図表を入れた、卒業研究のダイジェストです。研究結果やまとめ、全体像を、図表・写真・イラストなどをあしらった、デザインも熟考されたものです。

さらに4年生が大変だったのは、論文の手直しを行ったうえで清書を提出し、製本する作業があつたことです。さらに、デジタル工房で印刷して頂いたポスターをトリム（トンボ）に合わせA1サイズに切り、展覧会の搬入を行いました。ポスターは東キャンパスの卒業研究展および、西キャンパスの卒業制作展で展示されました。

次は口頭発表会のためのスライド作りに追われ、本当

に忙しかったことと思います。口頭発表が終わった後は、東キャンパスの卒業研究展の搬出、西キャンパスの卒展の搬入と搬出、その合間に就職・進学や転居の準備などがありました。



3年生が制作したスライドショー動画を壇上に集まって観ている4年生。入学時の新歓記念写真が映されている。3年生は花束贈呈の準備に奔走中

今期の4年生も非常に優秀で、ほとんどの学生は単位がほぼ揃っていましたが、卒業研究以外にもっと勉強したい学生は、卒業要件を超える授業を履修し、頑張っていました。4月からの新生活も上手く行くよう祈っています。



3年生から花束を渡された4年生



卒業研究展(東キャンパス)で搬入作業にあたる4年生と教職員

■3年生の後期授業

4年生の卒業研究をみることは、3年生にとっては特に重要です。言うまでもなく、それは彼らが次年度に行わなければならない「お手本」だからです。今回も昨年度に引き続きコロナ禍に阻まれ、対面で4年生の発表を聴けたのは3年生のうち約半数でした。個々人の興味や関心分野に近い発表について、最低でも1つの質問やコメントをするよう促したところ、全員、良い発言をしてくれました。質問やコメントをする気持ちで他者の発表を聞くことが、理解を深めたり、知識を増やしたりする効果もあります。



今期、3年生が特に大変だった必修授業は「芸術教養レビュー2」と「セミナー2」だったことでしょう。また数名の学生が履修していた「ムービー制作」、「インターメディア表現」、「身体と言葉の表現」は制作する動画等があり、かなりの努力がはらわれました。

4年生の卒業研究口頭発表会で質問する3年生

「レビュー(review)」とは、「もう一度・繰り返し(re)、みる(view)」という意味で、本領域では学修内容と学生自身の振り返りをすることです。芸術教養領域では、振り返った成果を他者にも伝わる形でパネルにすることが主な作業となります。今年度の前期は2年生と1年生が行いました。

3年生は次年度の卒業研究に向け、前期の「セミナー1」と後期の「セミナー2」で、文献購読、ポートフォリオ作り、テーマ探求、論文に相応しい文章記述、さまざまな調査法などについて学びました。自身の興味と関わる、他の授業や自主活動も含め、振り返り(review)、卒業研究に向けてA2およびA3サイズのパネルを作成しました。

今期のレビュー展で3年生は機材班、運営班、企画班の3つの班に分かれ、授業時間外も活発に動きました。どの班も非常に大変そうでしたが、素晴らしい働きで、実のある展覧会になりました。機材班は水も漏らないチェック体制で、機材を準備し、終了後も返却機材を正確に確認してくれました。最も地道で展覧会の根幹となる作業でした。運営班は物品の準備・確認はもちろん、さまざまなことが完璧でした。受付当番の割り振りでも、展示の写真撮影でも大変頑張ってくれました。企画班はパンフレットの制作から企画班独自のパネル制作と展示、全体の搬入と搬出のとりまとめまで、活発に動いてくれました。ひとり一人の詳細については本学の「グループ通信57号」で特集して頂きましたので、ご高覧ください。

■ 2年生の後期授業

2年生は9月に西キャンパスのギャラリーにおいて前期のレビューの展示を行いました。残暑厳しいなか、搬入・搬出、そして口頭発表会（講評会）に汗をかきました。2年次の主な必修授業は「芸術教養レビュー1（旧カリキュラム）」と「日本語リテラシー2」、「英語リテラシー1・2」、「プロジェクト」



レビュー講評会で発表を聴く2年生



3年生のレビューで企画班「頭取」（班長）がパンフレットを説明。右横はパンフレットのデータ制作者



3年生のレビュー展での個人発表。写真の学生はレビューでもプロジェクトでも地道かつ着実に動き、欠かせない存在だった。班のメンバーと教職員の信頼は特に厚い



プロジェクトで学生食堂運営会社（共栄食品）の社長と社員と交渉する2年生

ト1・2」等です。レビューと同様、リテラシー科目も課題が多く大変だったようです。

特に時間がかかり、苦労したのが

「プロジェクト2」です。今期はコロナ禍がどのようになるか予想がつかなかったため、東キャンパス内の改善をテーマにしました。改善したい物事を学生個々人が考えたうえで、7班に分かれ、付箋に記したもの模造紙（ビー紙）に貼ることで視覚化しながら話し合いました。アンケートやインタビューで調査をしながら改善案を出し、具体的な改善方法を試行し、ユーザーのフィードバックを受けつつラッシュアップしていました。時には班の中での役割分担等で躊躇ましたが、全体的に上手くまとめてくれました。今期は、東キャンパス内のWi-Fiマップ掲示、1階のトイレの案内表示、学生食堂と9号館1階のチラシ入れや掲示板の改善、5号館掲示板の貼替えと掲示物分類、9号館トイレの改善、学生食堂のライトメニュー、動画によるギャラリーへのアクセス案内を提案、実施しました。春休みや次年度にも発



プロジェクトで成果を発表・視聴する2年生と教員

展していくプロジェクトで、学内の改善に繋がるとともに、芸術教養の学内プランディングにもなります。何より学生が、これから先、地域社会や会社等でグループワークをする際に役立つことでしょう。

■ 1年生の後期授業

1年生も2年生同様、9月に前期のレビューの展示を行いました。ただし場所は東キャンパスのギャラリーでした。2年生の講評会と同日の午前、口頭発表を行いました。この時、3年生の田坂美夢さんが来場し、1年生の様子を見て、感想も述べてくれました。

1年生は後期もビジュアルとサウンドのリテラシーを涵養する授業があります。後期の実技はそれぞれ、谷野先生と岩上先生、



ビジュアルリテラシーでPC画面を熱心に見つめ作業する1年生

日栄先生と佐野先生がご担当くださいました。助手さんお二方も服部さんも引き続き、手厚くサポートしてくださいました。特に助手の中森さんと鈴木さんがいなければ単位を落としていた、という1年生が意外といふ



サウンドリテラシーで発表する1年生

です。リテラシー科目的講義としては「サウンド文化」が後期にあり、昨年度に引き続きオンラインでしたが、担当が成本先生に変わりました。「日本語リテラシー1」も後期に始まり、昨年度に引き続き水川先生が担当してくださいました。音楽の大学院生の濱元さんや飯室さん、助手の鈴木さんが手厚く指導補助にあたりました。再履修者の先輩達も1年生に親切だったそうです。

1年生は異文化体験のレポートでも苦労しました。昭和日常博物館（北名古屋市歴史民俗資料館）、名古屋市中区の東別院から大須近辺、知多半島の半田市という3カ所、計4日間の学外授業と、最終まとめのワークショップが土日になり、アルバイトや自動車学校の調整で困った学生もいました。学外授業をした翌週はその振り返り授業でした。大須と半田に関してはカウントした物事をグラフ化したうえで長文レポートにするタスクもあり、グラフ作成のアプリケーションソフトやオンラインサービスに慣れていない学生は特に辛かったことでしょう。しかし、レポートは大変な力作が多く、「卒業論文にもできるのではないか」と思われる秀作も散見されました。

■ 夏期読書課題

本領域では、1年次末から3年次末の春と夏の長期休暇中に書籍を読み、休暇明けにその概略を発表する課題も出しています。文章読解力は、「意味」を捉えられないAIには搭載が難しく、AIが発達していく社会で、人間にしかできない仕事と不可分です。また、長い文章を

読む力も若いときまでに身につけた方が良いと言われています。

今期は夏休みに読んだ本を3年生はレビューやセミナー、2年生はゲスト招聘授業の枠組み内で発表しました。いずれも教員側が指定した書籍の中から選びました。子どもも向けて思われているものの、かなり深い内容の『たのしいムーミン一家』、『ルドルフとイッパイアッテナ』、『長くつ下のピッピ』、『ばくがばくであること』、『星の王子さま』、『モモ』などや、『博士の愛した数式』、『そして誰もいなくなった』、『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』、『ソロモンの指輪--動物行動学入門』、『乳と卵』、『思いわずらうことなく愉しく生きよ』『生物と無生物のあいだ』、『断片的なものの社会学』などについて発表がありました。

■ 学生の課外活動

コロナ禍においても、学生たちはしなやかに対応しています。別項でも記したように、3年生は忙しい合間に縫い、4年生のための送別企画を考え、実行しました。本稿執筆時もさらなる企画を進めています。どの学年の学生も個々人の活動も非常に活発で、卒業研究や就職活動、就職に繋がるインターンシップ参加にも熱を入れています。

レビューは上記のとおり、授業を中心とした振り返りであり、制作物を提出する期限もあります。そのため、もっと自身の制作したものを展示したいという2年生が数名います。企画を巡り糾余曲折がありましたが、予算の見積もりや、領域内の公募にも応募し、ギャラリー使用の申請も済ませ、実行に向けて自主活動をしています。1年生も自分の課外活動を活発化しており、主体的に動く力を蓄えていると感心させられます。

■ 春休みと新年度に向けて

本稿執筆の2月上旬現在、通常の授業は終了しました。2月下旬の卒業・修了制作展での搬入・搬出、会場当番を残すのみです。また在学生には3月末にオリエンテーションが予定されています。合宿で運転免許を取る学生、アルバイトを集中的に入れ学費を貯める予定の学生、インターンシップに赴く学生、自主制作活動やレッスンを続ける学生などさまざまな計画を立てているようです。

教員からは、上記の「夏休みの読書課題」に引き続き、春休み中も読書をするよう連絡を入れました。1年生には初めての読書課題となります。1・2年生には引き続き教員が推薦した本から1冊を選んでもらいます。3年生は卒業研究に向け、研究テーマに関連のある本か、テーマが決まっていない人には関心がある本を自身で探してもらいます。これらは来年度前期の授業課題の一部として発表する予定です。読書に限らず、学生には春休み中、疲れた心身を休めるとともに、自身の成長につながる何かをしてもらいたいと思っています。

(芸術教養領域主任・茶谷薫)



異文化体験で訪れた半田市の旧中埜家住宅。2階で開催中の印刷会社のワークショップに参加する1年生

人間発達学部・子ども発達学科

今年度もコロナ感染予防の関係で、様々な制約を余儀なくされる中、創意工夫しながら学部独自の活動を進めてまいりました。その中からいくつかをご紹介させていただきます。

■ 小学校で自然学習カルタとり大会

3年専門演習の1つ「子どもの生活と教育ゼミナール」は今年度、4人の学生を総合的な学習と理科教育担当の2人で授業を担当することになったため、自然環境調査を通して子どもたちに還元できる活動に取り組むことになりました。春から秋にかけて大学周辺を散策し、動植物調査したり、摘んだ植物での遊びや調理活動も行ったりしてきました。その際に撮りためた画像や、知識・体験を最終的には「図鑑(冊子とCD)」と「写真カルタ」にまとめました。そして、それらを近隣の北名古屋市立師勝北小学校にプレゼントして自然学習に役立ててもらうことにしました。

その贈呈に当たり、5年生2クラスそれぞれで「カルタとり大会」をしてもらいました。初めは「お手続き」もあって「1回お休み」の子たちもいましたが、さすがに5年生です。1回目で動植物の特徴を捉えて、2回目は素早く、そして間違えなくお目当てのカードをとっていました。クラス代表の子からうれしい感想とお礼の言葉をもらえて、学生達もとてもやりがいを感じていました。



■ 就職支援セミナー

12月4日、人間発達学部の就職支援セミナーが、2・3年生を対象に開催されました。近年、一般企業だけでなく、幼稚園教諭や保育士などの採用時期も早まっており、例年より一ヶ月以上早い日程となりました。就職・進路について、早い段階で学生に意識を持ってもらい、希望する進路に確実に進むための準備を始められるよう支援しています。全体会で就職・進路に対する意識を喚起し、その後、小学校、幼稚園・保育園、福祉施設、一般企業・公務員・大学院といった、学生が希望する進路に沿った4つの分科会に分かれて講演会を行いました。今年度の採用を決めた先輩や、現在その職業で働いている卒業生を招いて、どのような進路を決めたのか、どのような準備が必要か、など様々な有意義な話をもらふとともに、学生の様々な疑問に応える機会となりました。今年度は、初めての試みとして、同窓会の協力を得て、10年以上教員



をされている方など、経験豊富な頼もししい卒業生の話もあり、学生にとってとても良い刺激



となったことでしょう。このセミナーでの経験を活かし、生それぞれがしっかりと進路を見定め、夢を実現してくれるこことを応援したいと思います。

■ ホームカミング

今春卒業した学部出身生が、卒業後どのように社会人として活躍しているのかを知るとともに励まそうと、今年度も「ホームカミング」を行いました。今年度は久しぶりに対面式で実施できることになり、ボトル茶やお菓子なども用意して、楽しく懇談できるように準備も進めました。

今年度は、小学校で図画工作講師として頑張る卒業生と、保育士として頑張る卒業生3人が参加しました。在学中も仲良しのメンバーでしたが、卒業後に会うのは初めてとのことで、再会を喜び合っていました。

初めに卒業後の様子を話してもらいました。それぞれに、ボランティアや実習で行った時とは違い、責任感をもって日々保育することの大変さが語られました。中には、職場の人間関係で戸惑っていたり、小学校教員では非常勤講師の仕事をしながら本採用に向けての勉強も両立させようとしていたりするために苦労している様子も語られていました。それでも4人ともにやりがいを感じていて、これからも引き続き現在の仕事で頑張ろうという意欲も感じられました。

参加した関わり深い教員から、それぞれに励ましのメッセージが贈されました。これからも名古屋芸術大学人間発達学部卒業生としての活躍に期待したいです。

■ 絵本土資格取得を力に「おはなし会」開催

昨年度から認定絵本土資格が取得できる講座「子どもと絵本1・2」の授業がスタートしました。本資格は、30講座を受講し、課題をやり切った学生達に認定されます。昨年度30人が資格認定されました。そのうちの16人はその後卒業をし、現在保育士等として講座で得た技能と知識を生かしてくれています。

まだ大学に残っている14人には、「絵本土資格取得を力に地域で「おはなし会」を開催しよう」と呼びかけてみました。その結果、現2年生取得者が「みつば」というグループを結成して、地域からの要請の機会を待っていました。そこへ、名古屋みなと蔦谷書店より「クリスマスイベント」開催のお誘いがあり、音楽領域生のコンサートと合わせまして、おはなし会として「みつば」が参加することになりました。

要請があつてからの1か月、合同で練習できる日取りを苦労しながら確保し、演奏が得意なメンバーも加わって、「手遊び」「絵本の読み聞かせ」「パネルシアター」「クリスマスソング」で30分の「おはなし会」企画を立て、練習を進め

てきました。授業担当教員からもアドバイスをもらって、初公演にふさわしいものへと形づくられてきました。

年末の12月17日(日)名古屋みなと蔦谷書店には、開演前から小さな親子連れが席に座り始めました。雰囲気を盛り上げようと急遽クリスマスソング演奏も加え、会場を和ませていると、開演時間には30人ほどの親子でミニ会場はいっぱいでした。初めての公演で緊張もしていましたが、学習と練習の成果を生かして見事に30分、集まった親子を魅了しました。公演後、蔦谷書店の方からも褒められるとともに、次回企画への参加依頼も受けっていました。



2022年4月 「教育学部・子ども学科」スタート

人間発達学部・子ども発達学科は、来年2022年4月の入学生から、教育学部・子ども学科と名称を変え、4年間の新しい学びを展開いたします。前会報(71号)に引き続き、ここで2年次に分かれる7つのコースで身に付ける力(身に付く力)をご紹介いたします。

■ 小学校教育コース

- 教育の理論や支援の方法について系統的・実践的に学び理解する。
- 地域の学校現場における教師や児童との関わりを通して実践的な指導力を身に付ける。
- 今日的な教育課題の本質をとらえ、職場の同僚や保護者、地域の人々と協働して検討し解決しようとする態度を身に付ける。

■ 子ども英語コース

- 子どもの第二言語習得、英語学の基礎、英米児童文学、小学校英語教育に関する知識を論理的・体系的に理解することにより、小学校英語を専門的に指導する力を身に付ける。
- 歌やチャンツ、ゲームやプレゼンテーションなど実践的・対人的活動の訓練を積むことにより、外国語によるコミュニケーションの楽しさを伝える力を身に付ける。
- グローバル社会における多様な言語や文化、価値観を理解することによって、物事をさまざまな観点から思考・判断し、異なる価値観や異文化を尊重し認め合う態度を身に付ける。

■ 子どもICTコース

- ICTや先端技術のメリット、デメリットを正しく理解するとともに、それらを活用した授業方法、情報モラル教育などに関する専門的知識を身に付ける。
- ICTに関する確かな知識を持ち、激しく変化していく今日的教育課題に適格に対応できる高度なICT活用スキルや子どもたちにICTの正しい活用法を適切に指導できる力を身に付ける。
- 子どもの豊かな学びの実現に向けて次世代の新しい教育の在り方を創造し、ICTを効果的に活用した授業方法を提案・改善できる力を身に付ける。

■ 子ども創作・表現コース

- 芸術の楽しさを伝えることで、子どもとのコミュニケーションを深め、他教科・領域との関連を理解する。音楽分野、図画工作分野に対する知識と、その教育的な意義を理解する。

○実際の教育での現場で実践を通して、子どもたちに芸術の楽しさを伝える力・芸術指導の力・感性を育む力を身に付ける。

○芸術大学ならではの環境の中で、様々な芸術活動に向き合うことにより、自分の豊かな感性と表現のスキルを磨き、豊かな芸術的感性を兼ね備えた思考力・判断力・表現力を身に付ける。

■ 幼児教育・保育コース

- 保育における適切な環境構成と援助、人間関係の構築や保育者の役割、そして、指導計画の意義や作成の仕方について幅広い知識を身に付ける。
- 実習やボランティア活動、附属園等での活動を通し、保育者としての実践的な資質を培うとともに、信頼関係を大切にした子ども一人一人との関わり方を身に付ける。
- 子どもの発達や保育における諸課題に対し、仲間と協働しながら、課題の本質を押さえつつ、新しい発想や仕組みを活かして解決しようとする姿勢を身に付ける。

■ 子ども支援コース

- 乳幼児期から青年期までの児童福祉に関して総体的に理解し、子どもに関連する社会の諸課題を捉え、支援の理論や多様な援助、アプローチに関する知識を身に付ける。
- 支援過程において子育て支援・子ども家庭福祉の視点を持ち、地域の多様な機関と連携できるコミュニケーション力を身に付ける。
- 子どもの個性を尊重し、一人一人の豊かな育ちを保障する支援について深く考え、そのあり方について多角的に考え、判断できる力を修得する。

■ 子ども健康・スポーツコース

- 幼児の健康と運動あそびが心身の発達にもたらす効果、生涯にわたる健康づくりにつながる重要性等についての専門的な知識を身に付ける。
- 保育・教育現場での経験を通し、発達や環境、状況に応じた指導方法についての実践的技能を身に付ける。
- 生涯にわたる健康づくりへつながる発達に応じた多様なアプローチを考える力を身に付ける。

TOPICS



QRコードがある記事については、そこから「名古屋芸大グループ通信」の詳細記事をご覧いただけます。



人間発達学部 子ども発達学科(2022年4月 教育学部子ども学科に変更) 認定絵本士の学生グループによる「おはなし会」を開催!

2021年12月19日(日)、大型ショッピングモール「ららぽーと名古屋みなとアクリス」内にある「名古屋みなと 蔦屋書店」のクリスマスイベントとして、学生グループ「みつば」による絵本のおはなし会が開催されました。学生グループ「みつば」は、本学で2020年度からスタートした認定絵本士養成講座をすべて修了し、見事「認定絵本士」資格を取得した学生たちを中心に結成された絵本の読み聞かせグループです。メンバーたちは「初公演でドキドキする」といながらも、この日のために練習してきた「手遊び」や「絵本の読み聞かせ」、「パネルシアター」、「クリスマスソング」を披露。子どもたちはもちろん、親御さんや買い物で通りかかった周りの方まで思わず笑顔を見せていました。



また、今回のおはなし会では、本学大学院音楽研究科を修了した新進の演奏家3名によるミニ演奏会も一緒に催され、定番のクリスマスソングメドレーから聴き馴染みのある曲まで、たくさんの子どもたちに演奏を楽しんでもらいました。

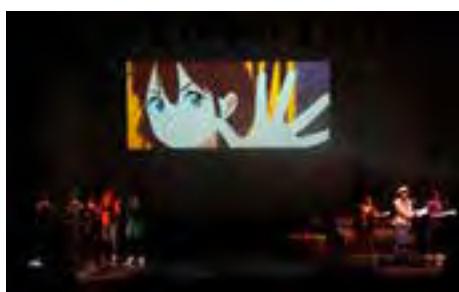
なお、「名古屋みなと 蔦屋書店」では2019年から毎年、12月の店内のクリスマス装飾を本学美術領域の学生たちが手掛けています。華やかで温かみのある装飾に囲まれながら開催された今回のクリスマスイベントは、まさに名古屋芸術大学の魅力があふれる一日となりました。



芸術学部 音楽領域

声優アクティングコース1期生による卒業公演を開催!

2021年11月14日(日) 東キャンパス3号館ホールにて、声優アクティングコース卒業公演「2.5次元舞台 COLORS 彩られた世界へ」が行われました。本公演は、2018年度からスタートした声優アクティングコースにとって初の卒業公演であり、1期生が過ごした4年間の集大成です。



舞台のストーリーは本学美術学部(当時)卒業生が手掛けた自主制作アニメを原作とし、脚本から楽曲、ステージの音響や照明、舞台美術、フライヤーまで、領域やコースを越えて、すべてが名芸生により手掛けられました。

なお、公演の第2部では見応えある殺陣アクションが繰り広げられ、第3部では声優アクティングコースで結成されたアイドルユニット「iCANDY」(アイキャンディ)の1~3年生メンバーによるステージが披露されました。元気いっぱいのパフォーマンスを通して、卒業を控える4年生に向けて、後輩たちからこれまでの感謝とエールが贈されました。

芸術学部 舞台芸術領域

第1期1年生「ダンス作品のための企画提案」展を開催!

2022年1月7日(金)~12日(水)に、東キャンパスArt & Design Center Eastにて、舞台芸術領域1年生による「ダンス作品のための企画提案 - Proposal for the Dance」展が開催されました。



現在、舞台芸術領域では「プロジェクトワーク」の授業を通してダンス作品の製作を進めており、今回の展示では、その公演に向けて全6グループによる構想が発表されました。舞台美術と照明シーンのイメージ模型(マケット)や音楽のセットリスト、チラシなどが展示され、今後はこれらの構想を下地として、2022年夏での上演(名古屋芸術大学アートスクエア予定)に向けて実際に制作が進められることになります。学生たちが題材の原作に真剣に向き合い、練り上げた構想が果たしてどんなダンス作品となって幕を開けるのか、大変楽しみです。





芸術学部 美術領域

名古屋東急ホテル「芸大生の〈Show Case〉」に出展!

名古屋東急ホテルでは、2021年9月から企画展「芸大生の〈Show Case〉」が開催されています(2022年8月まで予定)。本企画は同ホテル2階のレストランフロア廊下にある6つの展示ブースを使用して、県下の芸術系3大学(名芸大・県立芸大・造形大)が持ち回りで作品を展示するものです。本学の担当期間は10月~12月までの3ヶ月間で、10月は日本画コース、11月はアートクリエイターコース(現コミュニケーションアートコース)、そして12月はデザイン領域とともに工芸分野の作品展示を行いました。日頃慣れている設備の整ったギャラリーとは異なる展示場所に、当初は戸惑いながらも工夫してなんとか作品を展示し終えると、学生たちは「こうした場所で展示することは初めてで、すごくうれしい」「額装して飾ってみると違う作品に見える、自分の作品の新たな面を見発見したような気持ちです」などといった充実した声が聞かれました。



芸術学部 デザイン領域

国内最大級の伝統的工芸品の祭典「KOUGEI EXPO IN AICHI」に出展!

デザイン領域メタル & ジュエリーデザインコース、テキスタイルデザインコースでは、美術領域工芸コースとともに2021年度から「工芸分野領域横断」を推し進めています。その取り組みの一環で「工芸 EXPO プロジェクト」として、愛知県の伝統産業である「三州鬼瓦」、「有松・鳴海絞」、「尾張七宝」とコラボレーションしながら作品制作を進めてきました。そして完成した作品は、2021年11月27日



(土) ~ 29日(月)の3日間、愛知県常滑市のAichi Sky Expo(愛知県国際展示

場)で開催された国内最大級の伝統的工芸品の祭典「KOUGEI EXPO IN AICHI」(第38回伝統的工芸品月間国民会議全国大会)にて発表、展示されました。KOUGEI EXPOという晴れやかな舞台で、多くの来場者に作品を見ていただいた経験はもちろん、このプロジェクトを通して学生同士、そして学生と伝統工芸の分野や領域を越えたつながりも生まれ、非常に有意義なプロジェクトとなりました。

芸術学部 芸術教養領域

「芸術と社会」の授業成果がアートラボあいちの冊子に!

「芸術と社会」(松村淳子先生担当)の授業では、アートと社会とを結ぶ芸術教養領域のコンセプトを基に、芸術と社会との

つながりをさまざまな角度から学んでいます。

2021年度は、調査や議論、現場見学を通して「30年後の社会にとって必要な拠点としてのアートセンターと、そこで行うアートプロジェクト」を学生が企画しました。

学生たちが成熟した大人になった30年後、どのようなアートセンターがあれば自分たちにとってより良い社会にできるのか、三者三様の成果が生まれました。

このたび、その成果を冊子「30年後のアートセンターとプログラムをかんがえる」としてまとめました。この冊子は、現場見学や口頭発表でお世話になった「アートラボあいち」(愛知県庁大津橋分室2・3F)の図書閲覧コーナーに配架されています。みなさまどうぞご覧ください。



大学へのお問い合わせ先一覧

お電話の受付時間 平日 9:00 ~ 17:30 (長期休業期間を除く)

お問い合わせ内容	担当部署名	電話番号
入試・進学に関すること オープンキャンパス・キャンパス見学等に関すること 留学・国際交流に関すること	広報部	0568-24-0318
授業や履修、単位等に関すること 学生生活、奨学金に関すること	学務部教務チーム	東キャンパス 0568-24-0321
		西キャンパス 0568-24-4174
各種実習(教育実習・保育所実習など)に関すること	学務部学生支援チーム(教職担当)	東キャンパス 0568-24-3010
		西キャンパス 0568-24-0329
就職やインターンシップに関すること	学務部学生支援チーム(就職担当)	東キャンパス 0568-24-3962
		西キャンパス 0568-24-0329
学納金に関すること	業務部財務・経理チーム	東キャンパス 0568-24-0316
		西キャンパス 0568-48-0201
証明書や学割の発行等に関すること	学務部教務チーム・学生支援チーム	東キャンパス 0568-24-0321
		西キャンパス 0568-24-4174
本学主催の演奏会、公演等に関すること	業務部総務チーム(演奏担当)	0568-21-5141
本学主催の作品展、展覧会等に関すること	アート&デザインセンター	0568-24-2897
学生の採用、求人に関すること インターンシップに関すること	学務部学生支援チーム(就職担当)	東キャンパス 0568-24-3962
		西キャンパス 0568-24-0329
図書館の利用や貸出・返却に関すること	図書館	東キャンパス 0568-26-3121
		西キャンパス 0568-26-1281
科目等履修生に関すること	学務部教務チーム	東キャンパス 0568-24-0321
		西キャンパス 0568-24-4174
教員免許状更新講習に関すること	学務部学生支援チーム(教職担当)	東キャンパス 0568-24-3010
		西キャンパス 0568-24-0329
生涯学習センター		0568-24-0359
大学HPや大学広報に関すること	広報部	0568-24-0318
後援会に関すること	名古屋芸術大学後援会事務局	0568-26-3355
名古屋芸術大学(代表)への問い合わせ	代表	東キャンパス 0568-24-0315
		西キャンパス 0568-24-0325

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお答えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女・ご子息の「学籍番号」の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお答えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることが出来ませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

名古屋芸術大学後援会会則

第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。

第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
- (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
- (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。

第4条 本会は名古屋芸術大学学生(大学院生を含む)の保護者または、これに代わる者及び理事会が認めた本学卒業生の保護者、並びに本会の趣旨に賛同する企業または事業主等(以下、「賛助会員」という。)をもって組織する。

第5条 本会に役員及び理事をおく。

1 役員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 会長1名
- (2) 副会長4名
- (3) 監事1名
- (4) 会計監査2名
- (5) 書記1名
- (6) 会計1名

2 本会に理事若干名を置く。

第6条 本会の役員及び理事の選出は次の方法による。

- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1か年とする。但し再任は妨げない。
- 2 理事の選出は、理事会において会員の中から選出する。

(1) 理事の任期は1か年とする。但し再任は妨げない。

第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
- (2) 監事は会務を監査する。
- (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。

第8条 本会の会議は総会、理事会とし、議長はその都度選出する。

第9条 定期総会は原則として年1回、会長が召集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。

第10条 総会は次の事項を審議・決定する。

- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関する事。
- (2) 会則の改定、会の解散に関する事。
- (3) 役員の選出、その他役員が必要と認めた事項。

第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した過半数をもって議決する。

第12条 理事会は出席役員・理事で成立し、会長が召集、議事は出席役員・理事の過半数で議決する。理事会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。

第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。また、必要に応じて理事会の承認を得て新たに委員会を設置することができる。

- (1) 総務委員会
- (2) 事業委員会
- (3) 広報委員会

第14条 委員会に委員長1名、副委員長2名以内および委員若干名をおく。

委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は理事のうちから理事会の同意を得て会長が指名する。

第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。

第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降大学院生までは年額10,000円とする。賛助会員の会費は別途定める。

第17条 本会の会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

第18条 本会則の運営に必要な事項は、理事会の議を経て会長が定める。

附則

- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
- 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
- 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
- 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
- 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。
- 6 本改正会則は令和2年7月5日から実施する。

後援会表彰規程(抜粋)

(目的)

第2条 この規程は、後援会表彰を公正かつ円滑に行うとともに、後援会員(顧問含む)、学生、教職員の功績をたたえることで、後援会活動に対する意欲向上、士気の高揚および後援会事業の改革・発展を促すことを目的とする。

(選考基準)

第4条 後援会員、学生または教職員の個人あるいはグループが次の各号の一つに該当するときは、これを表彰する。

- (1) 後援会活動に誠実で、特に他の会員の模範となるとき
- (2) 永年にわたり後援会活動への貢献が顕著なとき
- (3) 学業成績が著しく優れ、または各種コンテストで上位入賞したとき
- (4) 国家的・社会的功績があり、後援会および大学の名誉となるような行為があつたとき
- (5) その他前各号に準ずる行為または功績があり表彰すべきであると認められた場合(以下省略)

附則:この規程は令和2年7月5日から実施する。

後援会旅費規程(抜粋)

(目的)

第1条 本規程は、名古屋芸術大学後援会の役員、理事および会員の用務出張に要する旅費に関する事項を定める。

(旅費の種類)

第2条 旅費の種類は、鉄道賃、車賃、船賃、航空賃、日当および宿泊料とする。

(旅費の経路と計算)

第3条 旅費は自宅または名古屋芸術大学を基点とし、一般的な最短順路によって計算する。ただし、用務の都合または天災その他やむを得ない理由で順路を経由し難い場合には、現に経過した路線によって計算する。(以下省略)

附 則

この規程は、令和2年7月5日から施行する。

名古屋芸術大学後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学後援会の顧問は、原則として、理事会の承認に基づき会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会の承認を得るものとする。

附則:この内規は平成17年4月1日から適用する。

附則:本改正内規は令和2年7月5日から適用する。

名古屋芸術大学後援会 呂慰に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、呂慰金10,000円を給付する。
2. 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、呂慰金10,000円を給付する。
3. 役員および理事の2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、呂慰金として10,000円を給付する。
4. 呂慰金の給付については、事由の発生から1年内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会に事後報告する。

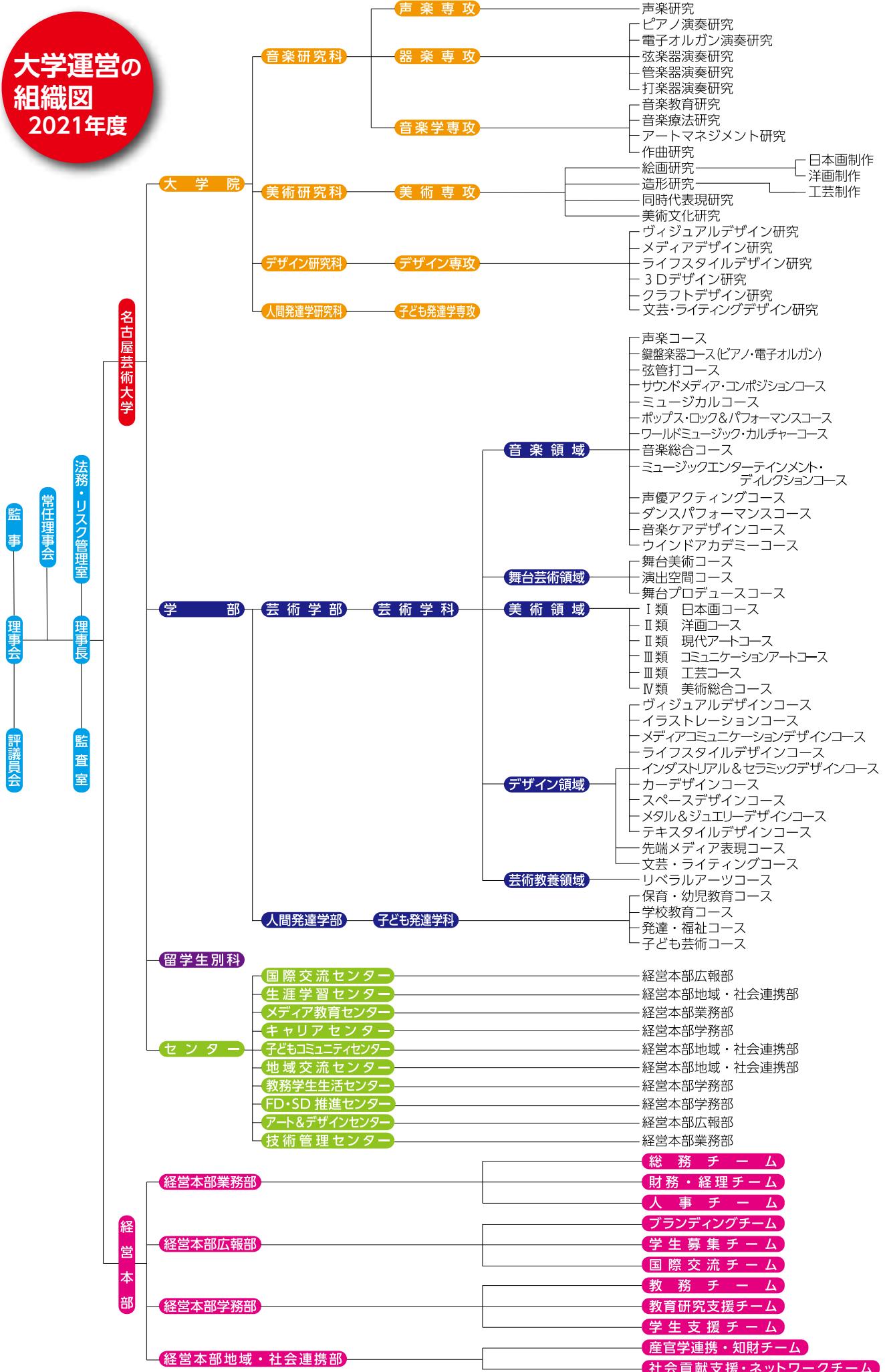
附則1. この内規は慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. (略)。附則3. この改正内規は、令和2年7月5日より施行する。



Challenge to the future BORDERLESS

**大学運営の組織図
2021年度**



「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の有志により「みんなで歌を歌って楽しもう」と1996年から活動している合唱サークルです。美術部の絵画サークル「壁の華」より数年後に始まりました。今では、両方の会員になって活動している方もいます。

「せせらぎ」とは、小川の流れや音です。合唱は一人の声は小さく弱いのですが、仲間の声を聞き、合わせると素晴らしいハーモニーが出来ます。心が楽しく、気持ちが浮き立ってきます。皆様も聞き覚えのある曲を江端先生の編曲で15名位の団員で歌っています。発声練習をして「夏の思い出」や「夏は来ぬ」を二部合唱で歌ったりしています。月1回の練習で音程がとれない時もありますが、仲間の声に助けられて皆で頑張っています。

2019年は芸大祭にも参加しました。声を出すことで、健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、是非とも加わってください。お待ちしています。

現在は、新型コロナウィルスの感染対策をしながら、練習を再開しています。



【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分までの1時間30分

【場所】

主に東キャンパス4号館の3階の多目的ホールで行なっています。

【指導者】

本校の卒業生である山田正丈先生と江端智哉先生により、発声の仕方から各パートの音取りを懇切丁寧に教えて戴いています。

問い合わせ先

会長 平井 友明

副会長 近藤 結花

e-mail : jhonsunuputi38@gmail.com



絵画グループ「壁の華」会員募集

この「壁の華」は、名古屋芸術大学後援会の有志によって活動を続けている絵画グループです。毎月一回大学の施設をお借りして大学の先生により丁寧な指導をして頂いております。油彩、水彩、日本画を中心に、昨年からは水墨画についても教えて頂けます。そして、制作された作品を名古屋市民ギャラリーに展示して、皆様に鑑賞して頂いております。今年で第27回目の展覧会を開催しております。

この他にスケッチ会、鑑賞会等もあります。最近、若い会員の方に入会していただき、益々賑やかなグループとなりました。是非、後援会の皆様も「壁の華」の会に入会して頂き、絵画の制作をお楽しみ下さい。



【活動状況】

- 1、月例会（月額会費：1,000円）
日時：毎月第3日曜日午後2時～4時
場所：名芸大西キャンパス 講義室
- 2、グループ展（27回継続中）
日時：毎年5月上旬（一週間展示）
場所：名古屋市民ギャラリー 7F
- 3、スケッチ会 11月を予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

問い合わせ先

会長 石黒 和広

運営委員長 森部 みや子

e-mail : kabenohana.nua@gmail.com



●発行日 令和4年(2022年)3月31日

●発行人 矢野 章子

●編集 名古屋芸術大学後援会広報委員会
(江上友加里、柳沼章子、橋本博文、渡邊綱夫)

●発行所 名古屋芸術大学後援会

〒481-0006

愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

名古屋芸術大学(東キャンパス)12号館6階

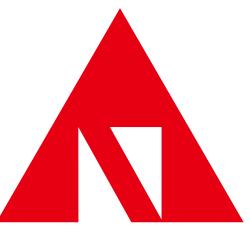
tel : 0568-26-3355 fax : 0568-26-2101

e-mail : kouenkai@nua.ac.jp

●印刷所 有限会社 住吉出版社

[無断転載禁止]

本誌掲載の記事(表紙、本文、図表、写真、イラスト等)を本会及び著作権者の承諾なしに無断で転載(翻訳、複写、データベースへの入力、インターネットでの掲載等)することを禁じます。



NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

Challenge to the future **BORDERLESS**

名古屋芸術大学後援会会報

名古屋芸術大学後援会事務局
〒481-0006
愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地
TEL.0568-26-3355
FAX.0568-26-2101
E-mail:kouenkai@nua.ac.jp

【編集後記】

2020年、新型コロナウイルス感染症拡大の危機に臨んで当時の後援会菊井政右衛門会長は大学に対し、「緊急学生支援対策の申し入れ」を行い、全学生一律5万円の特別奨学金支給を実現させました。その行動力は矢野章子現会長に受け継がれ、総務委員会・事業委員会を中心に、困窮学生に対する食料品・日用品・生理用品等の無償支援活動(チア・プロジェクト)の実現へと結実しています。また広報委員会が担当する「後援会報」は後援会創立50周年を機にフルカラーで生まれ変わり、今では大学とご家庭をつなぐ無くてはならない“懸け橋”として、会員の皆様から感謝のお声を頂いています。学生生活の一層の充実と名古屋芸術大学の益々の発展のために、もっと読み易く愛される「会報」作りを目指します。新型コロナウイルスのまん延で大変な毎日が続いますが、挫けすことなく、力を合わせて頑張りましょう。

名古屋芸術大学後援会 副会長（広報委員長） 江上 友加里